高知県立大学年報

令和3年度

高知県立大学

目　　次

I　理念・使命・方針
1　高知県立大学の理念 ･･･ 1
2　使命 ･･･ 1
3　基本方針 ･･･ 1

II　沿　　革
1　概要 ･･･ 3
2　沿革図 ･･ 3
3　主要年表 ･･･ 4
4　名称及び所在地 ･･ 7

III　組織及び教職員
1　組織 ･･･ 8
2　教員（令和３年度） ･･ １２

IV　教育及び研究
1　学部・大学院の概要（３つの方針） ･･････････････････････････････ ２８
2　受講者の状況 ･･･ ５４
3　科目等履修生・特別聴講学生・研究生の状況 ･････････････････････ ６８
4　教員免許状取得状況・国家資格等合格状況 ･･････････････････････ ６９
5　学位及び大学賞・学長賞等の授与状況 ･･････････････････････････ ７０
6　ＳＤ・ＦＤ活動実施状況 ･･････････････････････････････････････ ７８

V　学　　生
1　行事実績 ･･･ ８４
2　入学の状況 ･･ ８６
3　学生数（令和３年５月１日現在） ･･････････････････････････････ ８９
4　休学・退学・修業年限を超えて在籍する学生数及び単位互換の状況 ･･････ ９０
5　課外活動 ･･･ ９２
6　授業料等の納入状況 ･･ ９３
7　日本学生支援機構奨学金受給状況（令和４年３月１日現在） ･･････････ ９４
8　卒業（修了）者状況 ･･ ９５

VI　総合情報センター
1　概要 ･･･ ９７
2　組織・委員会 ･･･ ９７
3　図書等受入状況 ･･ ９８
4　図書館利用状況 ･･ ９９
5　学内ＬＡＮ状況 ･･ ９９

VII　地域教育研究センター ･･････････････････････････････････････ １００

VIII　健康長寿センター ･･ １０６

IX　健康管理センター ･･ １１０

X　国際交流
1　正規学生（留学生）数の推移 ･･ １１５
2　協定校数の推移 ･･ １１５
3　協定校一覧 ･･ １１５
4　協定大学への派遣実績 ･･ １１５
5　協定大学からの受入実績 ･･ １１６
6　外国人学生に対するプログラム ･･ １１６
7　海外機関との共同研究・教育事業支援 ･･････････････････････････････････････ １１６
8　本学学生への留学・奨学金等の支援 ･･ １１６
9　地域連携活動 ･･ １１７

XI　開かれた大学
1　公開講座等実施状況 ･･ １１８
2　学会役員等の状況 ･･ １２０
3　学外提供用刊行物作成状況 ･･ １３４

XII　財　　務
1　はじめに ･･ １３６
2　貸借対照表 ･･ １３６
3　損益計算書 ･･ １３８
4　その他の主要諸表 ･･ １４０
5　外部資金導入の状況 ･･ １４１
6　学長助成事業等の状況 ･･ １５２

XIII キャンパス
1　土　　地 ･･ １５３
2　建　　物 ･･ １５３

Ⅰ　理念・使命・方針

１　高知県立大学の理念

本学は、平和な社会の発展及び人々の生活の質向上に向け、知の創造に寄与する学術研究を行うとともに、地域志向の教育研究を通じ、地域の文化の発展と健康・福祉の向上に貢献することを理念とします。

２　使命

これまで本学は、学生の主体的な学びと他者を尊重する姿勢を育み、地域に開かれた知の拠点として、地域社会の課題解決に貢献する教育研究活動を展開してきました。この歴史を継承し、人口構造の変化、科学技術の発展、グローバル化の進展など、急激な変化の中で社会の要請に常に応えつつ、未来を拓く実践力を育成する大学、知識基盤社会を支えていく新たな知を創出する大学、地域と共に育ち地域に育てられる大学を目指します。

「多様性の尊重」、「連携の強化」、「戦略的な挑戦」を大学運営の基盤とし、恒常的な評価活動を行いながら、教育改革の推進、学術研究の質向上、社会連携活動の強化に取り組みます。

３　基本方針

1. 学生受入れの方針を定め、多様な学生を受入れ、豊かな人間性と倫理観を育む教育を行います。
2. 本学の伝統を紡ぎつつ、学生中心の教育、自己実現を支える教育を通して、未来社会を生き抜くことができる人材を育成します。
3. 最新の学術の動向を踏まえて、学術力・研究力を高め、産学官民との連携を推進し、専門性を追求する研究や実践的研究に挑戦的に取り組み、創出した知を社会に還元します。
4. 地域志向の教育研究活動を展開し、地域の人々と協働して、グローバル社会、持続可能な社会、多様で豊かな社会、安全・安心な社会づくりに取り組みます。
5. 社会の変化や県民のニーズを踏まえ、社会との接続を常に意識し、社会の期待に応える大学として機能を果たします。
6. 学部・大学院・センターの力の結集や教職協働の推進に戦略的に取り組み、知識基盤社会を支える知の拠点としての役割を果たします。

教育の方針

1. 幅広い教養と専門的な知識を活用して課題をグローバルで複眼的な観点から分析し探究できる人材を育成します。
2. 地域の文化の発展と健康・福祉の向上に向けて活躍できる人材を育成します。
3. 地域志向の教育を通して、地域社会や現場の課題を人々と協働して解決できる人材を育成します。
4. 大学院においては、専門性に基づいて変革をもたらす実践的な知のプロフェッショナル（高度専門職業人・研究者・教育者）を育成します。

学生支援の方針

1. 一人ひとりの学生が自らの専門性を高め、その人らしく自己実現ができるよう、多様な学生のニーズに応える教育支援を行います。
2. 学生との対話を重視し、学生が主体的に学ぶことができるよう、教職協働で教育環境を整えます。

3. 心身ともに健康で安心して学業に専念し、豊かな人間性を育むことができるよう、学生生活への支援を行います。

学術研究の方針

1. 専門領域の発展・知の創造に向けて、関連機関と協働して、教員の多様な研究志向を尊重しつつ、専門的研究、学際的研究及び国際的研究を推進し、その成果を社会に発信します。
2. 地域の文化の発展、健康・福祉に関わる課題の解決に向けた実践・地域志向の研究を戦略的に推進し、地域社会の研究拠点としての役割を果たします。

社会連携の方針

1. 知の拠点として、地域の文化の発展と健康・福祉の向上に向けて、県民の学び直しや専門職者のキャリア向上に取り組みます。
2. 域学共生の理念のもと、地域との協働体制を強化し、課題解決や活性化に地域のみなさまと共に取り組みます。
3. 地域や産学官民との連携を図り、南海トラフ地震などの災害への対応や健康長寿県の実現に向けた健康福祉に関する活動を積極的に行います。

国際交流・連携の方針

1. 海外の提携大学を拡大し、国際交流の活性化、教育・研究の国際化を推進します。
2. 地域社会に根ざした国際交流・国際連携を推進し、地域社会と世界をつなぎ、外国人材の受入れや共生社会づくりを支援する拠点としての役割を果たします。

II　沿革

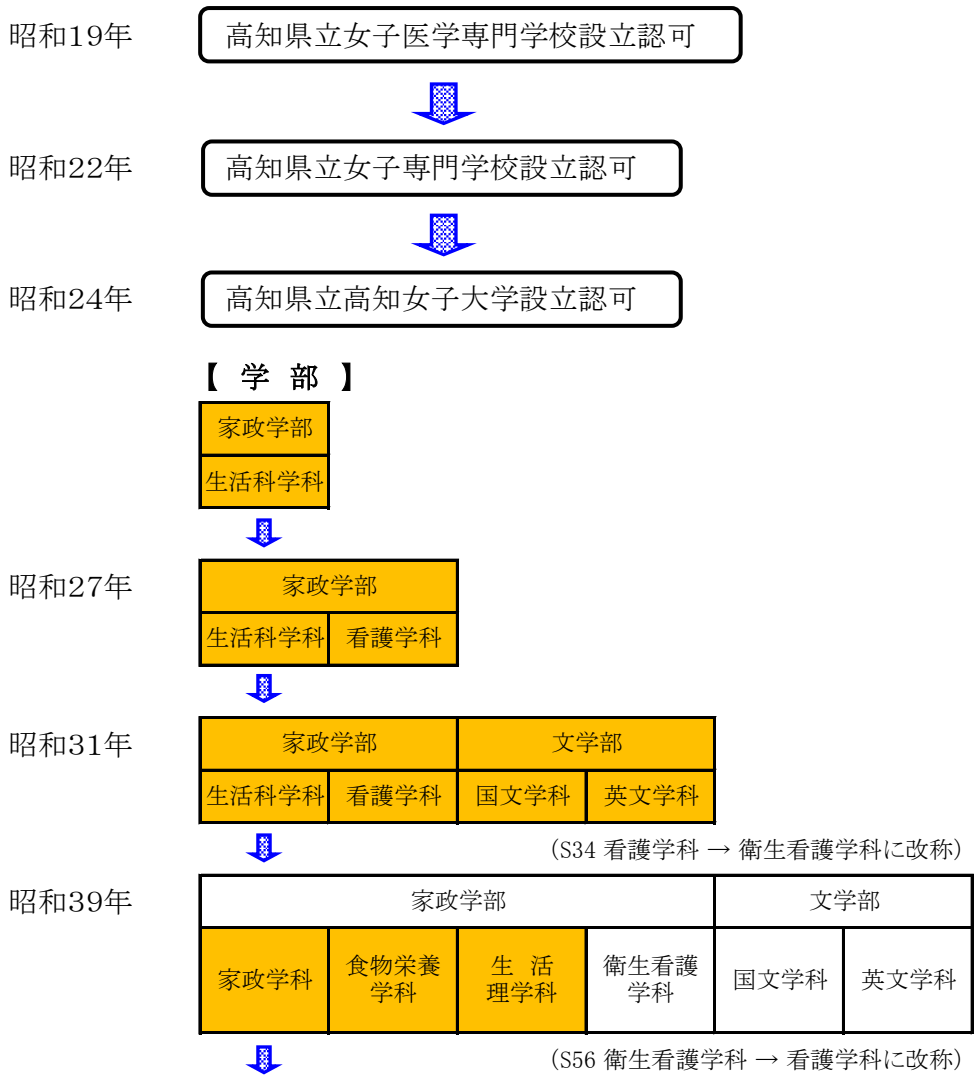
1　概要

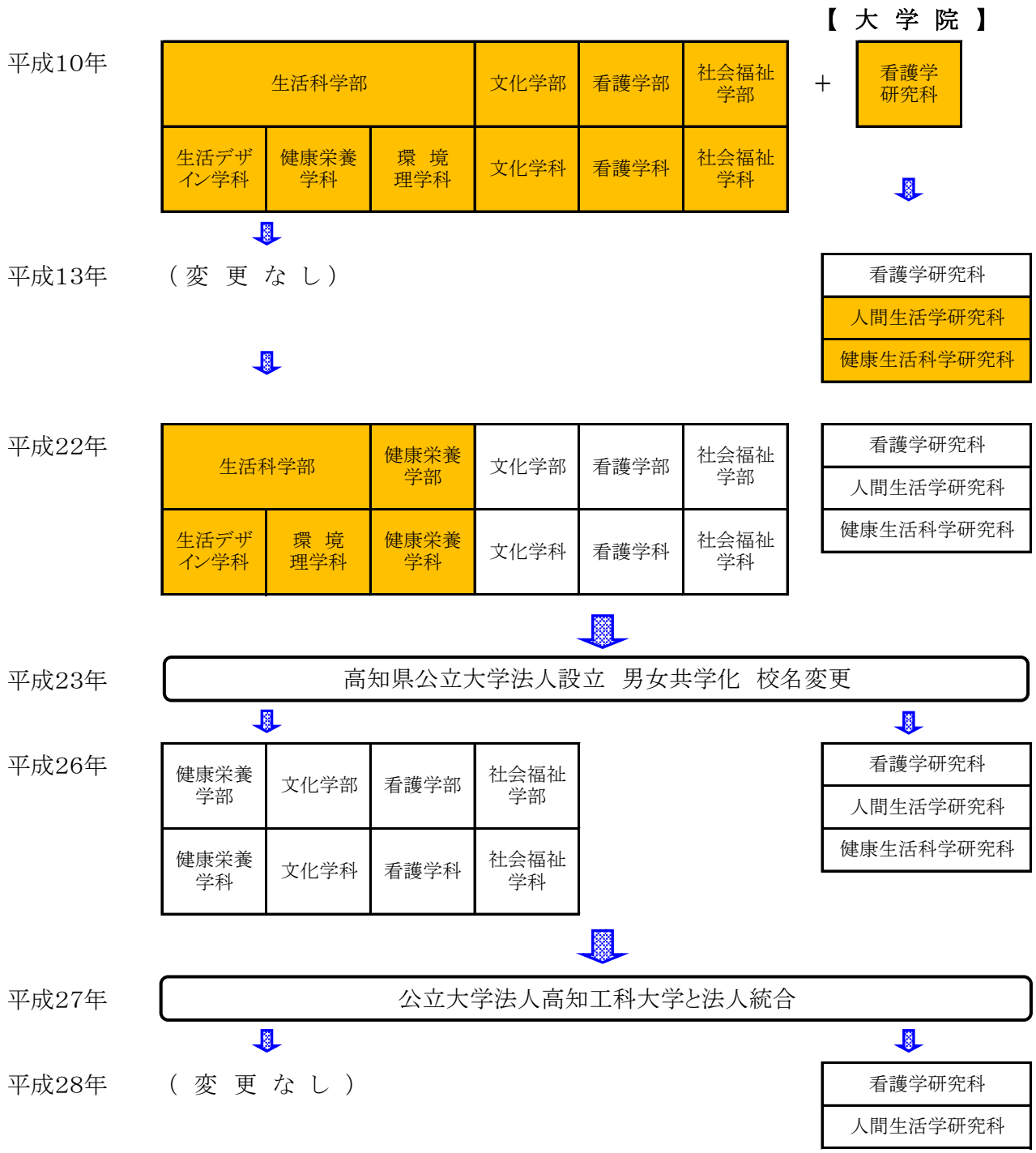
高知県立大学は、高知県立女子専門学校（昭和22年設立認可）を母体とする、家政学部生活科学科の単科大学である高知女子大学（昭和24年設立認可）を前身とする。その後、昭和31年に文学部を新設して2学部体制となった。

平成10年4月には、21世紀を展望し、教育文化の拠点として地域とともに発展する大学を目指して大規模な改組を行い、生活科学部・文化学部・看護学部・社会福祉学部の4学部6学科体制となるとともに、大学院看護学研究科を新設した。平成22年には、生活科学部食物栄養学科が健康栄養学部健康栄養学科へと学部に昇格した。平成26年4月には生活科学部を廃止し、平成28年3月には健康生活科学研究科を廃止し、看護学研究科及び人間生活学研究科をそれぞれ博士前期課程と博士後期課程からなる体制へと変更を行った。

平成23年には公立大学法人化を行い、男女共学化とともに、名称も高知女子大学から高知県公立大学法人高知県立大学へと校名変更を行った。平成27年には公立大学法人高知工科大学と法人統合を行った。

2　沿革図





3 主要年表

昭和19年12月29日	高知県立女子医学専門学校設立認可
昭和20年 8月 8日	高知県立女子医学専門学校開学式及び入学式(同年1月8日学則発表)
昭和22年 3月31日	高知県立女子専門学校(生活科・生物科・英文科)設立認可 (県議会で2月25日女子医学専門学校廃止、女子専門学校設置の決議)
昭和24年 2月21日	昭和22年創立の県立女子専門学校を母体とし、県立高知女子大学 (家政学部:生活科学科・生物学科)設立認可
昭和24年 4月 1日	初代学長岡本重雄就任
昭和25年 4月 1日	家政学部生活科学科を栄養士養成施設として指定

昭和26年　3月31日	教職課程を設置、中学校・高等学校教諭（家庭）免許状授与資格を取得させるための課程として認定
昭和27年　2月20日	家政学部に看護学科増設認可
昭和27年　3月18日	学長岡本重雄退職、教授福田俊治学長事務取扱に就任
昭和27年　9月22日	看護婦学校として指定
昭和27年10月　1日	第二代学長志波清時就任
昭和29年　3月21日	学長病気のため教授中村慶三郎学長代理に就任
昭和29年　4月　1日	正規の課程及び聴講生の課程を中学校・高等学校教諭（理科、保健、家庭、英語）・養護教諭の免許状授与の資格を取得させるための課程として認定
昭和30年　3月29日	保健婦学校として指定
昭和30年　9月10日	第三代学長中村慶三郎就任
昭和31年　3月　1日	文学部（国文学科、英文学科）増設認可
昭和32年　4月　1日	正規の課程を中学校・高等学校教諭（国語）免許状授与の資格を取得させるための課程として認定
昭和34年　4月　1日	家政学部看護学科を衛生看護学科に改称
昭和34年12月　1日	第四代学長紫藤貞一郎就任
昭和38年　8月　3日	学長紫藤貞一郎退職、教授田中亮学長事務取扱に就任
昭和39年　4月　1日	家政学部生活科学科を家政学科・食物栄養学科・生活理学科に改称
昭和39年　4月10日	第五代学長徳田弥就任
昭和41年　3月31日	附属図書館新館落成
昭和42年12月10日	家政学部実験棟新館落成
昭和43年　4月10日	第六代学長藤本薫喜就任
昭和43年10月15日	管理棟及び講義棟新館落成
昭和44年　9月10日	講堂兼体育館落成
昭和45年　4月　2日	第七代学長安中正哉就任
昭和46年　3月31日	学生寮落成 集団給食実習室落成
昭和46年　4月　1日	正規の課程及び聴講生の課程を高等学校教諭（看護）免許状授与の資格を取得させるための課程として認定
昭和47年　3月31日	作法室落成
昭和48年11月　7日	運動場完成
昭和50年　1月10日	高知女子大学保育短期大学部認可
昭和50年　4月　1日	高知女子大学保育短期大学部開学
昭和55年　4月　2日	第八代学長岡崎正一就任
昭和55年10月　7日	南学舎改築学生会館新築落成
昭和56年　4月　1日	家政学部衛生看護学科を看護学科に改称
昭和59年　4月　2日	第九代学長木原正雄就任
昭和62年11月15日	情報処理施設設置
昭和63年　6月28日	附属図書館増改築落成
平成　2年　3月26日	聴講生の課程を中学校・高等学校教諭（国語）免許状授与資格を取得させるための課程として認定
平成　2年　3月27日	弓道場落成
平成　2年　4月　2日	第十代学長池川順子就任

平成 8年 4月 2日	第十一代学長成田十次郎就任
平成10年 3月31日	池校舎落成
平成10年 4月 1日	改組 生活科学部(生活デザイン学科・健康栄養学科・環境理学科) 文化学部(文化学科) 看護学部(看護学科) 社会福祉学部(社会福祉学科) 大学院看護学研究科 教員の免許状授与の所要資格を取得させるための大学学部等の課程として認定
平成10年 4月 1日	高知女子大学保育短期大学部廃止
平成12年 4月 1日	教育職員免許法改正による教員の免許状授与の所要資格を取得させるための大学学部等の課程として認定
平成12年 8月29日	社会福祉士国家試験に係る指定科目の読替について認定
平成13年 4月 1日	大学院研究科の増設 人間生活学研究科(修士課程) 健康生活科学研究科(博士課程後期) 二級建築士試験及び木造建築士試験の受験資格として認定
平成14年 9月 5日	精神保健福祉士国家試験に係る指定科目の読替について認定
平成14年10月15日	学長成田十次郎退任、副学長吉野公喜学長事務代理に就任
平成15年 1月22日	第十二代学長吉野公喜就任
平成15年 4月 1日	第十三代学長青山英康就任 生活科学部健康栄養学科を管理栄養士養成施設として認定
平成16年 4月 1日	高等学校教諭(福祉)免許状授与の所要資格を取得させるための大学学部等の課程として認定
平成17年 4月 1日	栄養教諭免許状授与資格を取得させるための大学学部等の課程として認定
平成19年 4月 1日	第十四代学長山根洋右就任 看護学部看護学科を助産師学校として指定
平成21年11月30日	看護福祉棟新築落成
平成22年 2月28日	本部・健康栄養学部棟新築落成
平成22年 4月 1日	健康栄養学部健康栄養学科の設置(届出) 本学本部機能を池校舎に移転 社会福祉学部社会福祉学科に介護福祉士養成課程を新設し、介護福祉士養成施設として認定 健康栄養学部健康栄養学科を栄養士養成施設として認定 健康栄養学部健康栄養学科を管理栄養士養成施設として認定
平成22年10月31日	共用棟増改築落成
平成23年 4月 1日	大学の設置者を高知県公立大学法人に変更(許可) 男女共学化により大学名称を高知県立大学に変更(届出) 初代学長南裕子就任
平成24年 4月 1日	学芸員資格取得教育課程の廃止 地域教育研究センターの設置
平成25年 4月 1日	中学校・高等学校教諭(英語)専修免許状及び栄養教諭専修免許状授与資格を取得させるための大学学部等の課程として認定

平成26年　4月　1日	大学院課程の増設 ・看護学研究科看護学専攻（博士後期課程） ・人間生活学研究科人間生活学専攻（博士後期課程） ・看護学研究科共同災害看護学専攻（博士課程） 生活科学部の廃止
平成27年　4月　1日	公立大学法人高知工科大学と法人統合 永国寺キャンパス教育研究棟落成 文化学部を拡充（夜間主の設置）
平成28年　3月31日	健康生活科学研究科健康生活科学専攻（博士後期課程）を廃止
平成29年　3月	永国寺キャンパス体育館・食堂、図書館落成 池キャンパスさくら寮落成
平成29年　4月　1日	第二代学長野嶋佐由美就任
平成30年　3月23日	永国寺キャンパス整備完了（永国寺キャンパス西側敷地に緑の広場とモニュメント、学生会館の改修完了）。お披露目式を開催。モニュメント「詩の翼」は同窓会しらさぎ会からの寄贈
令和　4年　3月　7日	永国寺キャンパスあふち寮落成

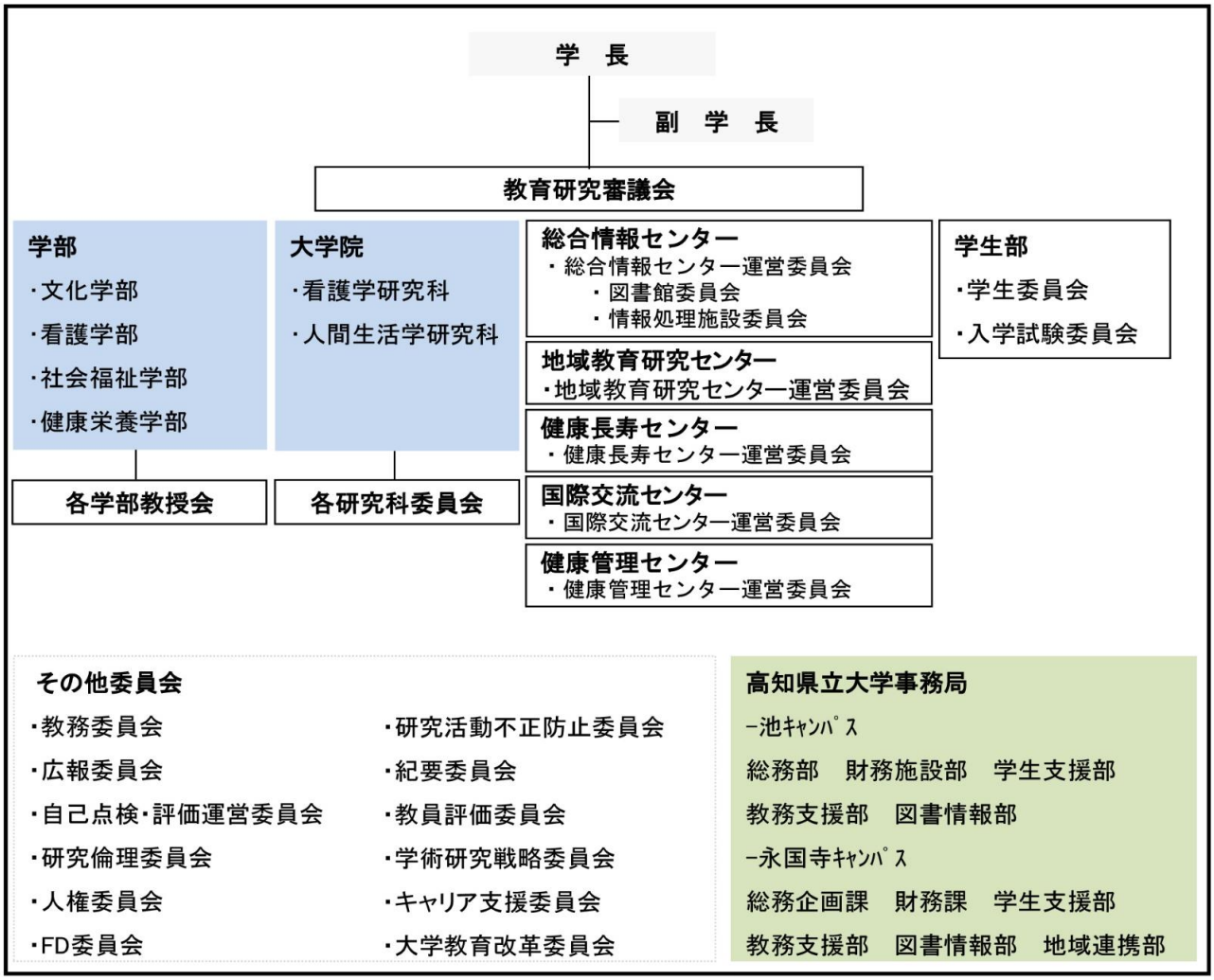
4　名称及び所在地

名　　称		所　在　地	TEL・FAX
池キャンパス	看護学部	〒781-8515 高知市池2751-1	TEL： 088-847-8700 （代表） FAX： 088-847-8670
	社会福祉学部		
	健康栄養学部		
	大学院看護学研究科		
	大学院人間生活学研究科 （栄養・生活学領域、社会福祉学領域）		
	事務局		
	附属図書館		
永国寺キャンパス	文化学部（夜間主含む）	〒780-8515 高知市永国寺2-22	TEL： 088-821-7104 （代表） FAX： 088-821-7103
	大学院人間生活学研究科 （文化学領域）		
	事務局		
	附属図書館		

III　組織及び教職員

1　組織

（1）組織図



（2）教職員構成

（令和3年5月1日現在）

区分		教員								事務局職員					合計
		学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	計	局長	事務職員	司書	保健師	計	
現員		1	2	42	30	13	31	1	120	1	58	1	3	63	183
内訳	学長	1							1						
	副学長		2						2						
	文化学部			9	13	1	0	0	23						
	看護学部			18	6	6	19	0	49						
	社会福祉学部			7	6	3	7	0	23						
	健康栄養学部			4	3	3	3	1	14						
	大学院			0	0	0	0	0	0						
	地域教育研究センター			4	0	0	0	0	4						
	総合情報センター			0	1	0	1	0	2						
	健康長寿センター			0	1	0	1	0	2						

（3）令和3年度新規採用教員数

	学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	計
学長	0	0						0
文化学部			0	1	0	0	0	1
看護学部			0	0	0	2	0	2
社会福祉学部			0	0	0	0	0	0
健康栄養学部			0	0	0	1	0	1
看護学研究科			0	0	0	0	0	0
人間生活学研究科			0	0	0	0	0	0
地域教育研究センター			0	0	0	0	0	0
総合情報センター			0	0	0	0	0	0
健康長寿センター			0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	1	0	3	0	4

（4）名誉教授

現在までに名誉教授の称号を授与された教授は、66名である。

高知女子大学

（平成23年3月31日現在）

	氏　　名	所属(退職時)	授与年月日		氏　　名	所属(退職時)	授与年月日
1	正 木　　喬	文 学 部	昭和46年7月12日	26	岡 崎 芳 子	家政学部	平成9年4月1日
2	田 中　　亮	家政学部	昭和48年5月7日	27	宇 久 真 雄	文 学 部	平成9年4月1日
3	市 川 一 夫	家政学部	昭和48年5月7日	28	徳 満 澄 雄	文 学 部	平成9年4月1日
4	笹 原 邦 彦	家政学部	昭和50年5月19日	29	中 山 喜代子	家政学部	平成10年4月1日
5	山 崎 良 幸	文 学 部	昭和50年5月19日	30	金 谷 嘉 郎	文化学部	平成11年4月1日
6	丸 山 和 雄	文 学 部	昭和50年5月19日	31	岡 本 健 児	文 学 部	平成12年4月1日
7	和 井 兼 尾	家政学部	昭和51年12月20日	32	橋 本 名 正	文化学部	平成12年4月1日
8	深 瀬 亀 美	家政学部	昭和52年6月27日	33	秋 田 利 彦	生活科学部	平成12年7月7日
9	三 宮 慎 助	文 学 部	昭和54年4月19日	34	濵 田 美 智	社会福祉学部	平成13年4月1日
10	安 中 正 哉	学　長	昭和55年4月10日	35	藤 田 加 代	文化学部	平成14年4月1日
11	山 本 壽 春	家政学部	昭和55年4月10日	36	坂 本　　肇	文化学部	平成14年4月1日
12	岩 貞　　好	家政学部	昭和55年4月10日	37	寺 内 アヤ子	生活科学部	平成14年4月1日
13	赤 沢 時 之	家政学部	昭和56年4月10日	38	山 崎 美惠子	看護学部	平成14年4月1日
14	芝 田 不二男	家政学部	昭和59年4月10日	39	津 曲 裕 次	社会福祉学部	平成14年4月1日
15	畠 中　　幸	文 学 部	昭和60年4月10日	40	今 西 一 實	社会福祉学部	平成14年4月1日
16	作 田 芳 次	家政学部	昭和62年4月10日	41	松 本 女 里	看護学部	平成15年4月1日
17	平 見 嘉 彦	家政学部	平成3年5月10日	42	生 田 勝 彦	文化学部	平成15年4月1日
18	児 平 文 雄	家政学部	平成4年4月1日	43	阿 部 捷 男	生活科学部	平成16年4月1日
19	松 崎 淳 子	家政学部	平成4年4月1日	44	山 口 俊 治	文化学部	平成18年4月1日
20	山 崎 智 子	家政学部	平成6年4月1日	45	原　　絢 子	生活科学部	平成18年4月1日
21	市 村 金次郎	文 学 部	平成7年4月1日	46	松 田 眞 一	社会福祉学部	平成18年4月1日
22	矢 野 昭 典	文 学 部	平成8年4月1日	47	住 友 弘 一	文化学部	平成19年4月1日
23	藤 村 千 賀	家政学部	平成8年4月1日	48	山 根 久之助	文化学部	平成20年4月1日
24	池 川 順 子	学　長	平成8年4月1日	49	川 崎 育 郎	社会福祉学部	平成21年4月1日
25	松 崎 沙和子	家政学部	平成9年4月1日				

高知県立大学

（令和4年3月31日現在）

	氏　　名	所属(退職時)	授与年月日		氏　　名	所属(退職時)	授与年月日
1	青 山 英 康	学　長	平成23年5月19日	10	前 山　智	社会福祉学部	平成26年5月1日
2	成 田 十次郎	学　長	平成23年5月19日	11	井 本 正 人	文化学部	平成27年4月1日
3	山 根 洋 右	学　長	平成23年5月19日	12	逸 見 幾 代	健康栄養学部	平成27年4月1日
4	北 川　明	文化学部	平成23年5月19日	13	荻 沼 一 男	健康栄養学部	平成28年4月1日
5	大久保 茂 男	生活科学部	平成24年5月31日	14	森 下 利 子	看護学部	平成28年4月1日
6	青 木 晴 男	文化学部	平成26年4月1日	15	南　裕 子	学　長	平成29年4月20日
7	佐 藤 恵 里	文化学部	平成26年4月1日	16	芋 生 裕 信	文化学部	平成30年4月1日
8	宮 武 陽 子	看護学部	平成26年4月1日	17	宇 野 浩 三	地域教育研究センター	平成30年4月1日
9	川 村 美笑子	健康生活科学研究科	平成26年4月1日				

2 教員（令和年3年度）

（1）学部

○文化学部 文化学科

職 名	氏 名	最終学歴	学 位（大学名）	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教 授	五百蔵 高浩	兵庫教育大学大学院連合博士課程単位取得退学	博士（学校教育学）（兵庫教育大学）	英語音声学、英語科教育法Ⅰ、教職実践演習	英語音声学・音韻論 コーパス言語学的アプローチによる語法研究 第二言語学習者の音声習得
教 授	井上 次夫	大阪外国語大学大学院外国語学研究科日本語学専攻修士課程修了	修士（言語・文化）（大阪外国語大学）	日本語学専門演習、国語科教育法Ⅰ	国語科教育におけるICT活用法及びオンライン授業教材開発 日本語における様式的位相の研究
教 授	岩倉 秀樹	広島大学大学院社会科学研究科法律学専攻博士課程後期単位取得退学	法学修士（広島大学）	日本国憲法、文化と人権、文化と統治システム、情報化社会と法文化	表現の自由 選挙法
教 授	大井 方子	東京大学大学院経済学研究科第2種博士課程単位修得退学	修士（経済学）（東京大学）	経済学、文化と経済、地域産業論、社会調査論	技術革新、教育と労働に関する実証研究
教 授	大村 誠	京都大学大学院理学研究科博士後期課程単位取得退学	博士（理学）（京都大学）	地域防災論、地域文化論、観光と自然環境、自然災害と防災の科学	防災全般（防災教育、地域防災、災害看護支援） 人工衛星／航空機搭載合成開口レーダー（SAR）の応用 理科・科学教育、サイエンスコミュニケーション
教 授	高西 成介	広島大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得満期退学	修士（文学）（広島大学）	中国文学講読（散文）、中国文学史	六朝志怪小説、唐代伝奇小説、六朝詩、唐詩の解読、およびそれらの作品を通して当時の社会・文化、および人々の心性の解明
教 授	橋尾 直和	東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学	教育学修士（鳴門教育大学）	日本語学専門演習、国語科教育法Ⅰ、日本語学概論、日本語音声学・音韻論	東アジアにおける地域言語（日本語諸方言・アイヌ語・琉球語）の文化環境言語学的研究
教 授	東原 伸明	国学院大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学	博士（文学）（名古屋大学）	平安朝文学演習、古典文学講読、基礎古典、日本語文章構成論	土左日記、竹取物語、伊勢物語、源氏物語の語りと言語・テクスト分析
教 授	三浦 要一	大阪市立大学大学院生活科学研究科後期博士課程修了	博士（学術）（大阪市立大学）	住文化論、景観文化論	伝統的集落・町並みの保存と生活空間計画 歴史的建造物の復元に関する調査研究 大阪の都市空間に関する住居史的・都市史的研究
教 授	ヨース・ジョエル	ルーヴェンカトリック大学日本学科博士課程修了	博士（日本学）（ルーヴェンカトリック大学[ベルギー]）	国際日本学、日本思想史	自由民権運動、明治時代の思想と文化、日本の歴史と社会を英語で表現する
准教授	飯髙 伸五	東京都立大学大学院社会科学研究科博士課程単位取得退学	博士（社会人類学）（東京都立大学）	文化人類学、民俗学、観光文化論	ミクロネシア地域における日本統治経験 アジア・太平洋戦争の記憶と戦跡観光 同郷者集団のネットワーク
准教授	宇都宮 千穂	京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了	博士（経済学）（京都大学）	地域づくり論、地域学概論、文化政策論	近現代における企業城下町形成 都市的生活様式とコミュニティ形成に関する研究 地方移住政策と移住者
准教授	オバーグ・アンドリュー	ウェールズ大学文学研究科哲学博士課程修了、レーディング大学文学研究科語学教育課程修士修了	博士（哲学）（ウェールズ大学） 修士（応用哲学）（ウェールズ大学） 修士（英語教育）（レーディング大学）	国際理解、比較日本学、教育法、英語ライティング、英語スピーキング、異文化理解Ⅰ	自己学、宗教の現像学、美術の現像学、応用哲学
准教授	梶原 太一	同志社大学大学院商学研究科商学専攻博士課程後期課程修了	博士（商学）（同志社大学）	NPO論、キャリアデザイン論、キャリア形成論、ビジネスリテラシー	投資の見返り（ROI）の多様な計算方法 複式簿記情報と資本コスト情報の固有価値 人間の計数能力形成と発達に関する歴史・制度的研究
准教授	金澤 俊吾	東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程修了	博士（情報科学）（東北大学）	英語学概論、英語文法論、英語学専門演習	英語における形式と意味との対応関係に関する研究 英語における形容詞が関わる構文の意味的ネットワークに関する研究
准教授	菊池 直人	京都産業大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学	修士（法学）（京都産業大学）	文化と権利、生活と法文化、地域社会と法文化	生命保険契約における保険金受取人の法的地位 被保険利益と生命保険契約 消費者教育

職　名	氏　　名	最終学歴	学　位（大学名）	主たる担当科目	現在の研究テーマ
准教授	清水　直樹	立命館大学大学院政策科学研究科政策科学専攻博士課程後期課程修了	博士（政策科学）（立命館大学）	政治学、地域分析論、地方自治論、地域づくりフィールドスタディなど	政治制度が公共政策や社会経済に与える影響
准教授	白岩　英樹	大阪芸術大学大学院芸術文化研究科博士後期課程修了	博士（芸術文化学）（大阪芸術大学）	米文化・文学史、米文化・文学論、国際文化専門演習	米文学をベースにした他者論、比較芸術、比較文学
准教授	田中　裕也	同志社大学大学院文学研究科国文学専攻博士課程後期課程修了	博士（国文学）（同志社大学）	日本文学概論、日本文学史（近代）、近代文学講読、現代文学講読	三島由紀夫文学における思想系テクスト受容の研究 戦後文学における〈人間〉と〈美〉の表象研究 文学の検閲 解釈学と生成論
准教授	友原　嘉彦	広島大学大学院総合科学研究科博士後期課程修了	博士（学術）（広島大学）	観光学総論、観光まちづくり論、観光まちづくりフィールドスタディ	リフレクシブツーリズム（再帰を目的とした旅）やクリエイティブツーリズム（創造性の涵養を目的とした旅）の研究
准教授	鳥飼　真人	関西大学大学院文学研究科英文学専攻後期博士課程修了	博士（文学）（関西大学）	英文化・文学史、英文化・文学論、国際文化専門演習	近現代英文学 現代文学理論 比較文化 East-West Studies
准教授	根岸　　忠	上智大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学	修士（法学）（法政大学）	労働契約と法文化、社会保障と法文化	介護労働者の労働条件保護 ワーク・ライフ・バランスに関する法的研究
准教授	向井　真樹子	ニューカッスル大学大学院 School of English & Linguistics修了	博士（言語学）（ニューカッスル大学）	対照言語学、比較言語研究、言語教育実践論Ⅱ、英語学専門演習、英語コミュニケーションⅠ、日本語II	生成文法における英語 スカンディナビア諸言語族 ロマンス諸語 日本語の複合語の普遍的特徴 外国語学習者の言語特徴と習得理論（特に生成文法）
准教授	吉川　　孝	慶應義塾大学大学院文学研究科哲学倫理学専攻後期博士課程修了	博士（哲学）（慶應義塾大学）	哲学、倫理学	現象学派の倫理学 生き方の哲学 ケアの哲学
講 師	田中　康代	関西学院大学院法学研究科後期課程単位取得中退	修士（法学）（甲南大学）	社会秩序と法、文化と裁判	国際人権法から見た精神障害者の処遇

○看護学部 看護学科

職 名	氏 名	最終学歴	学 位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教 授	畦地 博子	高知女子大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知女子大学)	行動科学、保健行動論、人間と看護、看護研究方法論、看護哲学と倫理	精神科看護師のケア技術に関する研究
教 授	池添 志乃	高知女子大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知女子大学)	養護概説、学校保健、臨床看護論Ⅱ、家族関係論、教職実践演習、小児看護学の動向と課題、養護実習、看護哲学と倫理	さまざまな健康レベルにある子どもと家族の生きる力を支えるケアについての研究 家族の生活の再構築に関する研究
教 授	池田 光徳	岡山大学大学院医学研究科博士課程修了	博士(医学) (岡山大学)	医学の世界、診断学、治療学総論、人体のしくみの乱れⅠ・Ⅱ、臨床看護論、医学と看護の統合	代謝異常症 角化細胞の生物学 皮膚アレルギー 転写因子 褥瘡 皮膚機能検査
教 授	内田 雅子	日本赤十字看護大学大学院博士課程修了	博士(看護学) (日本赤十字看護大学)	看護学総論、健康と看護、援助関係論、慢性期看護論、慢性期看護援助論、治療援助論Ⅰ・Ⅱ、症状と看護、治療と看護、臨床看護論Ⅳ(慢性の病と生活)、総合看護実習(慢性期)、看護と政策、慢性期看護実践論、看護実践能力開発実習、看護研究、慢性期看護学の動向と課題	高知県の血管病ハイリスク群への重症化予防推進・看看連携モデルの開発 慢性看護実践における事例研究法の再構築 慢性透析者における生活の再編成 チーム・プロセスに焦点化した継続教育プログラム
教 授	瓜生 浩子	高知県立大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知県立大学)	生活援助論Ⅰ、フィジカルアセスメントⅠ、看護過程論、看護援助の動向と課題、看護基盤実習、総合看護実習、看護研究	高次脳機能障害者とともに生きる家族の体験と支援に関する研究 家族レジリエンスを促す看護に関する研究 家族看護実践力強化のための教育に関する研究
教 授	大川 宣容	高知県立大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知県立大学)	フィジカルアセスメントⅡ、急性期看護論、回復期看護援助論、急性期看護援助論、急性期看護実習、総合看護実習、急性期看護の動向と課題、バイオロジカルナーシング	悲嘆ケアに関する研究 クリティカルケア看護師の緩和ケアコンピテンシーに関する研究 治療期にある患者・家族の体験に関する研究 シミュレーション教育に関する研究
教 授	木下 真里	名古屋大学大学院医学系研究科博士課程修了	博士(医学) (名古屋大学)	グローバルヘルス、看護と文化Ⅰ・Ⅱ、災害と看護Ⅰ・Ⅱ、看護セミナーⅢ(病をもつ人の理解と看護)、看護実践能力開発実習、最新専門看護実践講座Ⅰ、グローバル社会と看護Ⅰ・Ⅱ、看護セミナーⅡ	災害サイクルでのHIV/AIDS療養継続支援 ネパール地震被災地の復興支援 外国人HIV感染者支援 四国HIV/AIDSケア体制の整備
教 授	久保田 聰美	高知女子大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知女子大学)	特別講義(看護学研究科)、管理者研修、看護管理者研修、コーディネート能力習得研修(退院支援事業)看護サービス論、看護システム論、看護管理の動向と課題	災害に強い専門職育成に関する研究 看護職のストレスマネジメントに関する研究 慢性疾患や禁煙支援、学生やスタッフ支援における動機付け面接(MI)の臨床活用
教 授	田井 雅子	高知県立大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知県立大学)	精神看護学総論、精神の健康と看護、精神看護の動向と課題、総合看護実習、看護と政策	精神障害者の地域生活に向けた援助 認知症をもつ方の家族に関する研究 家族のレジリエンスを促進する看護に関する研究
教 授	竹﨑 久美子	高知女子大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知女子大学)	老人看護学総論、老人看護援助論、老人看護の動向と課題、老人看護実践論、生活援助論Ⅱ、災害と看護Ⅰ・Ⅱ、看護研究、ふれあい看護実習	高齢者の「居がい」について 小規模デイサービスの場づくりとケア効果 高齢患者の自宅退院支援プログラムの開発 認知症高齢者の術後安静をより安楽に保つためのケア開発 南海トラフ巨大地震準備期における災害看護

職 名	氏 名	最終学歴	学 位（大学名）	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教 授	時長 美希	高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（高知女子大学）	健康と看護、人間と看護、学校保健、地域看護学総論、地域看護援助論、保健行動論、保健統計学、疫学、地域看護の動向と課題	アウトリーチ活動を基盤とした地区活動モデルの構築 脆弱性を有する家族への支援活動ガイドラインの開発と地域母子支援システムの構築 災害後における家族レジリエンスを促す看護支援モデルの構築とその活用
教 授	長戸 和子	高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（高知女子大学）	生活援助論Ⅱ、生活と看護、看護援助の動向と課題、総合看護実習	病者特に慢性疾患患者とその家族への看護 家族マネジメント力に関する研究
教 授	中野 綾美	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科博士課程満期退学	博士（看護学）（日本赤十字看護大学）	小児看護学総論、看護研究方法論、看護と政策	命に向き合う子どもと親のエンドオブライフケアへの看護に関する研究 臓器移植を受ける子どもの家族に関する研究 子どもセルフケアに関する研究 災害後における家族レジリエンスを促す看護に関する研究
教 授	藤田 佐和	聖路加看護大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（聖路加看護大学）	看護学総論、看護哲学と倫理、終末期看護援助論、看護と政策	がんと認知症を併せもつ高齢がん患者の緩和ケアと認知症ケアの統合ケアモデルの開発 外来治療する高齢がん患者を支える協働型包括的機能評価に基づく統合ケアモデルの開発
教 授	森下 安子	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程満期退学	博士（看護学）（高知県立大学）	在宅看護学総論、在宅看護援助論、在宅看護リエゾン論、在宅看護の動向と課題、人間と看護、臨床看護論Ⅰ	在宅生活の継続と自立を支援するケアマネジメント技術に関する研究 在宅移行支援システム構築に関する研究 多職種協働に関する研究 災害看護支援ネットワークに関する研究
教 授	森本 悦子	千葉大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（千葉大学）	症状と看護、治療援助論Ⅱ、治療と看護、終末期看護援助論、がん看護論、看護研究、慢性期看護実習、看護実践能力開発実習	がん治療を継続する患者への看護 地域でがん治療を受ける高齢患者への看護 外来通院がん患者の主体性を活かして行う実践のための外来看護師育成プログラムの洗練
教 授	山田 覚	東海大学大学院工学研究科博士課程修了	博士（工学）（東海大学）	看護システム論、人間工学、看護セミナーⅢ	看護管理システムの分析と設計 看護サービスの質の向上と安定 災害看護支援ネットワークに関する研究
教 授	渡邊 聡子	兵庫県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（兵庫県立大学）	生命の科学と倫理、人間と看護、母性看護学総論、母性看護対象論、母性看護援助論、母性看護の動向と課題、助産看護の動向と課題、母性看護実習、助産看護実習Ⅰ、看護研究	妊婦やその家族、および、ケア提供者における災害への備えに関する研究 災害時の安心創造に向けたケア方略の開発 新型コロナウイルス感染症流行下における健康に関する研究
准教授	内川 洋子	高知県立大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（高知県立大学）	看護サービス論、看護管理の動向と課題、看護管理実習、チーム医療実習、看護研究、援助関係論、対人関係とメンタルヘルス、看護基盤実習、看護教育論	看護におけるリーダーシップについて（看護師長、中堅看護師、看護師のリーダーシップ） 看護におけるチームワークについて 看護師に対するチームワーク教育プログラムの開発、看護教育に関する研究
准教授	川上 理子	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（高知県立大学）	健康とヘルスプロモーション、環境と看護、生活援助論Ⅲ、在宅看護対象論、在宅看護援助論、在宅看護実習、在宅看護の動向と課題、在宅介護リエゾン論	高齢者の在宅療養における家族介護者の看取り 地域を基盤とした在宅移行支援システムの開発 訪問看護師の質保証のためのプログラム検討
准教授	佐東 美緒	広島大学大学院医学系研究科博士前期課程保健学修士課程修了	修士（保健学）（広島大学）	看護研究、小児看護実践論、小児の健康と看護、小児看護援助論、小児看護の動向と課題、母性看護対象論、助産看護診断論、助産看護援助論、助産技術論Ⅱ、総合看護実習、助産看護実習Ⅰ、母性看護実習、保健行動論	NICUを退院したこどもとその家族を支える看護に関する研究 看護基礎教育における遠隔授業に関する研究 エンドオブライフケアに関する研究

職 名	氏 名	最終学歴	学 位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
准教授	嶋岡 暢希	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士(看護学)(高知県立大学)	母性看護援助論、母性看護実習、母性看護の動向と課題、助産看護学総論、助産看護診断論、助産看護援助論、助産技術論Ⅰ・Ⅱ、助産看護管理論、助産看護実習Ⅰ・Ⅱ、助産看護の動向と課題、看護実践論、総合看護実習、看護と政策	乳児期の子どもをもつ親のMastery獲得を促進する看護援助
准教授	髙谷 恭子	高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士(看護学)(高知女子大学)	小児の健康と看護、小児看護援助論、看護セミナーⅤ、小児看護実習、総合看護実習(小児)、保育学	病いとともに生きる子どもと家族が辿る軌跡に関する研究 臓器移植を受ける子どもの家族に関する研究 子どもセルフケアに関する研究
准教授	藤代 知美	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士(看護学)(高知県立大学)	精神の健康と看護、精神看護援助論、精神看護の動向と課題、精神看護実践論、精神看護実習、看護研究、援助関係論	精神障害者の地域生活移行・定着を促進するための交渉スキル 未治療・治療中断の精神疾患をもつ人の受療行動を促すための交渉スキル
講 師	有田 直子	高知県立大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程修了	博士(看護学)(高知県立大学)	人間と看護、小児の健康と看護、小児看護援助論、臨床看護論Ⅲ・Ⅵ、小児看護の動向と課題、総合看護実習、領域実習(小児看護)	病気を持つ子どもと家族の意思決定に関する研究
講 師	井上 正隆	高知県立大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士(看護学)(高知県立大学)	保健統計学、看護セミナーⅥ、治療援助論Ⅰ、病状と看護	ストレスバイオマーカーを用いた周手術期患者のストレスの測定 急性期看護におけるケアデザインの習得を促進する教授方法の開発 一般市民にとって実施可能な胸骨圧迫法の実験研究デザインを用いた検討
講 師	岩﨑 順子	高知女子大学大学院看護学研究科修士課程修了	博士(看護学)(高知県立大学)	母性看護対象論、母性看護援助論、助産看護援助論、助産技術論Ⅰ、母性看護実習、助産看護実習Ⅰ・Ⅱ、総合看護実習	Maternal Confidenceについての研究 Family Confidenceに関する研究
講 師	小澤 若菜	高知女子大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学)(高知女子大学)	地域の健康と看護、地域看護援助論、地域看護実習、地域看護の動向と課題、保健統計学、疫学、保健行動論、地域看護実践論	生活習慣病予防、働く人の健康づくりに関する研究
講 師	小原 弘子	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士(看護学)(高知県立大学)	老人の健康と看護、老人看護援助論、看護過程論、老人看護実践論、老人看護の動向と課題、看護研究、生活援助論Ⅲ、看護基盤実習、総合看護実習、ふれあい看護実習	高齢者ケアに関すること 訪問看護師対象のシミュレーション教育に関すること
講 師	山中 福子	高知女子大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学)(高知女子大学)	健康とヘルスプロモーション、チーム形成論、生活援助論Ⅰ・Ⅱ、フィジカルアセスメントⅠ、慢性期看護援助論、慢性期看護の動向と課題、慢性期看護実習、看護研究、慢性期看護実践論	慢性心不全をもつ人への看護に関する研究
助 教	神家 ひとみ	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学)(高知県立大学)	治療援助論Ⅰ、看護過程論、看護基盤実習、ふれあい看護実習、急性期看護実習、総合看護実習、家族看護実習、急性期看護援助論	ICUにおける人工呼吸器装着患者の集中治療後症候群に関する研究

職 名	氏 名	最終学歴	学 位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
助 教	川本 美香	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学)(高知県立大学)	保健行動論、地域看護援助論、地域看護実習、総合看護実習、看護管理実習	中山間地域に暮らす高齢期にある住民のPlace Attachmentについて 大腸がん検診精密検査受診促進のための看護ケアについて 事例検討を活用した保健師の人材育成について 保健師による地区活動について
助 教	源田 美香	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学)(高知県立大学)	家族関係論、臨床看護Ⅱ(家族と健康)、看護基盤実習、在宅看護実習、総合看護実習、治療援助論Ⅰ	先天性の心臓病のある子どもと共に生きる家族の対処行動 発達障害をもつ子どもとその家族の家族ストレングス
助 教	坂元 綾	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士(看護学)(高知県立大学)	地域学実習Ⅰ、治療援助論Ⅰ、フィジカルアセスメントⅡ、看護過程論、ふれあい看護実習、看護基盤実習、家族看護実習、チーム医療実習、看護実践能力開発実習、急性期看護実習、生活援助論Ⅱ	病棟看護師長のスタッフ育成における役割に関する研究 在宅酸素療法を要するCOPD患者の社会参加の促進に関する研究 2型糖尿病患者のフットケアにおけるエビデンスに関する研究
助 教	塩見 理香	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学)(高知県立大学)	看護基盤実習、地域学実習Ⅰ、精神看護実習、生活援助論Ⅰ、総合看護実習(精神)	地域で生活する精神障がい者に関する研究
助 教	髙橋 真紀子	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学)(高知県立大学)	地域看護実習Ⅰ、総合看護実習、地域学実習Ⅰ、地域看護援助論	地域住民のケアリングに関する研究 地域で生活する精神障がい者に関する研究
助 教	瀧 めぐみ	愛知県立大学大学院看護学研究科修了	修士(看護学)(愛知県立大学)	精神看護援助論、総合看護実習、精神看護実習	行動制限最小化における多職種間の倫理調整に関する研究 高幡保健医療圏における精神障害者への包括的支援マネジメントの現状と課題
助 教	竹中 英利子	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学)(高知県立大学)	在宅看護援助論、生活援助論Ⅱ、在宅看護実習、看護基盤実習、ふれあい看護実習	慢性疾患患者の外来看護に関する研究
助 教	田中 雅美	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学)(高知県立大学)	急性期看護実習、フィジカルアセスメントⅡ、生活援助論Ⅱ	ICU看護師の成長支援に関する研究
助 教	田之頭 恵里	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学)(高知県立大学)	小児の健康と看護、フィジカルアセスメントⅠ、総合看護実習、領域実習(小児看護)	臓器移植を受けた子どもや家族に関する研究
助 教	徳岡 麻由	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学)(高知県立大学)	母性看護実習、助産看護実習	親となることへの支援 子どもを養育する夫婦、共同養育者のcoparenting
助 教	中井 あい	和歌山県立医科大学大学院保健看護学研究科博士前期課程修了	修士(保健看護学)(和歌山県立医科大学)	総合看護実習、看護基盤実習、慢性看護実習、ふれあい看護実習、チーム医療実習	中山間地域の一人暮らし高齢者の栄養と食環境に関する研究 在外中高年者の健康増進に関する研究
助 教	中井 美喜子	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学)(高知県立大学)	看護過程論、フィジカルアセスメントⅡ、治療援助論Ⅰ、地域学実習Ⅰ、看護基盤実習、家族看護実習、ふれあい看護実習、チーム医療実習、小児看護実習	人工呼吸器を装着した児と家族のヘルスケア機能に関する研究
助 教	西内 舞里	高知女子大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学)(高知女子大学)	母性看護援助論、母性看護対象論、母性看護実習、助産技術論Ⅰ・Ⅱ、助産看護援助論、助産技術論Ⅱ、助産看護実習ⅠⅡ、母性看護実習、フィジカルアセスメントⅡ、家族関係論	糖尿病合併妊婦と夫の妊娠期の協働に関する研究 助産師の妊娠期ケアにおける臨床判断に関する研究

職 名	氏 名	最終学歴	学 位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
助 教	廣瀬 未央	高知県立大学大学院看護学研究科修了	修士(看護学)	看護実践能力開発実習、看護基盤実習	分子標的治療薬に伴う皮膚障害のある患者の症状マネジメント
助 教	藤村 眞紀	千葉大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学)(千葉大学)	総合看護実習(慢性期)、看護基盤実習、慢性期看護実習、慢性期看護援助論	施設に入所している認知症を有する高齢者に関する研究
助 教	益 宏実	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学)(高知県立大学)	慢性期看護実習、総合看護実習:慢性期、看護実践能力開発実習、慢性期看護援助論	高知県の血管病ハイリスク群への重症化予防推進・看看連携モデルの開発
助 教	森本 紗磨美	東京医科歯科大学大学院博士前期課程修了	修士(看護学)(東京医科歯科大学)	生活援助論Ⅲ、急性期看護援助論、総合看護実習(急性期)、看護管理実習、急性期看護実習、ふれあい看護実習	消化器がん患者の周術期ヘルスリテラシー支援プログラムの開発
特 任 教 授	神原 咲子	岡山大学大学院医歯学総合研究科国際環境科学講座公衆衛生学博士課程修了	博士(医学)(岡山大学)	看護と文化Ⅰ・Ⅱ、保健統計学、災害と看護Ⅰ・Ⅱ、災害と看護、災害看護実践論、疫学	平時の地域モニタリングを有する減災看護モデルの構築
特 任 助 教	三浦 由紀子	高知女子大学大学院看護学研究科修了	修士(看護学)(高知女子大学)	小児看護実習、看護実践能力開発実習、生活援助論	病気の子どもと家族への看護介入に関する研究 人材育成に関する研究
大学院 特 任 教 授	野嶋 佐由美	カリフォルニア大学サンフランシスコ大学院(University of California San Francisco)博士課程修了	博士(看護学)(University of California San Francisco)	理論看護学Ⅱ	脆弱性を抱えた家族のレジリエンスを促進するケアガイドラインと教育プログラムの構築

○社会福祉学部 社会福祉学科

職 名	氏 名	最終学歴	学 位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教 授	杉原 俊二	香川医科大学大学院医学研究科環境生態系専攻博士課程	博士(医学)(香川医科大学)	心理学理論と心理的支援、実践記録法、発達と老化の理解、面接技法	ナラティブアプローチによる対人援助、自分史分析とその応用
教 授	田中 きよむ	京都大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学	経済学修士(滋賀大学)	社会保障論、地域福祉論Ⅱ、福祉行財政と福祉計画、公的扶助論、権利擁護論	人間発達理論に基づく社会保障制度の再構築 「小さな拠点」を軸とする住民共生型地域づくりの形成要因と持続モデル 地域福祉計画に基づく住民主体の福祉型地域づくりの形成要因と発展プロセス
教 授	長澤 紀美子	新潟大学大学院現代社会文化研究科博士後期課程修了	博士(学術)(新潟大学)	社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ、国際福祉論、女性福祉論、基礎ジェンダー学	欧米(特にイギリスを中心とした)介護政策の動向と国際比較 ケアまたは福祉サービスの行政評価・アウトカム評価 ジェンダー視点での性的少数者の人権擁護と支援
教 授	西内 章	関西福祉科学大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程修了	博士(臨床福祉学)(関西福祉科学大学)	相談援助の基盤と専門職、事例研究法、相談援助実習指導、ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅰ	多職種連携を活用したソーシャルワークの展開方法に関する研究 エコシステム視座に基づくソーシャルワーク実践の支援ツールに関する研究
教 授	丸山 裕子	大阪府立大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程修了	博士(社会福祉学)(大阪府立大学)	精神保健福祉援助技術総論、福祉研究法入門	ソーシャルワーク実践過程研究 ①ソーシャルワーク実践方法(利用者参加と地域生活支援)の開発 ②ソーシャルワーカーの実践的コンピテンスの開発
教 授	宮上 多加子	高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士(社会福祉学)(高知女子大学)	介護過程Ⅰ・Ⅱ、認知症の理解	福祉分野の専門職養成教育とキャリア意識
教 授	横井 輝夫	広島大学大学院保健学研究科保健学専攻修了	博士(保健学)(広島大学)	精神科リハビリテーション学、精神保健学、こころとからだのしくみ、発達と老化の理解	言語からみた認知症の人の理解
准教授	大松 重宏	ルーテル学院大学大学院総合人間学研究科博士後期課程単位取得退学	修士(社会福祉学)(ルーテル学院大学)	医療福祉論、保健医療サービス、相談援助実習指導	がん医療におけるピアサポートの意義 医療ソーシャルワーカーのためのスーパービジョン 入退院支援のための多職種連携と協働
准教授	河内 康文	高知県立大学人間生活学専攻博士後期課程修了	博士(社会福祉学)(高知県立大学)	介護の基本、コミュニケーション技術、障害の理解Ⅱ	介護人材の育成に関する研究
准教授	遠山 真世	東京都立大学大学院社会科学研究科博士課程修了	博士(社会福祉学)(東京都立大学)	障害者福祉論、社会調査の基礎、相談援助実習指導	障害者の雇用促進・就労支援に関する研究
准教授	西梅 幸治	京都府立大学大学院福祉社会学研究科博士後期課程修了	博士(福祉社会学)(京都府立大学)	相談援助の理論と方法Ⅱ・Ⅳ、基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ	ソーシャルワークにおけるエンパワメント実践に関する研究 エコシステム視座に基づくコンピュータ支援ツールの研究
准教授	福間 隆康	広島大学大学院社会科学研究科博士課程後期マネジメント専攻修了	博士(マネジメント)(広島大学)	福祉対象入門、福祉援助入門、福祉サービスの組織と経営、相談援助実習指導	障害者雇用の組織マネジメントに関する研究
准教授	三好 弥生	高知県立大学人間生活学専攻博士後期課程修了	博士(社会福祉学)(高知県立大学)	介護過程Ⅲ、生活支援技術、医療的ケア、高齢者福祉論	高齢者の看取りに関する研究
講 師	加藤 由衣	京都府立大学大学院福祉社会学研究科博士後期課程修了	博士(福祉社会学)(京都府立大学)	相談援助の理論と方法Ⅰ、児童・家庭福祉論、子育て支援論、相談援助実習指導	ソーシャルワークにおける省察的実践の研究
講 師	辻 真美	松山大学大学院社会学研究科博士後期課程修了	博士(社会学)(松山大学)	介護の基本、認知症の理解Ⅰ、コミュニケーション技術、生活支援技術	訪問介護における労働特性と専門性に関する研究
講 師	行貞 伸二	大阪府立大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程単位取得退学	修士(社会福祉学)(大阪府立大学)	社会福祉史、公的扶助論、社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ、相談援助実習	町村部における福祉事務所設置の実態

職　名	氏　　名	最終学歴	学　位（大学名）	主たる担当科目	現在の研究テーマ
助 教	稲垣　佳代	高知女子大学大学院人間生活学研究科修士課程修了	修士（社会福祉学）（高知女子大学）	精神保健福祉援助技術各論、精神保健福祉援助実習指導	精神障害者の就労支援に関する研究
助 教	大熊　絵理菜	高知県立大学人間生活学研究科人間生活学専攻博士前期課程	修士（社会福祉学）（高知県立大学）	医療ソーシャルワーク論、相談援助実習指導	医療ソーシャルワーカーのアセスメントに関する研究
助 教	片岡　妙子	高知大学大学院総合人間自然科学研究科看護学専攻修了	修士（看護学）（高知大学）	医療的ケア、生活支援技術、介護技術、介護総合演習、介護過程Ⅳ	介護福祉士による医療的ケア実施に関する研究
助 教	雑賀　正彦	日本福祉大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻修士課程修了	修士（社会福祉学）（日本福祉大学）	コミュニティーソーシャルワーク、ケアマネジメント論、相談援助実習指導、地域福祉論Ⅰ	中山間地域を抱えた小規模自治体における地域支援体制に関する研究 地域福祉実践に関する研究
助 教	田中　眞希	高知女子大学大学院人間生活学研究科修士課程修了	修士（社会福祉学）（高知女子大学）	生活支援技術、介護総合演習、障害の理解Ⅰ	介護職員の 「演じる行為」
助 教	玉利　麻紀	大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得退学	修士（人間科学）（大阪大学）	対人関係とメンタルヘルス、精神保健福祉援助実習指導、心理学と心理支援、国際福祉論	精神障害者をはじめとする社会的マイノリティへの偏見軽減アプローチに関する研究
助 教	福田　敏秀	鳥取大学大学院医学系研究科保健学専攻博士課程修了	博士（保健学）（鳥取大学）	高齢者福祉論Ⅰ、対人関係とメンタルヘルス、相談援助実習指導	高齢者とその家族介護者支援に関する研究

○健康栄養学部 健康栄養学科

職 名	氏 名	最終学歴	学 位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教 授	小林 淳	金沢大学大学院自然科学研究科修了	博士(学術)(金沢大学)	公衆衛生学、生化学、地域健康論、生化学実験、環境衛生学実習	環境汚染化学物質の動態把握 食品添加物の分析
教 授	村上 尚	熊本大学大学院医学研究科中途退学	博士(医学)(徳島大学)	人体の構造と機能、疾病論、生体科学実験・実習	生活習慣病の細胞生物学的解析
教 授	渡邊 浩幸	岩手大学大学院連合農学研究科修了	博士(農学)(岩手大学大学院)	食品学、食品機能学、食品衛生学	食品に含まれる機能成分の探索と機能評価 ①脂質代謝・エネルギー代謝に関する機能成分と評価 ②脳機能に関する機能成分と機能評価 ③食品の保存と加工
准教授	荒牧 礼子	高知県立大学大学院人間生活学研究科博士後期課程修了	博士(生活科学)(高知県立大学)	公衆栄養学、公衆栄養学実習、地域公衆栄養学臨地実習	画像認識による食事調査法に関する研究 勤労者世帯の生活習慣と指導効果に関する研究 若年成人の食物摂取に関する研究
准教授	鈴木 麻希子	岐阜大学大学院医学系研究科医科学専攻修了	博士(医学)(岐阜大学)	基礎栄養学、応用栄養学	加工食品中のリンの定量 食物アレルギー エピジェネティクス制御と生活習慣病に関する研究
准教授	西岡 道子	鳥取大学大学院連合農学研究科修了	博士(農学)(鳥取大学)	調理学、調理学実習	加熱調理における魚介類のビタミンB_{12}について 調理における野菜の葉酸含量について
講 師	島田 郁子	高知県立大学大学院人間生活学研究科博士後期課程修了	博士(生活科学)(高知県立大学)	給食経営管理論	地域食材を活かしたレシピ作成・PR方法 学生を対象にした災害時の備え教育 高齢者の給食喫食率向上の試みー肉軟化剤等による検討ー
講 師	竹井 悠一郎	徳島大学大学院栄養生命科学教育部人間栄養科学専攻博士後期課程修了	博士(栄養学)(徳島大学)	臨床栄養学	①動脈瘤の発症予防を目指した医学・栄養学研究 ②炎症性腸疾患の発症機序解明と治療を目指した医学・栄養学研究 ③慢性閉塞性肺疾患(COPD)の発症機序解明と治療を目指した医学・栄養学研究 ④高齢者の健康を守る食事と運動のアプローチ
講 師	廣内 智子	高知県立大学大学院人間生活学研究科博士後期課程修了	博士(生活科学)(高知県立大学)	臨床栄養学実習	災害時の栄養管理について
助教	小山 智久	城西大学大学院薬学研究科医療栄養学専攻博士前期課程修了	修士(医療栄養学)(城西大学大学院)	給食経営管理臨地実習、栄養教育論実習等	
助 教	隅田 有公子	高知県立大学大学院人間生活学研究科博士後期課程修了	博士(生活科学)(高知県立大学)	臨床栄養学実習等、食と介護等	経腸栄養剤の粘性付加に関する検討
助 教	竹本 和仁	武庫川女子大学大学院生活環境学研究科食物栄養学専攻博士後期課程修了	博士(食物栄養学)(武庫川女子大学)	栄養学実験、生化学実験、食品学実験	食物アレルギー 高知県の伝統食品の機能性の検索
助 教	生川 卓弘	名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科博士前期課程修了	修士(栄養科学)(名古屋学芸大学)	地域公衆栄養学実習、地域公衆栄養学臨地実習、健康情報論実習、公衆栄養学実習、給食経営管理実習Ⅰ、給食経営管理実習Ⅱ、給食経営管理臨地実習、応用栄養学実習、環境衛生学実習	食用カンナ葉部の化学的・栄養学的特性
助 手	彼末 富貴	高知女子大学家政学部食物栄養学科卒業	学士(家政学)	調理学実習、生体科学実験・実習	土佐の伝統食
特 任 教 授	稲井 玲子	徳島大学大学院栄養学研究科修了	博士(農学)(愛媛大学)	栄養教育論	食育を通しての体づくり(食品の機能性に関する研究)

【 地域教育研究センター 】

職 名	氏 名	最終学歴	学 位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教 授	石山 貴章	高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士(社会福祉学) (高知女子大学)	教育心理学、発達心理学、教育方法論、生徒指導論、教育相談論、特別支援教育概論、教育実習、介護等体験	特別支援教育の授業づくり 障害者の就労支援に関する研究 心理検査/発達検査におけるアセスメントと支援アプローチ
教 授	一色 健司	京都大学大学院理学研究科博士後期課程単位取得退学	理学博士 (京都大学)	基礎化学、地球の科学	環境水中の微量元素を指標とした環境動態の解明 微量元素の超高感度分析法・存在状態の解析法の開発
教 授	清原 泰治	筑波大学大学院修士課程体育研究科修了	体育学修士 (筑波大学)	健康スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ、地域学実習Ⅰ・Ⅱ、健康とヘルスプロモーション	日本のスポーツ産業の発展史 明治期における地域の自主的運動団体に関する研究 1950～1970年代の高知県における市町村民運動会の社会的機能に関する研究 高知県の中山間地域の活性化と大学教育
教 授	鈴木 康郎	筑波大学大学院博士課程教育学研究科単位取得満期退学	教育学修士 (筑波大学)	教育原理、教師論、道徳教育論、人権教育論、地域学実習	多文化社会におけるマイノリティの文化・教育問題とその改善に向けた教育のあり方に関する理論的・実証的研究 グローバル化の進展により公教育そのものが変容を迫られている状況に着目した基礎教育改革に関する研究 アジアにおける小学校英語教育の実施状況や多様な価値の共存に向けた道徳教育に関する国際比較研究 ボーダースタディーズの手法を用いた国境地域における教育交流の実態に関する研究

【 総合情報センター 】

職 名	氏 名	最終学歴	学 位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
准教授	風間 裕	北海道大学大学院理学研究科博士課程修了	理学博士 (北海道大学)	物理学通論、量子物理学、物理と自然法則	コンピュータを用いた物理学の教材開発 軽い核の構造解析
助 教	名和 真一	京都大学大学院理学研究科博士後期課程単位取得退学	理学博士 (京都大学)	情報処理概論、コンピュータリテラシ	核力と量子色力学(QCD) 計算機物理

【 健康長寿センター 】

職 名	氏 名	最終学歴	学 位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
特 任 准教授	森下 幸子	高知女子大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知女子大学)	訪問看護、在宅看護援助論、在宅看護実習、臨床看護論Ⅰ、高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	組織学習を支える訪問看護管理者のコンサルテーション力を高める教育支援の研究 ヤングケアラーとその家族の家族レジリエンスを高める看護ガイドラインの構築
特 任 助 教	山本 かよ	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	訪問看護、高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	コロナ禍における新任訪問看護師育成研修に関する研究

（2）大学院

○看護学研究科看護学専攻 （博士前期課程）

領 域	職 名	氏 名	主たる担当科目
－	教 授	畦地 博子	看護理論と実践、看護研究と実践、共創看護学セミナーほか
－	教 授	池添 志乃	看護理論と実践、看護学基盤論、学校保健研究ほか
－	教 授	池田 光徳	病態生理学、フィジカルアセスメント特論、バイオメトリクス看護学演習ほか
－	教 授	内田 雅子	ケア論、慢性看護ケア研究、慢性看護方法論、慢性看護学実践演習ほか
－	教 授	瓜生 浩子	家族看護論、家族看護方法論Ⅰ・Ⅱ、家族看護学実践演習ほか
－	教 授	大川 宣容	クリティカルケア看護方法論、クリティカルケア看護学実践演習ほか
－	教授	木下 真里	グローバルヘルス論、災害看護論、グローバル社会看護論、災害国際看護方法論ほか
－	教 授	久保田 聰美	看護管理論、システム経営管理論、看護管理の動向と展望ほか
－	教 授	田井 雅子	精神看護方法論、精神看護展開論、精神看護学実践演習ほか
－	教 授	竹﨑 久美子	看護倫理、看護学基盤論、臨床倫理、老人看護ケア研究、老人看護論ほか
－	教 授	時長 美希	地域看護論、看護学基盤論、地域ケア研究、地域保健学専門演習ほか
－	教 授	中野 綾美	看護研究と実践、小児看護論、小児看護方法論Ⅰほか
－	教 授	長戸 和子	家族看護論、家族看護方法論Ⅰ・Ⅱ、家族看護学実践演習ほか
－	教 授	藤田 佐和	看護倫理、がん看護論、がん看護方法論、がん看護課題研究ほか
－	教 授	森下 安子	在学看護論、在宅看護展開論、在宅看護方法論、看護マネジメント論ほか
－	教 授	森本 悦子	緩和ケア特論、がん看護方法論、がん看護実践演習ほか
－	教 授	山田 覚	データ分析方法論Ⅰ、看護管理論、システム経営管理論、災害看護管理セミナーほか
－	教 授	渡邊 聡子	母性・助産看護ケア研究、女性健康看護論、女性健康支援論ほか
－	教授	大村 誠	環境防災学
－	准教授	内川 洋子	看護管理展開論、看護マネジメント論、看護教育学研究方法Ⅰ・Ⅱほか
－	准教授	飯髙 伸五	学際的研究方法
－	准教授	川上 理子	在宅看護方法論、在宅看護展開論、在宅看護学実践演習ほか
－	准教授	佐東 美緒	小児看護対象論、小児看護方法論、小児看護ケア研究ほか
－	准教授	高谷 恭子	看護研究と実践、小児看護論、こころの発達ほか
－	准教授	藤代 知美	精神看護展開論、精神看護学実践演習ほか
－	准教授	吉川 孝	学際的研究方法
－	講 師	有田 直子	小児看護方法論、小児看護学実践演習、看護コンサルテーション論ほか
－	講 師	井上 正隆	データ分析方法論Ⅱ、クリティカルケア研究
－	特任教授	神原 咲子	災害看護論、グローバル社会看護論、災害看護活動論（準備期）ほか

○看護学研究科看護学専攻 （博士後期課程）

領 域	職 名	氏 名	主たる担当科目
－	教 授	畦地 博子	理論看護学Ⅰ、看護学研究方法Ⅰ、看護倫理学、共創看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
－	教 授	池添 志乃	学校保健学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
－	教 授	池田 光徳	医学研究方法論、看護病態生理学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
－	教 授	内田 雅子	成人看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
－	教 授	瓜生 浩子	家族看護学Ⅱ
－	教 授	大川 宣容	成人看護学Ⅱ
－	教授	木下 真里	プロフェショナルライティングほか
－	教 授	田井 雅子	精神看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
－	教 授	竹﨑 久美子	老人看護学Ⅰ・Ⅱ
－	教 授	時長 美希	地域看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
－	教 授	中野 綾美	看護学研究方法Ⅰ、小児看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
－	教 授	長戸 和子	家族看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
－	教 授	藤田 佐和	理論看護学Ⅰ、看護倫理学、がん看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
－	教 授	森下 安子	在宅看護学Ⅰ・Ⅱ
－	教 授	森本 悦子	がん看護学Ⅱ
－	教 授	山田 覚	看護学研究方法Ⅱ、看護経営管理学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
－	准教授	吉川 孝	理論看護学Ⅱ
－	特任教授	神原 咲子	災害・国際看護学Ⅰ
－	特任教授	野嶋 佐由美	理論看護学Ⅰ、看護学研究方法Ⅰ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

○看護学研究科共同災害看護学専攻 （博士課程）

領 域	職 名	氏 名	主たる担当科目
－	教 授	木下 真里	災害看護リーダーシップ・管理論、インデペンデントスタディ、インターンシップⅠ・Ⅱ、災害看護ゼミナールAほか
	教 授	山田 覚	災害看護活動論Ⅳ、インデペンデントスタディⅠ、災害看護ゼミナールAほか
－	教 授	大村 誠	環境防災学Ⅰ
－	特任教授	神原 咲子	理論看護学Ⅱ、災害看護災害看護活動論Ⅳ、インデペンデントスタディⅠ、災害看護ゼミナールAほか

○人間生活学研究科人間生活学専攻 （博士前期課程）

領 域	職 名	氏 名	主たる担当科目
基 礎	教 授	石山 貴章	教育心理学特論
基 礎	教 授	清原 泰治	地域スポーツ論
基 礎	教 授	鈴木 康郎	教育学特論
栄養・生活学	教 授	一色 健司	研究方法論Ⅰ、データ解析論、環境解析論、栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	教 授	小林 淳	栄養生活統計論、環境生態論、栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	教 授	村上 尚	臨床栄養学特論、健康動態論、栄養・生活特論Ⅰ、栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	教 授	渡邊 浩幸	研究方法論Ⅰ、食品生化学特論、食物科学論、栄養・生活学課題研究演習ほか
栄養・生活学	特任教授	稲井 玲子	食生活論Ⅰ・Ⅱ、食生活論演習
栄養・生活学	准教授	荒牧 礼子	栄養疫学論
栄養・生活学	准教授	鈴木 麻希子	栄養学特論、栄養・生活特論Ⅰ・Ⅱ、栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	講 師	竹井 悠一郎	臨床栄養学特論、栄養・生活特論Ⅰ、栄養・生活学課題研究演習
社会福祉学	教 授	杉原 俊二	データ解析論、児童・家庭福祉論Ⅰ・Ⅱ、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教 授	田中 きよむ	社会保障論、福祉行財政論、地域福祉論Ⅰ・Ⅱ、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教 授	長澤 紀美子	国際福祉論Ⅰ・Ⅱ、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教 授	西内 章	研究方法論Ⅱ、ソーシャルワーク論、高齢者福祉論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教 授	丸山 裕子	精神科ソーシャルワーク論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教 授	宮上 多加子	介護福祉論Ⅰ・Ⅱ、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教 授	横井 輝夫	健康リハビリテーション論、福祉リハビリテーション論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	准教授	遠山 真世	研究方法論Ⅱ、障害者福祉論
社会福祉学	准教授	西梅 幸治	研究方法論Ⅱ、ソーシャルワーク論、社会福祉原論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	准教授	福間 隆康	研究方法論Ⅱ、 地域福祉論Ⅰ ・ Ⅱ
社会福祉学	准教授	三好 弥生	介護福祉論Ⅰ・Ⅱ、障害者福祉論
文化学	教 授	五百藏 高浩	英語文化論Ⅰ、英語教育学特論Ⅰ・Ⅱ、文化学課題研究演習、英語教育実践研究Ⅰ
文化学	教 授	岩倉 秀樹	研究方法論Ⅲ、地域文化論Ⅳ、地域文化論Ⅰ・Ⅱ
文化学	教 授	大村 誠	地域文化論Ⅰ・Ⅲ、文化学課題研究演習
文化学	教 授	高西 成介	中国文化論、文学Ⅰ・Ⅲ
文化学	教 授	橋尾 直和	日本文化論Ⅰ、研究方法論Ⅲ、日本語文化論
文化学	教 授	東原 伸明	文学Ⅰ・Ⅱ、文化学課題研究演習
文化学	教 授	三浦 要一	観光文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、文化学課題研究演習
文化学	教 授	ヨース・ジョエル	日本文化論Ⅰ・Ⅱ、国際日本学、異文化理解特論、文化学課題研究演習
文化学	准教授	金澤 俊吾	研究方法論Ⅲ、英語学特論Ⅰ・Ⅱ、英語言語文化論特論Ⅰ、英語教育実践研究Ⅰ
文化学	准教授	菊池 直人	研究方法論Ⅲ
文化学	准教授	白岩 英樹	研究方法論Ⅲ、英語文化論Ⅱ、英語圏文化特論Ⅱ、英語言語文化論特論Ⅱ、英語教育実践研究Ⅱほか
文化学	准教授	鳥飼 真人	英語文化論Ⅲ、英語圏文学特論Ⅰ、英語圏文化特論Ⅰ、英語教育実践研究Ⅱ
文化学	准教授	吉川 孝	研究と倫理、観光文化論Ⅰ、文化学課題研究演習

○人間生活学研究科人間生活学専攻 （博士後期課程）

領 域	職 名	氏 名	主たる担当科目
栄養・生活学	教 授	大村 誠	研究デザイン、地球環境解析学、栄養・生活学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
栄養・生活学	教 授	小林 淳	環境生態学
栄養・生活学	教 授	村上 尚	研究倫理、健康動態学、栄養・生活学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
栄養・生活学	教 授	渡邊 浩幸	研究倫理、食品機能学、栄養・生活学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
栄養・生活学	講 師	竹井 悠一郎	食品機能学
社会福祉学	教 授	杉原 俊二	研究デザイン、研究倫理、障害者福祉学、児童・家族福祉学、社会福祉学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
社会福祉学	教 授	長澤 紀美子	研究デザイン、国際福祉政策学、社会福祉学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
社会福祉学	教 授	西内 章	地域ソーシャルワーク学
社会福祉学	教 授	宮上 多加子	研究倫理、介護福祉学、社会福祉学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
社会福祉学	教 授	横井 輝夫	福祉リハビリテーション学
文化学	教 授	五百藏 高浩	研究倫理、言語文化学Ⅱ、文化学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
文化学	教 授	東原 伸明	研究デザイン、言語文化学Ⅰ、文化学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
文化学	教 授	三浦 要一	研究デザイン、地域文化学Ⅰ・Ⅱ、文化学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

（3）非常勤講師・臨床教授・客員教授

	職　名	氏　　名	担当科目
文化学部	非常勤講師	安藤　麻貴	フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ、異文化理解Ⅰ
		池　　純子	中国語基礎Ⅰ・Ⅱ
		岩佐　和幸	グローバル平和論
		大谷　俊彦	書道
		シュテファン・フーク	ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ
		細居　俊明	国際開発論
		渡部　　淳	日本文化論
看護学部	非常勤講師	穴山　貴嗣	病態と治療Ⅰ
		新　　良治	病態と治療Ⅱ
		今井　　利	病態と治療Ⅰ
		上野　晃子	助産診断論
		浦田　知之	病態と治療Ⅰ
		栄徳　勝光	健康管理論、公衆衛生学
		戎　正司	心のしくみ
		大上　賢祐	病態と治療Ⅰ
		大西　広志	病態と治療Ⅰ
		岡林　雄大	病態と治療Ⅱ
		岡本　宣人	病態と治療Ⅱ
		岡谷　恵子	看護と政策
		尾崎　和秀	病態と治療Ⅱ
		尾原　義和	病態と治療Ⅰ
		金澤　亜錦	小児と疾患
		上村　直人	心のしくみ
		川添　哲嗣	在宅医療
		川原　由佳里	医療史
		吉川　清志	小児と疾患
		熊田　孝恒	行動科学
		小島　優子	生命の科学と倫理
		小松　淳子	母性学、助産学
		小松　利広	微生物学
		是永　正敬	微生物学
		齋藤　源顕	薬理学
		佐々木　潔	小児と疾患
		澤田　　健	心のしくみ
		清水　翔吾	薬理学
		清水　孝洋	薬理学
		下嶽　ユキ	公衆衛生学
		十萬　敬子	医療と経営
		菅沼　成文	健康管理論、公衆衛生学
		高橋　成彦	母性学
		高橋　美枝	病態と治療Ⅰ
		高畠　大典	病態と治療Ⅱ
		田口　崇文	病態と治療Ⅱ
		田鍋　雅子	医療と経営
		谷口　睦男	人体の機能Ⅰ・Ⅱ
		土本　啓嗣	小児と疾患
		土山　芳徳	病態と治療Ⅱ
		手島　　恵	看護学の動向と課題
		土井　　彰	病態と治療Ⅰ
		砥谷　和人	病態と治療Ⅰ
		所谷　知穂	小児と疾患
		永井　立平	助産学
		中田　裕生	小児と疾患
		永野　志歩	心のしくみ
		永野　史翔	小児と疾患

	職　名	氏　　名	担当科目
看護学部	非常勤講師	西内　律雄	小児と疾患、病態と治療Ⅱ
		西岡　明人	医療と経営
		東　洋一郎	薬理学
		日高　千晴	人体の構造Ⅰ・Ⅱ
		平野　世紀	病態と治療Ⅱ
		福井　直樹	病態と治療Ⅰ
		福永　一郎	地域保健政策
		藤田　博一	心のしくみ
		松本　　務	在宅医療
		三浦　悠作	病態と治療Ⅰ
		南　　晋	母性学
		宮澤　真理	小児と疾患
		宮野　伊知郎	公衆衛生学
		宮本　　寛	在宅医療
		森田　聡美	母性学
		山川　泰明	病態と治療Ⅱ
		山本　寄人	母性学、助産学
		脇川　晃子	助産診断論
	臨床教授	小野　憲昭	臨床講義
		中島　信恵	地域保健政策、医療と経営
		林　　和俊	母性学、助産学
		福井　康雄	医療と経営
社会福祉学部	非常勤講師	奥谷　文乃	医学概論
		加藤　誠之	更生保護制度
		鈴木　孝典	精神保健福祉論Ⅰ・Ⅱ
		関　　草路	生活支援技術Ⅳ
		玉里　恵美子	社会学と社会システム
		山﨑　正雄	精神医学
健康栄養学部	非常勤講師	片山　訓博	運動生理学
		河野　俊夫	フードシステム学
		高野　康夫	人体の構造と機能
	客員教授	宮澤　公栄	
		山之内　大	
共通教養教育科目	非常勤講師	片田　一義	英語コミュニケーション
		北川　泰生	英語コミュニケーション
		サイモン・クインラン	英語コミュニケーション
		宮本　祥子	英語コミュニケーション
		スティーブン・チャー	英語コミュニケーション
		ヘルムリンガー・麻美	英語コミュニケーション
		中川　ふさ	英語コミュニケーション
		吉田　祐子	英語コミュニケーション
		松吉　明子	英語コミュニケーション
		ジョナサン・ヘルムリンガー	英語コミュニケーション
		中嶋　紀子	英語コミュニケーション
		ミケランジェロ・マガシク	英語コミュニケーション
		ショーン・ブルゴワーン	英語コミュニケーション
		李　賢珠	英語コミュニケーション
		野中　陽一朗	心理学
		福住　紀明	心理学
		谷地森　秀二	土佐の自然と暮らし
		前田　綾子	土佐の自然と暮らし
		有川　幹彦	基礎生物学
		常行　泰子	健康スポーツ科学
		宮本　隆信	健康スポーツ科学
		駒井　説夫	健康スポーツ科学

	職 名	氏 名	担当科目
教職課程	非常勤講師	鹿嶋 真弓	特別活動論、教育の方法と技術及び総合的な学習の時間の指導法、生徒指導の理論と方法及び特別活動の指導法
		福石 賢一	教育課程論
看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）	非常勤講師	常風 興平	臨床薬理学
		森田 靖代	臨床薬理学
		吉岡 三郎	臨床薬理学
		柳林 信彦	看護教育論Ⅰ
		小寺 栄子	看護教育論Ⅱ
		Ngatu Nlandu Roger	疫学研究方法論
		尾形 裕也	保健医療政策と経済Ⅰ
		岡谷 恵子	保健医療政策と経済Ⅱ、看護学の動向と展望
		鈴木 志津枝	看護学の動向と展望
		勝原 裕美子	最新専門看護実践講座Ⅰ
		藤田 冬子	最新専門看護実践講座Ⅰ
		亀井 智子	最新専門看護実践講座Ⅱ
		中井 寿雄	最新専門看護実践講座Ⅱ
		熊田 孝恒	学際的研究方法
		武田 祐子	がん看護論
		宮村 充彦	がん薬理学
		北岡 智子	がん薬理学
		掛田 恭子	がん薬理学
		杉本 健樹	がん薬理学
		土山 芳徳	慢性疾患診断治療学Ⅱ
		岡本 宣人	慢性疾患診断治療学Ⅱ
		尾原 義和	慢性疾患診断治療学Ⅱ

	職 名	氏 名	担当科目
看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）	非常勤講師	明石 恵子	クリティカルケア看護論Ⅱ
		濱田 暁	クリティカルケア診断治療学Ⅰ
		西田 武司	クリティカルケア診断治療学Ⅰ、家族看護対象論
		盛實 篤史	クリティカルケア診断治療学Ⅰ
		土本 啓嗣	小児診断治療学Ⅱ
		佐々木 潔	小児診断治療学Ⅱ
		西内 律雄	小児診断治療学Ⅱ
		中田 裕生	小児診断治療学Ⅱ
		宮澤 真理	小児診断治療学Ⅱ
		金澤 亜錦	小児診断治療学Ⅱ
		所谷 知穂	小児診断治療学Ⅱ
		谷村 正信	老年病診断治療学Ⅱ
		宮本 寛	老年病診断治療学Ⅱ
		戎 正司	精神診断治療学Ⅰ
		岡田 俊	精神診断治療学Ⅰ
		高橋 美枝	家族看護対象論
		池田 幸雄	家族看護対象論
		田上 豊資	保健学研究
		星 旦二	保健学研究
看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）	非常勤講師	中山 洋子	理論看護学Ⅱ
		川口 孝泰	イノベーション看護学
		中込 さと子	イノベーション看護学
		大田 えりか	国際看護学
看護学研究科共同災害看護学専攻（博士課程）	非常勤講師	李 賢珠	professional writing
人間生活学研究科人間生活学専攻（博士前期課程）	非常勤講師	小島 優子	ジェンダー論

Ⅳ　教育及び研究

1　学部・大学院の概要（3つの方針）

【 学　部 】

○文化学部

ディプロマ・ポリシー

人文・社会系諸科学の知識を身につけ、多様な社会や文化を理解し、豊かな共生社会の実現、新たな文化の創造及び自律した自己の成長を追求することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 幅広い教養と人文・社会系諸科学の基本的な知識を身につけ、多様な文化に関して多角的な視点から理解することができる。
2. 言語文化系と地域文化創造系を中心とする人文・社会系諸科学の専門的知識を体系的に理解し、その知識体系を自らの問題意識の中に位置づけることができる。

（汎用的・実践的技能）

3. 社会や文化に関する深い洞察に基づいて、日本語や外国語による高度な文章表現能力・他者との円滑なコミュニケーション能力・グローバルな情報発信能力を身につけている。
4. 必要な情報を幅広く収集し、的確に整理・分析することを通じて、その問題を解決できる能力を身につけている。

（態度・志向性）

5. 豊かな共生社会の実現に向けて、能動的かつ自律的に地域社会・国際社会の諸問題の解決に取り組むことができる。
6. 社会や文化に深い関心を持ち、生涯にわたって学び、考えていく意欲を持っている。

（総合的な学習経験と創造的思考力）

7. これまでに体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想のもとで新たな文化を創造することに貢献するとともに、自律した個人としての自己の成長を追求することができる。

カリキュラム・ポリシー

文化学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

(1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。

(2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。

(3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形

式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

専門教育科目には、学部共通科目と学部専門科目を置く。

（カリキュラムの構造・教育内容）

(1) 学部での学びの基礎的能力及びコミュニケーション能力を身につけるためのリテラシー科目、学部教育の基礎となる知識を身につけるためのエッセンシャル科目、就業力を高めるためのキャリア形成科目から成る学部共通科目を設置する。

(2) 人文・社会系諸科学の専門的知識を幅広くかつ体系的に体得するために、言語文化系（英語学領域、国際文化領域、日本語学領域、日本文学領域）、地域文化創造系（地域文化領域、地域づくり領域、観光文化領域、観光まちづくり領域、現代法文化領域、生活法文化領域）、文化総合系（言語文化系及び地域文化創造系の教育内容を総合的に学ぶ）の3つの系から成る学部専門科目を設置する。

(3) 専門的な知識・理解をより深め、専門的な研究手法を学ぶために各領域に専門演習を設置し、また、学部教育で体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、必要な情報の収集とその的確な整理・分析を通じて、能動的かつ自律的に現代社会の諸問題を発見し、これを解決する能力を養うために課題研究ゼミナールを設置する。

(4) この他、中学校・高等学校（国語、英語）の教職課程を設置する。

（履修方法・順序）

学部共通科目は、主に1、2年次に履修する。学部専門科目は、主に2～4年次に履修する。各領域の専門演習及び課題研究ゼミナールは、3、4年次に履修する。

（教育方法）

学部共通科目及び学部専門科目では、学生が能動的に学習するよう多様な教育方法を取り入れる。学部共通科目の基礎演習、各領域の専門演習及び課題研究ゼミナールは、少人数による演習形式で行い、課題研究ゼミナールでは学部教育の集大成として卒業研究を仕上げる。

（評価）

学部のディプロマ・ポリシーに基づいて各授業科目の達成目標を定め、達成目標及び成績評価の基準・方法を学生に周知し、それに基づいて成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果も踏まえて、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質の保証に努める。

アドミッション・ポリシー

文化学部は、人文・社会系諸科学による多角的な文化研究により人間・社会に対する理解を深め、文化の批判的継承を通して豊かな人間性と主体的に行動し得る能力を培い、地域文化の創造と向上に資するとともに、真に豊かな共生社会の実現に向けて国際的に貢献できる市民を養成します。

したがって、文化学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 人文・社会系諸科学を理解する上で必要な基礎的素養、すなわち高等学校等で履修する主要な教科に関する十分な基礎学力を有している人〔知識・理解〕

2. 高等学校等で履修した幅広い基礎的素養を基に、物事を論理的に思考・判断し、これを言語によって適切に表現する能力を備えている人〔思考力・判断力・表現力〕
3. 人間・社会に広く関心を持ち、言語、地域、観光、法学などの視点から人文・社会系諸科学の専門的知識を身につけたいと考えている人〔関心・意欲・主体性・協働性〕
4. 人間に対する理解を深め、実践的なコミュニケーション能力を体得し、現代社会の諸課題を主体的に発見・分析・解決するために必要な学習に意欲のある人〔関心・意欲・主体性・協働性〕
5. 将来、地域社会・国際社会の幅広い分野で豊かな共生社会の実現に向けて活動したいと考えている人〔関心・意欲・主体性・協働性〕

入学者選抜の基本方針

■文化学部[言語文化系／地域文化創造系]が行う入学者の選抜方法には、一般選抜(前期日程・後期日程)、学校推薦型選抜(県内・全国)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜、3年次編入学選抜があります。

・一般選抜(前期日程)

大学入学共通テストと小論文を課します。大学入学共通テストでは、基礎学力を把握するため、国語、外国語及び受験者が自由に選択できる1教科の計3教科3科目(又は4科目)を課します。小論文では、高等学校等での基礎学力を前提に、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力、表現力を総合的に評価します。

・一般選抜(後期日程)

大学入学共通テストと面接を課します。大学入学共通テストでは、基礎学力を把握するため、国語、英語及び受験者が自由に選択できる1教科の計3教科3科目(又は4科目)を課します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜(県内・全国)

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、小論文と面接を課します。小論文では、高等学校等での基礎学力を前提に、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、課題に対する基礎的知識を総合的に評価します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験と面接を課します。日本留学試験では、文化学部で学ぶ上で必要な基礎的能力を評価します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学

ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は、志望動機書も参考にして質問します。

・3年次編入学選抜

小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容、TOEIC の結果も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

■文化学部［文化総合系（夜間主コース）］が行う入学者の選抜方法には、学校推薦型選抜（県内）、社会人選抜、3年次編入学選抜があります。

・学校推薦型選抜（県内）

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、面接を課します。口頭試問を含む面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は、調査書・推薦書・志望動機書も参考にして質問します。

・社会人選抜（A日程・B日程）

社会人経験を有する者又は就業しながら勉学する意思がある者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

・3年次編入学選抜

小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

○看護学部

ディプロマ・ポリシー

看護学部は、豊かな人間性と社会の課題に取り組む態度を身につけ、看護の理念や専門的知識・技術、ヒューマニズムを礎として、将来に向かって拓かれた看護を構築し、健康問題を人々と共に解決し、人々の健康生活の創造に貢献ができる豊かな人間性・創造性を獲得することを目指し、以下の能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 専門的知識、技術、科学的論理性及び倫理的判断に基づいて、保健・医療・福祉などのあらゆる場で看護を実践することのできる能力を有している。

（汎用的・実践的技能）

2. 人間の多様な生き方や価値観を理解し、尊厳と権利を尊重して、コミュニケーションを取りながら他者と関係性を築くことのできる能力を有している。
3. 地域の健康課題を予測し、リーダーシップを発揮して多職種と協働しながら健康課題を解決することのできる能力を有している。

（態度・志向性）

4. 看護専門職者としてのアイデンティティを培い、生涯にわたって専門性を高めることのできる能力を有している。

（総合的な学習経験と創造的思考力）

5. 看護の質の向上に資する研究をすることができる基礎的な能力を有している。
6. 国際的及び学際的見地に立って看護学を理解することのできる能力を有している。
7. 看護の専門性を活かして、地域で生活する人々の健康と安全・安心な社会を創造することのできる基礎的な能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

看護学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

(1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。
(2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
(3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。
(4) 共通教養教育科目により、看護の対象である人間を総合的に理解し、グローバルにものごとや社会を捉える能力、豊かな人間性と感受性を培う。

2. 専門教育科目

専門教育科目は、看護を展開する上で必要となる専門的知識、技術、科学的思考、問題解決能力、国際性・学際性を修得するために、「専門基礎科目」「看護基礎科目」「看護臨床科目」「総合科目」を置く。

（カリキュラムの構造・教育内容）

(1) 専門基礎科目は、人間の健康と疾病の成り立ちや治療に関する専門的知識や、個人・家族・地域の連続性の中で人々の健康を理解するための知識の修得を目指した科目を置く。
(2) 看護基礎科目は、看護学の概念や基礎的な知識を学び、看護の対象理解、看護者としてのものの見方や考え方、看護技術の修得を目指した科目を置く。
(3) 看護臨床科目は、共通教養教育科目、専門基礎科目、看護基礎科目での学びを基盤とする人間の総合的な理解をふまえ、人々の多様な生き方や価値観を理解し、尊厳と権利を尊重しながら、科学的思考、問題解決能力を用いて健康問題を解決し、健康的な生活の向上をはかるための看護を展開する能力を養うことを目指

した科目を置く。

(4)総合科目は、看護専門職者としてのアイデンティティを培うとともに、地域の健康課題を予測し、主体的、積極的に学ぶ姿勢を持ち、国際的・学際的見地に立って、研究的な視点で看護の本質を探究していく基礎的能力を養うための科目を置く。

(履修方法・順序)

(1)入学後早期より、看護学への関心を高め、専門的知識と技術を修得するための看護基礎科目と、看護の対象である人間を理解する基礎となる知識を修得するための専門基礎科目を平行して学びながら、学年進行に従って基礎から応用へと専門性を深めることができる構成とする。

(2)看護基礎科目、専門基礎科目を基盤として、人間の発達段階や健康レベル、個と集団など多様な対象への看護を展開する能力を修得するために、看護臨床科目では各専門領域の看護に関する知識と技術を学び、臨地実習科目で応用、統合できる構成とする。

(3)学内で学んだ知識、技術を体系的に実践に活かすことができるように、臨地実習科目の履修にあたっては、履修要件を設ける。

(4)看護専門職者として主体的に学ぶ姿勢と倫理観を養うことができるように、4年間を通して、総合科目を配置する。また、4年次には、看護基礎科目、専門基礎科目、看護臨床科目での学修を通して学んだ知識と技術を統合し、より深い専門性と看護の本質を探究する能力を修得できるように、総合看護実習や看護研究などの総合科目を配置する。

(教育方法)

(1)本学部のディプロマ・ポリシーに沿う能力を、学生が将来を見据えて修得できるように、『看護学部のカリキュラム構成図』『看護学部履修モデル』を提示し、履修指導を行う。

(2)本学部のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、多彩な教育方法を用いる。事前課題、事後課題、グループワーク、グループ討議、アクティブラーニング等により、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。さらに、学生が知識を活用して分析し判断する力、知識と技術を統合し適切な看護ケアを考え実践する能力を高めるために、シミュレーション教育、少人数教育を行う。科学的論理的思考、新たな看護の知を創造する力を養うために、グループで看護研究を行う。また、学生が主体的に自己学習できるように、教育環境を整える。

(評価)

各講義科目・演習科目・実習科目では、本学部のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標及び成績評価の方法・基準を、授業概要・実習要項により周知し、評価を行う。卒業時には、ディプロマ・ポリシーに基づいて評価を行う。さらに学生によるカリキュラム評価を行い、その結果に基づいて、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質の保証を行う。

アドミッション・ポリシー

看護学部は、豊かな人間性と社会の課題に取り組む態度を身につけ、看護の理念や専門的知識・技術、ヒューマニズムを礎として、将来に向かって拓かれた看護を構築し、健康問題を人々と共に解決し、人々の健康生活の創造に貢献ができる豊かな人間性・創造性を持った人材を養成します。

したがって、看護学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 幅広い文系・理系の基礎的学力をもつ人〔知識・教養〕
2. 人間、生活、社会を深く理解する力をもつ人〔思考力・判断力〕
3. ものごとを論理的に考える力をもつ人〔思考力・判断力〕
4. 生涯にわたって学び続ける力をもつ人〔関心・意欲〕
5. 自分で課題を発見し、計画を立て積極的に取り組む力をもつ人〔主体性〕
6. 他者を尊重し、協働してものごとに取り組む力をもつ人〔実行力・協働性〕

入学者選抜の基本方針

看護学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程・後期日程）、学校推薦型選抜（県内）、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストにより看護学を学ぶ上で必要な基礎的学力を、個別学力検査（小論文、面接）により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストにより看護学を学ぶ上で必要な基礎的学力を、個別学力検査（面接）により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜（県内）

学校長が推薦する者を対象として、小論文と面接により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接により看護を学ぶ上で必要な基礎的学力と、人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性と、社会的経験を通して培った能力を総合的に評価します。面接者は、志望動機書も参考にして質問します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験により日本の大学で看護学を学ぶ上で必要な日本語能力と基礎的学力を、小論文と面接により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性と日本語による口頭でのコミュニケーション能力を総合的に評価します。

○社会福祉学部

ディプロマ・ポリシー

共生社会を志向する市民としての素養を基礎に、社会福祉専門職として必要な価値・知識・技術を獲得することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門的知識を体系的に理解することができる。
2. 人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。

（汎用的・実践的技能）

3. 多様化・複雑化する福祉ニーズを科学的視点で捉え、個人が抱えている課題を社会との関係において把握することができる。
4. コミュニケーションスキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討したうえで、課題解決の方策を提案することができる。

（態度・志向性）

5. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。
6. ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。

（総合的な学習経験と創造的思考力）

7. 個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。
8. 総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を実践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。

カリキュラム・ポリシー

社会福祉学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

(1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。

(2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。

(3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

（カリキュラムの構造・教育内容）

専門教育科目については、相談援助を基礎として、介護福祉や精神保健福祉分野にも関連する人権や社会正義の価値に裏打ちされた社会福祉学の専門的及び実践的な知識・技術を修得するために11科目群を設定している。科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置している。

基礎段階では、11科目群のうち、「基本科目」・「社会福祉制度科目」・「からだとこころの理解科目」 を置いて

いる。基礎及び応用段階に属する科目群として、「相談援助基礎科目」・「介護福祉理解科目」を置いている。加えて応用段階では、科目群として、「地域・国際福祉科目」・「社会復帰支援科目」を置いている。応用及び発展段階に属する科目群として、「相談援助実践科目」・「介護福祉実践科目」・「精神保健福祉実践科目」・「総合科目」を置いている。

（履修方法・順序）

基礎段階の科目は、主に1～2年次に履修する。応用段階の科目は、主に2～3年次に履修する。発展段階の科目は、主に3～4年次に履修する。また、社会福祉領域における相談援助に必要な知識と技術を担保する前提となる資格として、社会福祉士国家試験受験資格を位置づけており、加えて、希望により介護福祉士国家試験受験資格又は精神保健福祉士国家試験受験資格も取得することができる。

（教育方法）

各科目については、事前・事後課題、グループ討議、リアクションペーパーなどを取り入れ、アクティブラーニングを重視した教育方法により展開する。特に応用段階及び発展段階の各科目では、基礎段階で学んだ知識・技術を定着・深化させ、専門職としての社会福祉実践に求められる総合的な知識・技術や社会福祉学を探究する力を身につけるために、少人数での演習・実習形式を積極的に取り入れる。

（評価）

学部の理念・目標に基づいて各授業科目の具体的な到達目標を定め、成績評価の基準・方法と共に学生に周知している。各段階及び各科目の特性に応じた多面的な評価方法を取り入れ、社会福祉専門職にふさわしい資質能力を獲得できたかについて、科目ごとに定める評価項目と基準に沿った成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果に基づいて、カリキュラムの改善を図り、教育の質の保証を行う。

アドミッション・ポリシー

社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を養成します。

したがって、社会福祉学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 高等学校等で学ぶ基本的な科目の学力を有する人〔知識・教養〕
2. 人に対して関心を持ち、協調性を大切にして柔軟に行動できる人〔思考力・判断力・表現力〕
3. 自ら行動することによって、課題の発見や分析を行うことができる人〔思考力・判断力・表現力〕
4. 地域や家族の福祉課題に関心を持ち、その解決方法を学びたい人〔熱意・意欲〕
5. 他者と協働して、人々の生活を支え、よりよい地域社会を創造したい人〔熱意・意欲、主体性・協働性〕

入学者選抜の基本方針

社会福祉学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程・後期日程）、学校推薦型選抜（県内・全国）、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜（前期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、課題図書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・一般選抜（後期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、自己 PR 書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜（県内・全国）

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、当日指定するテーマに関するレポート及び集団討論、面接を行います。レポートでは、知識、思考力、表現力等を評価します。集団討論では、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価します。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書・志望動機書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、社会福祉学部で学ぶ上で必要な理解力、論理的思考力、文章表現力及び英文読解力等、高等学校等での学習を前提にした基礎的な学力を総合的に評価します。面接は、志望動機書及び履歴書を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験の日本語と総合科目を課すとともに、面接を行います。面接は、志望動機書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲や日本語によるコミュニケーション能力を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

○健康栄養学部

ディプロマ・ポリシー

豊かな教養と社会の諸問題に取り組む態度を身につけ、人間や健康の本質を理解しながら、生命の源である「食」を探究し、人々が健康に生活できるよう貢献できることを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 広範な学問領域における教養を身につけることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域社会の特性を理解することができる。
2. 健康の保持増進、傷病の予防・回復のために必要な栄養学的知識と技術、指導方法を修得している。

（汎用的・実践的技能）

3. 地域を取りまく諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理して、提案することができる。

4. 管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度及び考え方の総合的能力を身につけている。

（態度・志向性）

5. 栄養や食生活の専門家として、知識や技術を高めるよう生涯にわたって努力することができる。

（総合的な学習経験と創造的思考力）

6. 公衆衛生を理解し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行うことができる。

7. 健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養教育、食生活指導を行うことができる。

カリキュラム・ポリシー

健康栄養学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

(1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。

(2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。

(3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

国際性及び社会性を持った管理栄養士を養成するために、「基礎科目」「専門基礎分野」「専門分野」の3科目群を置く。それぞれの科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置する。

（カリキュラムの構造・教育内容）

(1) 基礎科目の科目については、他の専門教育科目を履修する上で必要な予備知識や基礎学力を向上させるための補完科目として設置する。

(2) 専門基礎分野の科目については、専門分野における知識や技術を修得するための基盤を身につけるために設置する。専門基礎分野を3つの科目群に分け、それぞれ「社会・環境と健康」「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」「食べ物と健康」を教育内容として位置づける。「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」と「食べ物と健康」の科目群によって、人間や生活についての理解を深めさせ、「社会・環境と健康」の科目群によって、社会や環境、健康と食生活について理解させる。

(3) 専門基礎分野の中に、それぞれの教育内容の理解を深めるとともに必要な技能を修得することを目的として、「実験・実習」科目を設置する。

(4) 専門分野の科目については、様々な領域において管理栄養士や栄養教諭としての専門性を高めるために設置する。専門分野を主に6つの科目群に分け、それぞれ「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」を教育内容として位置づけるとともに、専門分野を横断して、栄養評価や栄養管理が行える総合的な能力を養うことを目的とした「総合演習」科目を設置する。

(5)専門分野の中に、管理栄養士として必要な技能を修得することを目的として、「実験・実習」科目を設置する。
(6)専門分野の「実験・実習」科目の中に「臨地実習」科目を設置し、実践活動の場で課題を発見し、それを解決することを通して、他者とのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけるとともに、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。
(7)この他、企業や公共団体等において、その事業内容に応じた社会体験を行う「企業実習」と、一連の研究プロセスを経験することで、課題を解決する能力を身につけるための「卒業研究」を設置する。

(履修方法・順序)
(1)基礎科目は、1年次に履修する。
(2)専門基礎分野のうち「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」と「食べ物と健康」の科目は、主に1、2年次に履修する。「社会・環境と健康」の科目は、主に3年次に履修する。
(3)専門分野の科目については、主に2、3年次に履修する。
(4)専門分野の「臨地実習」科目は、3年次に履修する。
(5)「企業実習」と「卒業研究」は、4年次に履修する。

(教育方法)
(1)専門教育科目に、共通教養教育科目のうちの必修科目と履修を推奨する選択科目を加えた「健康栄養学部カリキュラム構成図・履修モデル」「健康栄養学部履修モデル(栄養教諭)」を提示し、履修指導を行う。
(2)「実験・実習」科目以外の基礎科目、専門基礎分野、専門分野の科目は、事前・事後課題を与える他、グループワークや演習等により、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。

(評価)
各授業科目では、達成目標を定め、達成目標並びに成績の評価方法と評価基準を学生に周知し、それに基づき成績を評価する。学生の「授業評価アンケート」による授業評価と、卒業前に行う「管理栄養士専門的能力到達度アンケート」による学生の自己評価の2つの評価に基づいてカリキュラムの評価・改善を図ることで、教育の質の保証に努める。

アドミッション・ポリシー

健康栄養学部は、人間や健康の本質を理解しながら、生命の源である「食」を探究し、人々が健康に生活できるよう貢献できる栄養や食生活の専門家を養成することを目的としています。
したがって、健康栄養学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 地域社会や人間、健康そして「食」に対して興味・関心を持ち、さらにこれらを探求する意欲のある人〔関心・意欲〕
2. 物事に主体的かつ積極的に取り組む姿勢をもつ人〔主体性〕
3. 健康栄養学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき理系科目も含めた基礎的な知識・教養を身につけた人〔知識・教養〕
4. 幅広い視野と柔軟な感性を有し、今までの知識・教養をもとに論理的な思考によって適切に判断できる人〔思考力・判断力〕
5. 社会の一員であることを自覚し、他人の立場にたって考えることができ、コミュニケーション能力がある人〔表現力・協働性〕

入学者選抜の基本方針

健康栄養学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程）、学校推薦型選抜（県内・全国）、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストの国語・数学・理科・外国語を課すとともに、個別学力検査等では、面接を行います。面接は、プレゼンテーション形式で行い、受験者は与えられたテーマに関して自分の考えを決められた時間内でまとめて、発表（プレゼンテーション）します。面接者は、調査書も参考にして質問し、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を評価します。

・学校推薦型選抜（県内・全国）

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、小論文と面接により健康栄養学部で学ぶ上で必要な知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を評価します。なお、面接は、プレゼンテーション形式で行い、受験者は与えられたテーマに関して自分の考えを決められた時間内でまとめて、発表（プレゼンテーション）します。面接者は、調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、学校推薦型選抜や一般選抜同様、プレゼンテーション形式の面接を行うとともに、高等学校等までの理科・数学の基礎的な学力に関する口頭試問を行うことで、関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、大学での学習に必要な基礎的な日本語能力と数学や理科の知識を評価するために日本留学試験を用います。面接では、理科・数学の基礎的な学力に関する口頭試問を行うとともに、日本語によるプレゼンテーション形式の面接を行います。面接者は、日本留学試験の日本語「記述」答案や志望動機書も参考にして質問します。これらにより、関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を総合的に評価します。

【 大 学 院 】

○看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー

博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護分野における研究能力を養うことを目的とする。

1. 個人-家族-地域を多角的、複眼的視点で捉え、看護専門領域に関する理論、関連領域の知識・技術、高い倫理観を基盤として、エビデンスに基づく高度な看護実践ができる能力を有している。
2. 地域社会や生活環境の中で、人々が自立して健康生活を営むことができるように、地域の人々と協働して、健康を促進する地域文化の形成・発展に貢献できる能力を有している。
3. 社会のニーズや健康に関する課題に積極的に関与し、他の職種の専門性を尊重した上で協働しながら社会状況に対応する方略を開発する能力を有している。
4. 学際的視点をふまえて看護実践の場、教育や政策の場で看護現象を研究的視点でとらえ、論理的思考力、リーダシップとマネージメント力を発揮して変革者として貢献できる能力を有している。
5. 看護実践を支える科学的・哲学的基盤を理解し、看護研究を通して、看護学の体系化とその発展に貢献できる教育・研究能力を有している。
6. 国際的動向や多様な文化に関する幅広い知識や最新の情報を備えて、看護をグローバルな視点から捉え、看護の普遍性の追求と体系化に貢献できる能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

博士前期課程では、広い視野に立って精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を養うために、教育理念に基づき、高度実践看護師（以下 CNS）コース、研究コース、及び実践リーダーコースを設け、以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成している。

（構造・内容）

1. カリキュラムを構成する科目群として「共通科目（大学院共通科目・専攻共通科目）」と「領域専門科目」の科目群をおく。
2. CNS コースは、がん看護学、慢性看護学、クリティカルケア看護学、小児看護学、老人看護学、精神看護学、家族看護学、在宅看護学の8領域を設け、各領域で必要な講義・演習・実践演習・課題研究を含む、専門看護師認定試験受験に必要な科目をおく。
3. 研究コースは、共創看護学、成人看護学、小児看護学、家族看護学、地域看護学、看護管理学の6領域を設け、各領域で必要な講義・演習・研究を含む専門科目をおく。
4. 実践リーダーコースは、臨床看護学と地域保健学の2領域を設け、各領域で必要な講義・演習・研究を含む科目をおく。
5. 認定看護管理者認定審査受験、養護教諭専修免許、高等学校教諭（看護）専修免許に必要な科目をおく。

（順序性）

6. 1年次は看護学の学術的基盤を形成するために CNS コース、研究コース、実践リーダーコースともに共通科目を学修するように配置し、1年次後半から2年次は専門性を高める領域専門科目、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を獲得する科目を配置する。

（教育方法）

7. 前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生の将来ビジョンに向けて修得できるように、CNS コース、研究コース、実践リーダーコースの履修モデルを提示し、履修指導を行う。
8. 前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、講義、演習、実習、研究指導を行う。事前・事後課題、グループワーク、グループ討議、アクティブラーニング、シミュレーション等により、学生が主体的に学ぶ方法、専門性を高める方法を取り入れる。
9. 実践リーダーコースは、大学院設置基準第 14 条特例に基づくコースで、授業は原則、土曜日・日曜日に開講する。

（評価方法）

10. 各講義科目・演習科目・実習科目では、前期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標および成績評価の方法・基準をシラバスや実習要項により周知し、自己評価・授業評価、教員による評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価（論文審査・最終試験）を行う。
11. 修了時には学生によるディプロマ・ポリシーの達成度、修士課程で修得すべき能力の評価、カリキュラム評価を行い、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質保証を行う。

アドミッション・ポリシー

博士前期課程は、広い視野に立って、精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を有する人材を育成します。

したがって、博士前期課程では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 看護理論や看護研究に対する基礎的知識と科学的思考力をもつ人
2. 専門的知識・技術に基づき看護を展開する能力をもつ人
3. 看護学を創造していくために必要な自らの看護観・人間観・倫理観をもつ人
4. 看護現象を多面的に捉え、看護学を探求する力をもつ人
5. 生涯にわたって高度実践看護職者・教育者として、研鑽し続ける力をもつ人
6. 社会の変化や健康課題についての問題意識をもち、保健医療福祉や看護学教育を革新したいと考えている人

入学者選抜の基本方針

博士前期課程の入学試験は、「英語」「小論文」「専門科目」「面接」の試験を行い、以下の能力を総合的に評価します。

英語：英文の読解能力と設問の内容を的確に把握し、解答する能力について評価します。

小論文：看護学の発展に寄与する基礎的能力と看護に対する専門職業人としての能力（看護に関する志向性を含む）について評価します。

専門科目：基礎的理解力、科学的思考力、看護の専門的能力（専門的知識、基礎的実践能力）及び社会や健康に関わる課題に対する問題意識について評価します。

面接：看護専門職業人としての能力、基礎的な知的能力及び研究を遂行していく能力について評価します。実践リーダーコースにおいては面接時に提出された研究計画書を活用します。

○看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー

博士後期課程は、看護学の学術的基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を養うことを目的とする。

1. 看護の学識者としての責務を果たし、看護学の発展の基盤となる普遍性を有する看護哲学を追求し続ける能力を有している。
2. 看護学の学術的な基盤を発展させるために、グローバルスタンダードで看護学の知識や技術を研究開発し、看護学にイノベーションをもたらす能力を有している。
3. 最新の看護学の知識や技術、看護関連分野の知見等を活用し、倫理的・文化的基盤を持って人や社会に貢献するケアの開発に取り組み、人々の安心な生活の実現や QOL の向上を推進していくことのできる能力を有している。
4. 看護学を発展させ新たな知見を創生する研究活動を行い、社会に向けて提言できる能力を有している。
5. 国内外の専門職と連携して、政策開発や意思決定に参加し、健康医療福祉システムの構築や変革をもたらす能力を有している。
6. 科学的・学際的な基盤を持って人々の健康生活や健康文化を創造することに寄与する、次世代の高度実践看護者を養成する高等教育を担う能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

博士後期課程では、看護学の学術的基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を養うために、教育理念に基づき以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成している。

（構造・内容）

1. カリキュラムを構成する科目群として、専攻共通科目、専攻専門科目および研究支援科目の科目群をおく。
2. 分野として、がん看護学、成人看護学、小児看護学、精神看護学、家族看護学、地域看護学、在宅看護学、学校保健学、共創看護学、看護病態生理学、看護経営管理学等の分野をおく。
3. 専攻共通科目は、看護学の学術的基盤を発展させ高度な研究能力を育成するためにおく。
4. 専攻専門科目は、新たな専門的知識の蓄積・精選・拡充などをはかり、特定の看護分野の専門性を構築する科目としておく。
5. 研究支援科目は、研究課題を探究し、段階的に博士論文作成のプロセスを支持する科目としておく。

（順序性）

6. 専攻共通科目と専門性に応じて専攻専門科目を選択し、コースワークを踏まえて、3年間にわたり看護学特別研究を履修できるように編成している。
7. 博士論文作成に向けて、1年次には研究計画書の提出、2年次には中間報告会の開催、3年次には一次審査論文の提出を課し、博士論文を提出するように編成している。

（教育方法）

8. 後期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を修得できるように、履修モデルに基づき履修指導を行い、コースワークの推進、博士論文作成指導、学位審査等の教育のプロセスを支援する。
9. 研究能力を高めるために、入学時より主指導教員および副指導教員をおき、複数指導教員体制で博士論

文作成指導にあたる。

（評価方法）

10. 後期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標および成績評価の方法・基準を周知し、自己評価・授業評価、教員による評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価、博士課程で修得すべき能力の評価等（最終試験）を行う。
11. 博士論文は、主指導教員および副指導教員による研究計画書審査、倫理審査、中間報告会、公聴会を経て、博士論文審査基準に基づき学位審査委員会において審査を行う。

アドミッション・ポリシー

博士後期課程は、看護学の学術基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を有する人材を育成します。

したがって、博士後期課程では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 豊かな人間性と倫理観をもち、人々の健康や社会に対して探究する力をもつ人
2. 看護学の専攻分野の深い知識及び柔軟な発想力と想像力をもつ人
3. 看護学に関連する課題に関心をもち、課題解決に向けて研究を遂行する力をもつ人
4. 普遍性を追求し、看護学の発展に寄与する意志をもつ研究者・教育者を目指す人
5. 国際的、学際的見地から看護研究や看護学教育を通して社会に貢献したいと考えている人

入学者選抜の基本方針

博士後期課程の入学試験は、「英語」「小論文」の筆記試験を行い、口述試験と提出された研究計画書をもとに、以下の能力を総合的に評価します。

英語：英文の読解能力、設問の内容を的確に把握し解答する能力について評価します。

小論文：看護学の学術基盤や研究の発展に寄与する能力（看護の志向性を含む）と論理性、抽象的思考力、分析力、独創性について評価します。

口述試験：看護学の専門性、研究を進めていくために必要な能力を点数化して評価します。

研究計画書：研究課題に対する知識、研究の意義、研究目的、研究方法、記述等について評価します。

○看護学研究科　共同災害看護学専攻　博士課程

ディプロマ・ポリシー

修了要件は、履修単位を50単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けて、博士論文の審査及び最終試験に合格することを定めています。審査においては、本課程の教育目的に対応した能力について総合的に評価を行い、修了要件を満たす者に博士（看護学）とし、（DNGL：Disaster Nursing Global Leader）を付記した、学位を授与します。

○人間の安全保障を理念として、いかなる災害状況でも「その人らしく健康に生きる」ことを支援することができる能力を有している。

○災害サイクル諸局面において「健康に生きるための政策提案」に取り組むことができる能力を有している。

○グローバルな視点から安全安心社会の実現に向けて、産学官との連携を築き、制度やシステムを変革できる能力を有している。
○学際的な視点、国際的な視点から災害看護学を構築し、災害看護学を研究開発できる能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

豊かで高度な看護学専門知識を培い、学際的・国際的でグローバルな見識に基づいた研究を発展させ、特に災害看護学に関してその深奥を極め、人間の安全保障の進展に寄付する災害看護のグローバルリーダーを養成するために、教育目的に基づき以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。

○カリキュラムは、災害看護学の基盤となる「看護学の基盤に関する科目群」「災害看護グローバルリーダーに必要な学際的な科目群」、災害看護学を学問として構築する能力を養うための「災害看護学に関する科目群」、災害看護学に関する専門的な実践や研究、グローバルリーダーとしての機能・役割を身につけるための「災害看護学演習」「災害看護学実習」および「災害看護学に関する研究支援科目群」の6つの科目群によって構成する。
○学生が自分の関心や課題に沿って自律的に学び、グローバルリーダーとしての能力を培うことができるように、「災害看護学演習」および「災害看護学実習」の科目群に「インディペンデントスタディ」を科目として置く。
○構成大学院（「高知県立大学大学院看護学研究科」「兵庫県立大学大学院看護学研究科」「千葉大学大学院看護学研究科」「東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科」「日本赤十字看護大学大学院看護学研究科」）は、学生が各構成大学院から10単位以上の履修ができるように必要な科目を開講する。
○学修の課程で、その成果を確認するために Preliminary Examination と Qualify Examination を行う。
○構成大学院の専任教員による研究指導体制の下で、災害看護学に関連する理論、高度な実践や研究についての知識を統合して災害看護学の「博士論文」を作成し、提出できるように編成している。

アドミッション・ポリシー

本大学院の理念・目的に基づき、次のような資質をもつ人材を受け入れます。

○災害看護グローバルリーダーとしてのビジョンを持っている人材。
○災害看護グローバルリーダーとしての活動にコミットメントでき、その能力を伸ばしていける人材。

※令和3（2021）年度から学生募集停止。

○人間生活学研究科　人間生活学専攻　博士前期課程

ディプロマ・ポリシー

博士前期課程では、地域社会の生活課題を解決・調整することのできる高度専門職業人としての能力を養成することを目的とする。

1．共通ディプロマ・ポリシー

1）専攻領域における研究遂行にとって必要とされる学術的知識を有している。
2）専攻領域以外の領域にわたる幅広く深い学術的学識を有している。
3）地域社会の特性を踏まえて追究すべき研究課題を発見することができる。
4）地域社会をシステムとして捉えた研究を実践することができる。

5）設定した研究課題を科学的視点で捉え、結論を導出することができる。
6）研究を通じて得られた知見や技術を口頭または論文の形で共有化することができる。
7）対象とする研究課題を自律的に遂行することができる。
8）学問の体系化への貢献とあわせて実践的研究を志向し、得られた成果を地域社会に還元することができる。
9）研究倫理について的確に理解・遵守し学術研究活動を行うことができる。

2. 領域（学位名称）別ディプロマ・ポリシー

（1）栄養・生活学領域　＜修士（生活科学）＞
1）生活・栄養の分野における専門的な知識を人間の生活に関して焦点化することができる。
2）地域における生活・栄養分野の課題を複雑系科学の視点で捉えるとともに、課題解決のための具体的方策を検証することができる。

（2）社会福祉学領域　＜修士（社会福祉学）＞
1）社会福祉の分野における専門的な知識と技術を人間の生活に関して焦点化することができる。
2）地域における福祉分野の課題を科学的視点で捉えるとともに、ミクロ・メゾあるいはマクロの観点から課題解決のための具体的な方策を検証することができる。

（3）文化学領域　＜修士（学術）＞
1）文化研究における専門的な知識と技術を、人間の生活に関して焦点化することができる。
2）設定した研究課題を人文科学的方法論または社会科学的方法論に則り検証することができる。

カリキュラム・ポリシー

博士前期課程では、地域社会の生活課題を解決・調整することのできる高度専門職業人としての能力を養成することを目的とする。この目的のために、以下の方針に基づき本課程のカリキュラムを編成する。

1. 共通カリキュラム・ポリシー

（構造・内容）
1. カリキュラムを構成する科目区分として、「共通科目（大学院共通科目・人間生活学研究科科目）」「栄養・生活学領域科目」「社会福祉学領域科目」「文化学領域科目」「英語・領域教育コース科目」「栄養・領域教育コース科目」の科目群をおく。また、研究能力を総合的に養成するための研究指導科目として、領域ごとに「課題研究演習」をおく。
2. 栄養・生活学領域科目に「食物科学」「人間栄養学」「栄養・生活学」の科目群をおく。
3. 社会福祉学領域科目に「福祉専門基礎」「地域・国際福祉」「介護・高齢者福祉」「障害者福祉」「児童・家庭福祉」の科目群をおく。
4. 文化学領域科目に「地域文化」「日本文化」「英語文化」の科目群をおく。
5. 栄養・領域教育コース科目に「食物科学」「人間栄養学」「栄養・生活学」の科目群をおく。
6. 英語・領域教育コース科目に「英語・国際文化研究」の科目群をおく。

（順序性）
7. 研究の基礎的能力を修得させるため、1年次に共通科目の「研究と倫理」（必修）と「研究方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（選択必修）を履修させる。

（教育方法）

8. 学生の志望に従い、博士前期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行う。
9. 博士前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、講義、演習、研究指導をバランスよく行う。事前・事後課題、グループ討議、アクティブラーニングなどにより、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。

（評価方法）

10. 講義や演習では、博士前期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標や成績評価の方法・基準を周知し、評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価（論文審査・最終試験）を行う。
11. 学生によるカリキュラム評価を行い、その結果に基づいてカリキュラムの改善を図る。

2. 領域別カリキュラム・ポリシー

（1）栄養・生活学領域　＜修士（生活科学）＞

栄養・生活学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、栄養・生活学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

（順序性）

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、栄養・生活学領域科目を中心に、共通科目や社会福祉学領域科目、文化学領域科目から履修させる。
2. 課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「栄養・生活学課題研究演習」を履修させる。

（教育方法）

3. 栄養・生活学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

（2）社会福祉学領域　＜修士（社会福祉学）＞

社会福祉学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、社会福祉学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

（順序性）

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、社会福祉学領域科目を中心に、共通科目や栄養・生活学領域科目、文化学領域科目から履修させる。
2. 課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「社会福祉学課題研究演習」を履修させる。

（教育方法）

3. 社会福祉学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指

導会を実施する。

(3)文化学領域　＜修士(学術)＞

文化学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、文化学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、文化学領域科目を中心に、共通科目や栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目から履修させる。
2. 課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「文化学課題研究演習」を履修させる。

(教育方法)

3. 文化学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

アドミッション・ポリシー

博士前期課程は、人間生活学に根ざした教育・研究を基盤とし、総合的な視座から地域社会の生活課題に取り組むことのできる人材を養成することを目的とする。このために、入学選抜の基本方針として、以下の資質を有する人を受け入れることとする。

求める学生像

1. 人間生活や地域にかかわる諸課題に関心を持ち、その究明・解決に向けて、強い目的意識や探究心をもって取組もうとする人
2. 課題に対して積極的に取組む熱意と主体的に学ぶ意欲、やり遂げる強い意志をもつ人
3. 専攻する領域に関する基礎となる知識と柔軟な思考力をもつ人
4. 地域社会において栄養・生活、社会福祉、文化の面から住民と協働し、地域のシステムづくりを計画・遂行していく連携・調整能力及び協調性を備えた人間性豊かな人

入学者選抜の基本方針

博士前期課程における入学選抜の出願区分として「一般」「社会人」及び「外国人留学生」をおく。選抜の基本方針は以下のとおりとする。

・一般(入試)

本区分は、大学を卒業した人及び当該年度に大学を卒業見込みの人などを受験対象者とする。選抜のための方法は、以下の2点によるものとする。

筆記試験:小論文を課すことにより、設問内容の的確な把握と解答、解答内容と志望領域の専門性との整合性、文章表現力等について評価する。

口述試験:「研究計画書」に基づく発表と質疑応答をおこない、本研究科への適性や研究を遂行する基礎的能力などについて評価する。本研究科への適性は、次のうちいずれか1つ以上に該当するかどうかで判断する。

地域課題解決に貢献しようと考えているか、高度な専門的力量を身につけたいと考えているか、志望領域の専門的な知識や経験を問題解決のために生かそうと考えているか、などである。

研究を遂行する基礎的能力は次の諸点で評価する。研究内容（目的・方法・期待される結果）及び研究の特色（新規性・独創性）を明確に把握しているか、志望領域の専門的な基礎的知識があるか、などである。

・社会人（入試）

本区分は、大学を卒業した人などで、企業、官公庁、教育機関、研究機関及びその他各種団体での在職経験を有するまたは社会活動経験のある人で、かつ、受験者や受験者の研究テーマに関して理解している個人が推薦する人を受験対象者とする。選抜のための方法は、以下の2点によるものとする。

プレゼンテーション：「志願理由書」に基づくプレゼンテーションと質疑応答により、志望動機、活動・意欲、態度などについて評価する。

面接試験：「研究構想書」に基づく質疑応答をおこない、本研究科で何を学びたいのか、受験者の専門性、研究構想内容の適切さ、志望領域の専門的な基礎知識、入学後の学習等についての計画などについて評価する。

なお、本区分での出願にあたっては、大学院入試説明会に出席した上で事前面談を経なければならない。

・外国人（入試）

本区分は、大学を卒業した人などで、日本国籍及び日本における永住資格を有しない人で、かつ「日本語能力試験（N2 又は2級）」に合格した人を出願対象とする。選抜のための方法は、以下の2点によるものとする。

プレゼンテーション：「志願理由書」に基づくプレゼンテーションと質疑応答により、志望動機、活動・意欲、態度などについて評価するとともに、日本語の会話能力について確認をする。

面接試験：「研究構想書」に基づく質疑応答をおこない、本研究科で何を学びたいのか、受験者の専門性、研究構想内容の適切さ、志望領域の専門的な基礎知識、入学後の学習等についての計画などについて評価する。

○人間生活学研究科　人間生活学専攻　博士後期課程

ディプロマ・ポリシー

博士後期課程は、博士前期課程において修得した知識及び技術を基盤とし、自立して継続的な研究活動を遂行できる高度専門職業人としての能力及び高等教育の発展に寄与する教育研究者としての能力を涵養することを目的とする。

1. 共通ディプロマ・ポリシー

1）研究分野に関する国内外の動向を俯瞰的に把握し，自己の研究の位置づけを明確にすることができる。

2）既存の知識や技術の応用に新たな視点を加え，知の創造に繋げることができる。

3）人間生活に変革をもたらす政策開発ならびに意思決定への参画に繋がる研究を行うことができる。

4）自己の研究を自立して展開していく態度と能力を有している。

5）研究倫理に則り研究を完遂できる態度と能力を有している。

2. 領域（学位名称）別ディプロマ・ポリシー

（1）栄養・生活学領域　＜博士（生活科学）＞

1）栄養・生活の分野にかかわる課題の中から研究テーマを設定・遂行し、当該分野の発展に寄与する成果を得ることができる。

2）栄養・生活の分野における研究の発展に寄与できるよう、新たな知見を学会ならびに専門誌等で研究成果を公表する能力を有すると同時に、社会に向けて提言できる能力を有している。

3）高等教育機関における教授者として次世代の栄養・生活の分野にかかわる専門職教育を担う資質を有している。

（2）社会福祉学領域　＜博士（社会福祉学）＞

1）社会福祉の分野にかかわる課題の中から研究テーマを設定・遂行し、当該分野の発展に寄与する成果を得ることができる。

2）社会福祉の分野における研究の発展に寄与できるよう、新たな知見を学会ならびに専門誌等で研究成果を公表する能力を有すると同時に、社会に向けて提言できる能力を有している。

3）高等教育機関における教授者として次世代の社会福祉の分野にかかわる専門職教育を担う資質を有している。

（3）文化学領域　＜博士（学術）＞

1）文化の分野にかかわる課題の中から研究テーマを設定・遂行し、当該分野の発展に寄与する成果を得ることができる。

2）文化の分野における研究の発展に寄与できるよう、新たな知見を学会ならびに専門誌等で研究成果を公表する能力を有すると同時に、社会に向けて提言できる能力を有している。

3）高等教育機関における教授者として次世代の文化の分野にかかわる専門職教育を担う資質を有している。

カリキュラム・ポリシー

博士後期課程は、博士前期課程において修得した知識及び技術を基盤とし、自立して継続的な研究活動を遂行できる高度専門職業人としての能力及び高等教育の発展に寄与する教育研究者としての能力を涵養することを目的とする。本課程は、以下の方針に基づきカリキュラムを編成する。

1．共通カリキュラム・ポリシー

（構造・内容）

1．カリキュラムを構成する主要科目群として、「共通科目」、「専門科目」及び「研究指導科目」をおく。

2．共通科目群は、人間生活に係わる諸問題に対し、多角的な視点から接近することのできる能力を涵養することを目的とする。

3．専門科目群に、「栄養・生活学」、「社会福祉学」、及び「文化学」の3領域をおく。

4．専門科目群は、学術研究の動向についての理解を深化させることを目的とする。

5．研究指導科目として、領域ごとに「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」をおく。

（評価方法）

6．博士後期課程のディプロマ・ポリシーに沿った到達目標並びに成績評価の方法及び基準を周知する。

7．博士後期課程の修了時には、ディプロマ・ポリシーに基づく評価、博士後期課程で修得すべき能力の評価等の最終試験を実施する。

8．学位授与の審査は、主研究指導教員及び副研究指導教員による研究計画書審査、中間報告会、博士論文第一次審査及び公聴会における口頭発表を経た後、博士論文審査基準に準拠し学位審査委員会において審査を行う。

2. 領域別カリキュラム・ポリシー

(1)栄養・生活学領域　＜博士(生活科学)＞

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に栄養・生活学領域科目を中心としつつ、共通科目や社会福祉学領域科目、文化学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「栄養・生活学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「栄養・生活学特別研究Ⅱ」を履修させる。また加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「栄養・生活学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月におこない、1月に博士論文を提出させる。

(教育方法)

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、栄養・生活学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各１名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

(2)社会福祉学領域　＜博士(社会福祉学)＞

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に社会福祉学領域科目を中心としつつ、共通科目や栄養・生活学領域科目、文化学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「社会福祉学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「社会福祉学特別研究Ⅱ」を履修させる。また加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「社会福祉学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

(教育方法)

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、社会福祉学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

(3) 文化学領域　＜博士(学術)＞

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に文化学領域科目を中心としつつ、共通科目や栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「文化学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「文化学特別研究Ⅱ」を履修させる。加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「文化学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

(教育方法)

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、文化学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

アドミッション・ポリシー

博士後期課程は、人間生活学を基盤とした教育・研究を基盤とし、自立した研究者として知識、基盤社会を支える能力と次世代の高等教育を担う人材を養成することを目的とする。このために、入学選抜の基本方針として、以下の資質を有する人を受け入れることとする。

求める学生像

1. 社会の生活課題に関心を有し、明確な目的意識、強い探究心、並びに研究的手法をもって課題の解決に取り組もうとする人
2. 課題達成への強い熱意をもち、学術研究に意欲的に取り組む人
3. 専門分野に関する深い知識、柔軟な発想力及び創造力をもつ人
4. 地域社会において栄養・生活、社会福祉、文化の面から住民と協働し、地域のシステムづくりを計画・遂行していく連携・調整能力及び協調性を備えた人間性豊かな人であると同時に、人間生活の向上に寄与できる豊かな人間性と研究倫理を有し、研究者及び高等教育を担う教育研究者をめざす人

入学者選抜の基本方針

博士後期課程の入学選抜では、「筆記試験」「領域専門」及び「口述試験」をおこない、提出された研究計画書と併せて、以下の能力を総合的に評価する。

筆記試験：専攻する領域における外国語(英語)の読解力、設問の内容を的確に把握し、解答する能力について評価する。

領域専門：社会福祉学領域及び文化学領域では、小論文により、研究を進めるうえでの専門知識と論理性、抽象的思考力、分析力、独創性、設問の内容を的確に把握し解答する能力について評価する。栄養・生活学領域では、プレゼンテーションにより、これまで行ってきた研究の独創性、資料の完成度、発表の態度、提出され

た研究計画書との整合性及び、質疑応答について評価する。

口述試験：研究計画についての発表と質疑応答をおこない、志願領域の専門性や、研究を進めていくための必要な能力について評価する。

研究計画書：研究課題に対する知識、研究の意義、研究目的、研究方法、記述等について評価する。

２ 受講者の状況

【 学 部 】

（1）共通教養教育科目

リテラシー科目

○文化学部 文化学科

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションⅠA	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	26
英語コミュニケーションⅠB	未開講	情報処理概論	136
英語コミュニケーションⅠC	290	情報リテラシー	126
英語コミュニケーションⅠD	281	コンピュータリテラシー	152
英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	31	ビジネスリテラシー	34
英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	22	日本語表現法	未開講
英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	37		

○看護学部 看護学科

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションⅠA	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	0
英語コミュニケーションⅠB	未開講	情報処理概論	36
英語コミュニケーションⅠC	152	情報リテラシー	2
英語コミュニケーションⅠD	148	コンピュータリテラシー	52
英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	3	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	1	日本語表現法	未開講
英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	2		

○社会福祉学部 社会福祉学科

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションⅠA	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	3
英語コミュニケーションⅠB	未開講	情報処理概論	0
英語コミュニケーションⅠC	143	情報リテラシー	0
英語コミュニケーションⅠD	148	コンピュータリテラシー	73
英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	6	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	2	日本語表現法	未開講
英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	6		

○健康栄養学部 健康栄養学科

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションⅠA	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	0
英語コミュニケーションⅠB	未開講	情報処理概論	26
英語コミュニケーションⅠC	77	情報リテラシー	22
英語コミュニケーションⅠD	76	コンピュータリテラシー	43
英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	2	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	0	日本語表現法	未開講
英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	1		

教養基礎科目

（単位：人）

授　業　科　目	受講者数	授　業　科　目	受講者数
科学と人間	56	法学	106
基礎化学	31	政治学	25
基礎生物学	152	経済学	108
物理と自然法則	7	倫理学	77
地球の科学	7	哲学	256
数学入門	4	文学	43
基礎統計学	80	基礎ジェンダー学	209
社会調査基礎論	16	心理学	176
日本国憲法	193		

課題別教養科目

（単位：人）

授　業　科　目	受講者数	授　業　科　目	受講者数
生活と社会福祉	112	労働と人権	42
現代生活論	100	地域とグローバリゼーション	未開講
環境と健康と安全	51	家族関係論	117
自然災害と防災の科学	108	地域メディア論	未開講
平和論	未開講	異文化理解海外フィールドワーク	13
現代人権論	94	人権教育論	26
ジェンダーとキャリア	未開講		

健康・スポーツ科目

（単位：人）

授　業　科　目	受講者数	授　業　科　目	受講者数
健康スポーツ科学Ⅰ	264	健康とヘルスプロモーション	6
健康スポーツ科学Ⅱ	249	栄養と健康	45
対人関係とメンタルヘルス	164		

域学共生科目

（単位：人）

授　業　科　目	受講者数	授　業　科　目	受講者数
地域学概論	342	専門職連携論	48
土佐の歴史と文化	29	チーム形成論	93
土佐の経済とまちづくり	83	地域学実習Ⅰ	341
土佐の自然と暮らし	156	地域学実習Ⅱ	242
土佐の食と健康	154	域学共生実習	14

【 学 部 】

(2)専門教育科目

○文化学部 文化学科

(その1)　　(単位:人)

授業科目				受講者数
文化学部共通科目	リテラシー科目		基礎演習	162
			中国語基礎Ⅰ	98
			中国語基礎Ⅱ	97
			ドイツ語基礎Ⅰ	20
			ドイツ語基礎Ⅱ	22
			フランス語基礎Ⅰ	26
			フランス語基礎Ⅱ	28
			日本語Ⅰ	2
			日本語Ⅱ	2
			情報処理演習	181
			文献調査論	100
			基礎読書法	125
	エッセンシャル科目		文化哲学	210
			文化人類学	209
			文化と権利	145
			文化と裁判	264
			公共哲学	98
			民俗学	115
			文化と経済	90
			日本文学概論	154
			言語学概論	184
			日本語学概論	170
			グローバルスタディー(～2018)	7
			グローバル平和論	177
			社会調査論	68
			域学共生フィールドワーク	6
			文化学課題研究ゼミナールⅠ	134
			文化学課題研究ゼミナールⅡ	147
			文化学課題研究ゼミナールⅢ	163
			文化学課題研究ゼミナールⅣ	175
	キャリア形成科目		キャリアデザイン論	129
			キャリア形成論	121
			企業実習	46
文化学部専門科目	言語文化系	英語学領域	英語学概論	66
			比較言語研究	36
			対照言語学	22
			言語教育実践論Ⅰ	22
			言語教育実践論Ⅱ	8
			英語文法論	62
			英語ライティングⅠ	15
			英語ライティングⅡ	9
			英語音声学	26
			英語スピーキングⅠ	15
			英語スピーキングⅡ	9
			英語学専門演習Ⅰ	33
			英語学専門演習Ⅱ	31
		国際文化領域	英文化・文学史	67
			英文化・文学論	54
			米文化・文学史	82
			米文化・文学論	64
			異文化理解Ⅰ	26
			異文化理解Ⅱ	30
			異文化理解Ⅲ	未開講
			国際日本学	11
			国際日本学Ⅰ(～2018)	未開講

授業科目				受講者数
文化学部専門科目	言語文化系	国際文化領域	国際日本学Ⅱ	1
			比較日本学	36
			比較日本学Ⅰ	14
			比較日本学Ⅱ	1
			国際関係論	51
			国際開発論	52
			国際文化専門演習Ⅰ	32
			国際文化専門演習Ⅱ	31
		日本語学領域	日本語史	86
			日本語音声学・音韻論	89
			日本語学講読	97
			日本語文章構成論	92
			国語教育学講読Ⅰ	41
			国語教育学講読Ⅱ	17
			日本語教育学概論	29
			日本語教育教材論	32
			日本語学専門演習Ⅰ	33
			日本語学専門演習Ⅱ	24
		日本文学領域	基礎古典	100
			日本文学史(古典)	36
			日本文学史(近代)	38
			古典文学基礎講読Ⅰ	33
			古典文学基礎講読Ⅱ	27
			古典文学講読Ⅰ	60
			古典文学講読Ⅱ	33
			近代文学講読	69
			現代文学講読	71
			中国文学史	51
			中国文学講読(散文)	52
			中国文学講読(韻文)	32
			日本文学専門演習Ⅰ	32
			日本文学専門演習Ⅱ	27
			書道	22
	地域文化創造系	地域文化領域	地域文化論	90
			日本思想史	16
			日本文化論	138
			土佐地域文化資源論(歴史)(～2018)	4
			土佐地域文化資源論(方言)(～2018)	7
			地域文化資源論Ⅰ	68
			地域文化資源論Ⅱ	41
			文化政策論	78
			男女共同参画社会論	未開講
			地域防災論	78
			住文化論	98
			地域文化専門演習Ⅰ	22
			地域文化専門演習Ⅱ	19
		地域づくり領域	地域づくり論	131
			地域産業論	62
			地域分析論	84
			地方自治論	77
			NPO論	64
			地域づくりフィールドスタディⅠ	2
			地域づくりフィールドスタディ	10
			地域づくり専門演習Ⅰ	22
			地域づくり専門演習Ⅱ	21

（その2）　　（単位：人）

授業科目				受講者数
文化学部専門科目	地域文化創造系	観光文化領域	観光文化論Ⅰ	75
			観光文化論Ⅱ	60
			景観文化論	102
			観光と自然環境Ⅱ（～2018）	未開講
			観光と自然環境	134
			観光文化フィールドスタディⅠ	30
			観光文化フィールドスタディⅡ	23
			観光フィールド専門演習Ⅰ	30
			観光フィールド専門演習Ⅱ	49
		観光まちづくり領域	観光学総論	15
			観光まちづくり論Ⅰ	46
			観光まちづくり論Ⅱ	未開講
			観光産業論（～2018）	24
			観光産業論Ⅰ	35
			観光産業論Ⅱ	未開講
			観光企画論	152
			観光まちづくりフィールドスタディⅠ	22
			観光まちづくりフィールドスタディⅡ	32
			観光産業専門演習（～2018）	51
			観光企画専門演習（～2018）	1
			観光まちづくり専門演習Ⅰ	23
			観光まちづくり専門演習Ⅱ	未開講

授業科目				受講者数
文化学部専門科目	地域文化創造系	現代法文化領域	文化と人権	129
			文化と統治システム	99
			社会秩序と法	112
			犯罪と法	38
			情報化社会と法文化	29
			地域社会と法文化	128
			現代法文化専門演習Ⅰ	10
			現代法文化専門演習Ⅱ	11
		生活法文化領域	生活と法文化	135
			災害と法	95
			ワーク・ライフ・バランスと法	72
			労働契約と法文化	97
			社会保障と法文化	23
			家族関係と法文化	33
			生活法文化専門演習Ⅰ	10
			生活法文化専門演習Ⅱ	11

○看護学部　看護学科

（その1）　　（単位：人）

授業科目			受講者数
専門基礎科目		医学の世界	86
		人体の構造Ⅰ	95
		人体の構造Ⅱ	89
		人体の機能Ⅰ	89
		人体の機能Ⅱ	92
		人体のしくみの乱れⅠ	86
		人体のしくみの乱れⅡ	81
		心のしくみ	86
		病態と治療Ⅰ	81
		病態と治療Ⅱ	82
		診断学	86
		微生物学	83
		栄養学	87
		生化学	86
		薬理学	89
		治療学総論	81
		小児と疾患	80
		母性学	81
		保健統計学	81
		疫学	80
		健康管理論	80
		地域保健政策	81
		生命の科学と倫理	40
		医療史	4
		社会保障と看護	15
		心理学理論と心理的支援	22
		行動科学	22
		保健行動論	6
		人間工学	5
		公衆衛生学	81
		在宅医療	6
		医療と経営	17
		助産学	16
		助産診断論	16
看護基礎科目	基礎看護学	看護学総論	87
		健康と看護	86
		環境と看護	86
		人間と看護	86
		看護研究方法論	79
		看護哲学と倫理	81
	看護援助学	生活と看護	86
		生活援助論Ⅰ	87
		生活援助論Ⅱ	86
		生活援助論Ⅲ	82
		看護過程論	81
		援助関係論	86
		フィジカルアセスメントⅠ	86
		フィジカルアセスメントⅡ	86
		治療援助論Ⅰ	81

授業科目			受講者数
看護基礎科目	看護援助学	治療援助論Ⅱ	84
		症状と看護	82
		看護援助の動向と課題	4
		ふれあい看護実習	86
		看護基盤実習	83
	看護管理学	看護システム論	81
		看護サービス論	81
		看護教育論	未開講
		看護管理の動向と課題	未開講
		チーム医療実習	79
		看護管理実習	82
看護臨床科目	急性期看護学	急性期看護論	81
		急性期看護援助論	80
		回復期看護援助論	82
		急性期看護の動向と課題	未開講
		急性期看護実習	80
	慢性期看護学	慢性期看護論	82
		慢性期看護援助論	80
		終末期看護援助論	80
		慢性期看護の動向と課題	1
		慢性期看護実習	80
	老人看護学	老人看護学総論	86
		老人の健康と看護	81
		老人看護援助論	81
		老人看護の動向と課題	未開講
	精神看護学	精神看護学総論	81
		精神の健康と看護	81
		精神看護援助論	79
		精神看護の動向と課題	未開講
		精神看護実習	79
	小児看護学	小児看護学総論	82
		小児の健康と看護	79
		小児看護援助論	79
		小児看護の動向と課題	未開講
		小児看護実習	79
	母性看護学	母性看護学総論	81
		母性看護対象論	81
		母性看護援助論	79
		母性看護の動向と課題	3
		母性看護実習	79
	助産看護学	助産看護学総論	8
		助産看護診断論	8
		助産技術論Ⅰ	8
		助産技術論Ⅱ	8
		助産看護援助論	8
		助産看護管理論	8
		助産看護の動向と課題	8
		助産看護実習Ⅰ	8
		助産看護実習Ⅱ	8

（その2）　　（単位：人）

授業科目			受講者数
看護臨床科目	在宅看護学	在宅看護学総論	79
		在宅看護対象論	79
		在宅看護援助論	81
		在宅看護リエゾン論	2
		在宅看護の動向と課題	未開講
		在宅看護実習	81
	地域看護学	地域看護学総論	81
		地域の健康と看護	79
		地域看護援助論	80
		地域看護の動向と課題	2
		地域看護実習	71
	学校保健	学校保健	17
		養護概説	19
総合科目		看護研究	81
		看護と政策	81
		がん看護論	80
		総合看護実習	81
		看護実践能力開発実習	81
		バイオロジカルナーシング	4
		治療と看護	未開講
		災害と看護	44
		災害看護実践論	未開講
		看護学の動向と課題	6
		グローバル社会と看護Ⅰ	40
		グローバル社会と看護Ⅱ	未開講

授業科目		受講者数
総合科目	グローバルヘルス	未開講
	看護地域フィールドワーク	47
	異文化理解海外フィールドワーク	8
	看護セミナーⅠ	76
	看護セミナーⅡ	10
	看護セミナーⅢ	16
	看護セミナーⅣ	76
	看護セミナーⅤ	80
	臨床看護論Ⅰ（人間の自立とQOL）	3
	臨床看護論Ⅱ（家族と健康）	12
	臨床看護論Ⅲ（子どもの発達と健康）	35
	臨床看護論Ⅳ（慢性の病と生活）	6
	臨床看護論Ⅴ（健康と病気の探究）	3
	臨床看護論Ⅵ（看護と倫理的課題）	21
	母性・助産看護実践論	3
	精神看護実践論	未開講
	急性期看護実践論	4
	慢性期看護実践論	未開講
	小児看護実践論	3
	地域看護実践論	11
	老人看護実践論	6
	臨床看護実践論	未開講
	医学と看護の統合	81
	最新実践看護講座Ⅰ	1
	最新実践看護講座Ⅱ	2

○社会福祉学部　社会福祉学科

（単位：人）

授業科目		受講者数
基本科目	福祉対象入門	73
	福祉援助入門	74
	社会福祉入門演習	73
	社会福祉基礎演習	73
	心理学と心理的支援	73
	社会学と社会システム	75
	社会福祉の原理と政策Ⅰ	73
	社会福祉の原理と政策Ⅱ	74
	社会福祉史	72
	介護技術	11
社会福祉制度科目	社会保障論Ⅰ	73
	社会保障論Ⅱ	73
	公的扶助論	82
	障害者福祉論	80
	児童・家庭福祉論	81
	高齢者福祉論Ⅰ	73
	高齢者福祉論Ⅱ	80
	精神保健福祉論Ⅰ	26
	精神保健福祉論Ⅱ	27
	福祉行財政と福祉計画	76
	福祉サービスの組織と経営	77
	権利擁護論	72
	更生保護制度	73
	保健医療サービス	79
	女性福祉論	31
	医療福祉論	68
からだとこころの理解科目	医学概論	80
	精神医学Ⅰ	30
	精神医学Ⅱ	30
	精神保健学Ⅰ	28
	精神保健学Ⅱ	28
	発達と老化の理解Ⅰ	19
	発達と老化の理解Ⅱ	16
	認知症の理解Ⅰ	22
	認知症の理解Ⅱ	18
	障害の理解Ⅰ	21
	障害の理解Ⅱ	19
	こころとからだのしくみⅠ	22
	こころとからだのしくみⅡ	21
相談援助基礎科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	75
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	75
	相談援助の理論と方法Ⅰ	82
	相談援助の理論と方法Ⅱ	82
	相談援助の理論と方法Ⅲ	82
	相談援助の理論と方法Ⅳ	72
	精神保健福祉援助技術総論	27
	精神保健福祉援助技術各論	28
	面接技法	57
	医療ソーシャルワーク論	33
相談援助実践科目	相談援助演習Ⅰ	80
	相談援助演習Ⅱ	79
	相談援助演習Ⅲ	74
	相談援助演習Ⅳ	71
	相談援助実習指導Ⅰ	79
	相談援助実習指導Ⅱ	80
	相談援助実習指導Ⅲ	69
	相談援助実習	69

授業科目		受講者数
相談援助実践科目	事例研究法	8
	実践記録法	10
	チームアプローチ	2
	スーパービジョン	5
地域・国際福祉科目	地域福祉論Ⅰ	81
	地域福祉論Ⅱ	80
	地域福祉活動	12
	国際福祉論	16
	コミュニティソーシャルワーク	39
	福祉NPO論	55
	子育て支援論	9
	虐待防止論	62
社会復帰支援科目	ケアマネジメント論	47
	ケアマネジメント演習	33
	ケアプラン策定法	3
	就労支援サービス	67
	精神科リハビリテーション学	26
精神保健福祉実践科目	精神保健福祉援助演習	21
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	21
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	21
	精神保健福祉援助実習Ⅰ	21
	精神保健福祉援助実習Ⅱ	21
介護福祉理解科目	介護の基本Ⅰ	21
	介護の基本Ⅱ	20
	介護の基本Ⅲ	15
	コミュニケーション技術	22
	生活支援技術Ⅰ	21
	生活支援技術Ⅱ	21
	生活支援技術Ⅲ	20
	生活支援技術Ⅳ	18
	生活支援技術Ⅴ	15
	介護過程Ⅰ	21
	介護過程Ⅱ	20
	介護過程Ⅲ	18
	介護過程Ⅳ	15
介護福祉実践科目	介護総合演習Ⅰ	21
	介護総合演習Ⅱ	20
	介護総合演習Ⅲ	15
	介護総合演習Ⅳ	21
	介護実習Ⅰ	21
	介護実習Ⅱ	20
	介護実習Ⅲ	15
	医療的ケアⅠ	15
	医療的ケアⅡ	21
総合科目	福祉研究法入門	83
	社会調査の基礎	71
	社会福祉専門演習Ⅰ	73
	社会福祉専門演習Ⅱ	74
	社会福祉専門演習Ⅲ	73
	社会福祉専門演習Ⅳ	74

○健康栄養学部　健康栄養学科

（単位：人）

授業科目		受講者数
基礎科目	健康栄養学基礎	43
	健康栄養学応用	47
社会・環境と健康	地域健康論	41
	介護論	42
	食と介護	41
	保健医療福祉論	41
	地域医療論	9
	公衆衛生学	42
	環境衛生学実習	42
	健康情報論実習	43
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	生化学Ⅰ	43
	生化学Ⅱ	43
	生化学実験	39
	人体の構造と機能Ⅰ	43
	人体の構造と機能Ⅱ	44
	臨床医科学	5
	疾病論Ⅰ	39
	疾病論Ⅱ	39
	運動生理学	39
	生体科学実験・実習	39
食べ物と健康	食品学	43
	食品学実験Ⅰ	43
	食品学実験Ⅱ	39
	食材学	43
	食品の栄養素と機能	39
	食品衛生学	39
	食品衛生学実験	39
	フードシステム学	7
	調理学	43
	調理学実習Ⅰ	43
	調理学実習Ⅱ	43
	調理学実習Ⅲ	32
	調理科学実験	9
栄養基礎	基礎栄養学	46
	基礎栄養学実験	39
栄養学応用	応用栄養学Ⅰ	39
	応用栄養学Ⅱ	39
	応用栄養学実習	40
	ライフステージ栄養学	39

授業科目		受講者数
栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	39
	栄養教育論Ⅱ	42
	栄養教育論Ⅲ	41
	栄養教育論実習Ⅰ	42
	栄養教育論実習Ⅱ	42
	学校栄養指導論Ⅰ	4
	学校栄養指導論Ⅱ	4
臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	39
	臨床栄養学Ⅱ	42
	臨床栄養学Ⅲ	41
	臨床実践栄養学	41
	臨床栄養学実習Ⅰ	42
	臨床栄養学実習Ⅱ	41
公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	40
	公衆栄養学Ⅱ	41
	地域公衆栄養学実習	41
給食経営管理論	給食経営管理論	39
	給食計画論	39
	給食経営管理実習Ⅰ	41
	給食経営管理実習Ⅱ	41
総合演習	管理栄養士総合演習Ⅰ	41
	管理栄養士総合演習Ⅱ	41
臨地実習	給食経営管理臨地実習	41
	臨床栄養学臨地実習Ⅰ	41
	臨床栄養学臨地実習Ⅱ	41
	地域公衆栄養学臨地実習	41
	地域実践栄養学臨地実習	未開講
その他	企業実習	未開講
	健康栄養フィールドワーク	39
課題研究	卒業研究	41

【 学 部 】

(3)教職に関する専門教育科目

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数
教職に関する専門教育科目	教育原理	37	教職に関する専門教育科目	教育実習Ⅰ	13
	教育基礎理論	34		教育実習Ⅱ	13
	教師論	96		養護実習	9
	教育社会学	65		学校栄養教育実習	9
	発達心理学	52		教職実践演習(中・高)	14
	教育心理学	40		教職実践演習(養護)	9
	特別支援教育概論	80		教職実践演習(栄養)	9
	教育課程論	80		国語科教育法Ⅰ	14
	道徳教育論	70		国語科教育法Ⅱ	13
	教育の方法と技術及び総合的な学習の時間の指導法	67		国語科教育法Ⅲ	4
				国語科教育法Ⅳ	6
	特別活動論	39		英語科教育法Ⅰ	7
	生徒指導の理論と方法及び特別活動の指導法	64		英語科教育法Ⅱ	5
				英語科教育法Ⅲ	9
	教育相談及びキャリア教育の理論と方法	77		英語科教育法Ⅳ	9

【 大 学 院 】

○看護学研究科看護学専攻 （博士前期課程）

（その1）　　（単位：人）

授業科目			受講者数
共通科目	大学院共通科目	研究と倫理	3
		教育学特論	0
		教育心理学特論	未開講
		ジェンダー論	1
		臨床倫理	6
		グローバルヘルス論	5
		ケア論	未開講
		看護マネジメント論	6
	専攻共通科目	看護理論と実践	15
		看護学基盤論	6
		看護研究と実践	16
		看護倫理	15
		看護サービス管理論	9
		看護コンサルテーション論	13
		フィジカルアセスメント特論	11
		病態生理学	12
		臨床薬理学	12
		こころの発達	0
		看護教育論Ⅰ	9
		看護教育論Ⅱ	15
		看護教育学専門演習	0
		看護教育学研究方法Ⅰ	1
		看護教育学研究方法Ⅱ	1
		データ分析方法論Ⅰ	9
		疫学研究方法論	5
		保健医療政策と経済Ⅰ	12
		保健医療政策と経済Ⅱ	16
		看護学の動向と展望	15
		最新専門看護実践講座Ⅰ	9
		最新専門看護実践講座Ⅱ	8
		インディペンデントスタディ	0
領域専門科目	共創看護学領域	看護理論と研究Ⅰ	7
		看護理論と研究Ⅱ	3
		学際的研究方法	4
		データ分析方法論Ⅱ	3
		看護学英語	3
		共創看護学セミナー	3
		バイオメトリクス看護学演習	3
		看護学研究方法ⅠA	1
		看護学研究方法ⅠB	0
		看護学研究方法ⅡA	1
		看護学研究方法ⅡB	0
	がん看護学領域	がん看護論	1
		緩和ケア特論	1
		がん看護方法論Ⅰ	1
		がん看護方法論Ⅱ	2
		がん看護方法論Ⅲ	2
		がん病態生理学	4
		がん診断治療学	未開講
		がん薬理学	3
		がん看護課題研究	2
		がん看護学実践演習Ⅰ	1
		がん看護学実践演習Ⅱ	2
		がん看護学実践演習Ⅲ	2
		がん看護学実践演習Ⅳ	2
		がん看護学実践演習Ⅴ	2
		成人看護学研究方法Ⅰ	0
		成人看護学研究方法Ⅱ	0

授業科目			受講者数
領域専門科目	慢性看護学領域	慢性看護論	1
		慢性看護対象論	1
		慢性看護方法論Ⅰ	1
		慢性看護方法論Ⅱ	1
		慢性疾患診断治療学Ⅰ	未開講
		慢性疾患診断治療学Ⅱ	1
		慢性看護課題研究	1
		慢性看護学実践演習Ⅰ	1
		慢性看護学実践演習Ⅱ	0
		慢性看護学実践演習Ⅲ	1
		慢性看護学実践演習Ⅳ	0
		慢性看護学実践演習Ⅴ	0
		成人看護学研究方法Ⅰ	0
		成人看護学研究方法Ⅱ	0
	クリティカルケア看護学領域	クリティカルケア看護論Ⅰ	1
		クリティカルケア看護論Ⅱ	3
		クリティカルケア看護方法論Ⅰ	1
		クリティカルケア看護方法論Ⅱ	2
		クリティカルケア看護方法論Ⅲ	1
		クリティカルケア看護方法論Ⅳ	2
		クリティカルケア診断治療学Ⅰ	4
		クリティカルケア診断治療学Ⅱ	未開講
		クリティカルケア看護課題研究	2
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅰ	1
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅱ	2
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅲ	2
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅳ	1
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅴ	2
	母性看護学領域	女性健康看護論	0
		女性健康支援論	0
		子育て包括ケアシステム論	0
		女性の健康危機マネジメント論	0
		母性看護フィールド演習Ⅰ	0
		母性看護フィールド演習Ⅱ	0
		母性看護学研究方法Ⅰ	0
		母性看護学研究方法Ⅱ	0
	小児看護学領域	小児看護論	0
		小児看護対象論	0
		小児看護方法論Ⅰ	0
		小児看護方法論Ⅱ	2
		小児診断治療学Ⅰ	未開講
		小児診断治療学Ⅱ	2
		小児看護課題研究	2
		小児看護学実践演習Ⅰ	0
		小児看護学実践演習Ⅱ	2
		小児看護学実践演習Ⅲ	2
		小児看護学実践演習Ⅳ	0
		小児看護学実践演習Ⅴ	2
		小児看護学研究方法Ⅰ	0
		小児看護学研究方法Ⅱ	0

（その2）　　（単位：人）

授業科目			受講者数
領域専門科目	老人看護学領域	老人看護論	1
		老人看護対象論	1
		老人看護方法論	2
		老人ケアシステム論	2
		老人看護展開論Ⅰ	1
		老人看護展開論Ⅱ	1
		老年病診断治療学Ⅰ	未開講
		老年病診断治療学Ⅱ	3
		老人看護課題研究	2
		老人看護学実践演習Ⅰ	1
		老人看護学実践演習Ⅱ	1
		老人看護学実践演習Ⅲ	2
		老人看護学実践演習Ⅳ	2
		老人看護学実践演習Ⅴ	2
	精神看護学領域	精神看護論	3
		精神看護対象論	3
		精神看護方法論Ⅰ	3
		精神看護方法論Ⅱ	2
		精神看護展開論Ⅰ	0
		精神看護展開論Ⅱ	0
		精神看護展開論Ⅲ	0
		精神看護展開論Ⅳ	1
		精神診断治療学Ⅰ	5
		精神診断治療学Ⅱ	未開講
		精神看護課題研究	2
		精神看護学実践演習Ⅰ	3
		精神看護学実践演習Ⅱ	3
		精神看護学実践演習Ⅲ	2
		精神看護学実践演習Ⅳ	2
		精神看護学実践演習Ⅴ	2
	家族看護学領域	家族看護論	1
		家族看護対象論	2
		家族看護方法論Ⅰ	16
		家族看護方法論Ⅱ	8
		家族看護実践論Ⅰ	1
		家族看護実践論Ⅱ	0
		家族療法	未開講
		家族ケアの開発	1
		家族看護課題研究	1
		家族看護学実践演習Ⅰ	1
		家族看護学実践演習Ⅱ	1
		家族看護学実践演習Ⅲ	1
		家族看護学実践演習Ⅳ	0
		家族看護学実践演習Ⅴ	1
		家族看護学研究方法Ⅰ	0
		家族看護学研究方法Ⅱ	0
	在宅看護学領域	在宅看護論	0
		在宅看護方法論Ⅰ	0
		在宅看護方法論Ⅱ	1
		在宅看護方法論Ⅲ	0
		在宅ケアシステム論	0
		在宅看護展開論Ⅰ	0
		在宅看護展開論Ⅱ	0
		在宅療養診断治療学Ⅰ	未開講
		在宅療養診断治療学Ⅱ	0
		在宅看護課題研究	0
		在宅看護学実践演習Ⅰ	0
		在宅看護学実践演習Ⅱ	0
		在宅看護学実践演習Ⅲ	0
		在宅看護学実践演習Ⅳ	0
		在宅看護学実践演習Ⅴ	0

授業科目			受講者数
領域専門科目	地域看護学領域	地域看護論	0
		地域ケアシステム論	0
		地域看護展開論	0
		地域看護課題研究	2
		地域フィールド演習Ⅰ	0
		地域フィールド演習Ⅱ	2
		地域看護学研究方法Ⅰ	0
		地域看護学研究方法Ⅱ	2
	災害・国際看護学領域	災害看護論	4
		グローバル社会看護論	5
		災害・国際看護方法論	1
		感染症看護セミナー	5
		環境衛生看護セミナー	0
		共生社会看護セミナー	4
		人道支援看護セミナー	0
		災害看護管理セミナー	0
		災害看護活動論（準備期）	1
		環境防災学	5
		災害・国際看護学研究方法Ⅰ	4
		災害・国際看護学研究方法Ⅱ	0
	看護管理学領域	看護管理論	0
		システム経営管理論	0
		看護管理展開論	0
		看護管理の動向と展望	0
		看護管理課題研究	0
		看護管理学実践演習Ⅰ	0
		看護管理学実践演習Ⅱ	0
		看護管理学実践演習Ⅲ	0
		看護管理学研究方法Ⅰ	0
		看護管理学研究方法Ⅱ	0
	臨床看護学領域	精神看護ケア研究	1
		老人看護ケア研究	2
		がん看護ケア研究	0
		小児看護ケア研究	2
		慢性看護ケア研究	0
		クリティカルケア研究	2
		臨床看護管理研究	2
		臨床看護教育研究	5
		母性・助産看護ケア研究	0
		臨床看護学専門演習	2
		臨床看護学研究方法Ⅰ	1
		臨床看護学研究方法Ⅱ	1
	地域保健学領域	地域ケア研究	4
		学校保健研究	1
		家族ケア研究	6
		在宅ケア研究	5
		保健学研究	1
		災害・国際看護ケア研究	1
		地域保健学専門演習	4
		地域保健学研究方法Ⅰ	2
		地域保健学研究方法Ⅱ	2

○看護学研究科看護学専攻 （博士後期課程）

（単位：人）

授業科目		受講者数
専攻共通科目	理論看護学Ⅰ	8
	理論看護学Ⅱ	7
	看護学研究方法Ⅰ	8
	看護学研究方法Ⅱ	8
	看護倫理学	8
	イノベーション看護学	8
	国際看護学	7
	医学研究方法論	0
	インディペンデントスタディ	0
	プロフェッショナルライティング	1
専攻専門科目	共創看護学Ⅰ	1
	共創看護学Ⅱ	0
	がん看護学Ⅰ	0
	がん看護学Ⅱ	0
	成人看護学Ⅰ	0
	成人看護学Ⅱ	0
	小児看護学Ⅰ	1
	小児看護学Ⅱ	0
	老人看護学Ⅰ	0
	老人看護学Ⅱ	0

授業科目		受講者数
専攻専門科目	精神看護学Ⅰ	0
	精神看護学Ⅱ	0
	家族看護学Ⅰ	0
	家族看護学Ⅱ	0
	在宅看護学Ⅰ	0
	在宅看護学Ⅱ	0
	地域看護学Ⅰ	0
	地域看護学Ⅱ	0
	学校保健学Ⅰ	0
	学校保健学Ⅱ	0
	災害・国際看護学Ⅰ	1
	災害・国際看護学Ⅱ	0
	看護病態生理学Ⅰ	0
	看護病態生理学Ⅱ	0
	看護経営管理学Ⅰ	1
	看護経営管理学Ⅱ	0
研究支援科目	看護学特別研究Ⅰ	11
	看護学特別研究Ⅱ	5
	看護学特別研究Ⅲ	1

○看護学研究科共同災害看護学専攻 （博士課程）

（単位：人）

授業科目		受講者数
災害看護学の基盤を支える科目群	看護研究	未開講
	理論看護学	未開講
	危機管理論	未開講
	環境防災学Ⅰ	未開講
	環境防災学Ⅱ	0
	グローバルヘルス	0
	災害法制度と政策論	未開講
	専門職連携実践論	0
	災害時専門職連携演習（災害IP演習）	1(0)
	災害医療学	未開講
	災害心理学	未開講
	災害と文化	0
	災害社会福祉学	未開講
	Professional writing	3(2)
	Proposal writing (Research proposal writing skill)	未開講
	Program writing (Program Proposal writing skill)	未開講
災害看護学の専門科目群	災害看護学総論	未開講
	災害看護活動論Ⅰ（急性期）	未開講
	災害看護活動論Ⅱ（亜急性期）	未開講
	災害看護活動論Ⅲ（復旧・復興）	未開講
	災害看護活動論Ⅳ（備え）	未開講
	災害看護グローバルコーディネーション論	0
	災害看護リーダーシップ・管理論	0
	災害看護倫理	0
	災害看護理論構築	3(1)
	インターンシップⅠ	1(1)
	インターンシップⅡ	7(2)

授業科目		受講者数
インディペンデント学修科目群	災害看護ゼミナールA	0
	災害看護ゼミナールB	0
	災害看護ゼミナールC	0
	災害看護ゼミナールD	0
	災害看護ゼミナールE	1(0)
	インディペンデントスタディⅠ	0
	インディペンデントスタディⅡ	0
	インディペンデントスタディⅢ	0
	インディペンデントスタディⅣ	0
	インディペンデントスタディⅤ	0
災害看護学研究支援科目群	災害看護研究ゼミナール	未開講
	実践課題研究	1(1)
	災害看護研究デベロップメント	0
	博士論文	13(5)

※カッコ内は本学の受講者数

○人間生活学研究科人間生活学専攻 （博士前期課程）

（単位：人）

授業科目			受講者数
共通科目	大学院共通科目	研究と倫理	8
		教育学特論	3
		教育心理学特論	未開講
		ジェンダー論	5
		臨床倫理	1
		グローバルヘルス論	2
		ケア論	未開講
		看護マネジメント論	0
	人間生活学研究科科目	研究方法論Ⅰ	6
		研究方法論Ⅱ	7
		研究方法論Ⅲ	4
		データ解析論	5
		環境解析論	0
		地域スポーツ論	7
		健康リハビリテーション論	未開講
栄養・生活学領域科目	食物科学	食品生化学特論	未開講
		食品製造学特論	9
		食物科学論	未開講
		食物科学実践演習	9
	人間栄養学	栄養学特論	3
		臨床栄養学特論	未開講
		健康動態論	2
		栄養疫学論	未開講
	栄養・生活学	栄養・生活特論Ⅰ	1
		栄養・生活特論Ⅱ	1
		栄養・生活統計論	0
		環境生態論	未開講
社会福祉学領域科目	福祉専門基礎	社会福祉原論	未開講
		福祉リハビリテーション論	5
		ソーシャルワーク論	6
		社会保障論	未開講
		福祉行財政論	6
	地域・国際福祉	地域福祉論Ⅰ	未開講
		地域福祉論Ⅱ	3
		国際福祉論Ⅰ	未開講
		国際福祉論Ⅱ	6
	介護・高齢者福祉	介護福祉論Ⅰ	未開講
		介護福祉論Ⅱ	3
		高齢者福祉論	未開講
	障害者福祉	障害者福祉論	6
		精神保健福祉論	未開講
		精神科ソーシャルワーク論	2
	児童・家庭福祉	児童・家庭福祉論Ⅰ	未開講
		児童・家庭福祉論Ⅱ	5
文化学領域科目	地域文化	地域文化論Ⅰ	4
		地域文化論Ⅱ	未開講
		地域文化論Ⅲ	2
		観光文化論Ⅰ	1
		観光文化論Ⅱ	未開講
		観光文化論Ⅲ	2

授業科目			受講者数
文化学領域科目	日本文化	日本文化論Ⅰ	未開講
		日本文化論Ⅱ	2
		日本語文化論	未開講
		文学Ⅰ	未開講
		文学Ⅱ	1
		文学Ⅲ	1
	英語文化	英語文化論Ⅰ	2
		英語文化論Ⅱ	未開講
		英語文化論Ⅲ	未開講
		英語言語文化論特論Ⅰ	未開講
		英語言語文化論特論Ⅱ	未開講
		国際日本学	未開講
英語・領域教育コース科目	英語・国際文化研究	英語学特論Ⅰ	未開講
		英語学特論Ⅱ	1
		英語教育学特論Ⅰ	未開講
		英語教育学特論Ⅱ	未開講
		英語圏文学特論Ⅰ	未開講
		英語圏文学特論Ⅱ	未開講
		英語圏文化特論Ⅰ	1
		英語圏文化特論Ⅱ	0
		異文化理解特論	未開講
		英語言語文化論特論Ⅰ	未開講
		英語言語文化論特論Ⅱ	未開講
		英語教育実践研究Ⅰ	1
		英語教育実践研究Ⅱ	1
栄養・領域教育コース科目	食物科学	食品生化学特論	未開講
		食品製造学特論	未開講
		食物科学論	未開講
		食物科学実践演習	未開講
	人間栄養学	栄養学特論	未開講
		臨床栄養学特論	未開講
		食生活論Ⅰ	未開講
		食生活論Ⅱ	未開講
		食生活論演習	未開講
		健康動態論	未開講
		栄養疫学論	未開講
	栄養・生活学	栄養・生活特論Ⅰ	未開講
		栄養・生活特論Ⅱ	未開講
		栄養・生活統計論	未開講
		環境生態論	未開講
研究指導科目		栄養・生活学課題研究演習	7
		社会福祉学課題研究演習	3
		文化学課題研究演習	2

○人間生活学研究科人間生活学専攻 （博士後期課程）

（単位：人）

授業科目			受講者数
共通科目		研究デザイン	未開講
		研究倫理	5
専門科目	栄養・生活学領域科目	地球環境解析学	0
		環境生態学	0
		人間栄養学	未開講
		食品機能学	2
		健康動態学	0
	社会福祉学領域科目	介護福祉学	1
		障害者福祉学	1
		児童・家族福祉学	0
		地域ソーシャルワーク学	0
		国際福祉政策学	1
		福祉リハビリテーション学	0

授業科目			受講者数
専門科目	文化学領域科目	地域文化学Ⅰ	2
		地域文化学Ⅱ	0
		言語文化学Ⅰ	0
		言語文化学Ⅱ	0
研究指導科目		栄養・生活学特別研究Ⅰ	2
		栄養・生活学特別研究Ⅱ	1
		栄養・生活学特別研究Ⅲ	1
		社会福祉学特別研究Ⅰ	2
		社会福祉学特別研究Ⅱ	3
		社会福祉学特別研究Ⅲ	1
		文化学特別研究Ⅰ	0
		文化学特別研究Ⅱ	0
		文化学特別研究Ⅲ	0

※「未開講」・・・隔年開講などにより年度当初から未開講科目であったもの

※「0」・・・年度当初開講予定科目で、院生がいないなどの理由で開講されなかったもの

３ 科目等履修生・特別聴講学生・研究生の状況

（1）科目等履修生

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
国語科教育法Ⅰ	1		
国語科教育法Ⅱ	1		
国語科教育法Ⅳ	2		
特別支援教育概論	1		
教職実践演習（中・高）	1		
教育の方法と技術及び総合的な学習の時間の指導法	2		

（2）特別聴講学生

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
災害看護活動論（準備期）	1		
環境防災学	1		

（3）研究生

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数

4 教員免許状取得状況・国家資格等合格状況

(1)教員免許状取得状況(過去3年間分)

(単位:人)

学部・学科	区 分		平成31/令和元年度	令和2年度	令和3年度
文化学部 文化学科	免許状取得者数	実人数	16	20	14
		中一種免(英語)	9	9	9
		高一種免(英語)	9	9	9
		中一種免(国語)	7	11	5
		高一種免(国語)	7	11	5
	教員就職者数		10	13	7
看護学部 看護学科	免許状取得者数	実人数	14	11	9
		一種免(養護)	14	11	9
	教員就職者数		8	7	5
健康栄養学部 健康栄養学科	免許状取得者数	実人数	10	10	9
		一種免(栄養)	10	10	9
	教員就職者数		7	2	3
合 計	免許状取得者数(実人数)		40	41	32
	教員就職者数		25	22	15

※教員就職者数は正規採用者と臨時的任用者との合計

(2)国家試験合格状況

(単位:人)

国家資格	受験日	区 分	受験者数	合格者数	合格率
看護師	令和4年2月13日	新 卒	81	81	100.0%
		既 卒	0	0	
保健師	令和4年2月11日	新 卒	72	71	98.6%
		既 卒	0	0	
助産師	令和4年2月10日	新 卒	8	8	100.0%
		既 卒	0	0	
社会福祉士	令和4年2月6日	新 卒	71	48	67.6%
		既 卒	24	7	29.2%
精神保健福祉士	令和4年2月5日 令和4年2月6日	新 卒	20	18	90.0%
		既 卒	2	2	100.0%
介護福祉士	令和4年1月30日	新 卒	21	21	100.0%
		既 卒	0	0	
管理栄養士	令和4年2月27日	新 卒	41	39	95.1%
		既 卒	1	0	0.0%

(3)専門看護師・認定看護管理者合格状況

(単位:人)

専門看護分野名	合格者数
がん看護	5
慢性疾患看護	1
急性・重症患者看護	4
小児看護	1
家族支援	1
老人看護	1

5 学位等及び大学賞・学長賞等の授与状況

(1)学位等授与状況

○博 士

(単位:人)

研 究 科 名	博 士	
	令和3年度	累 計
看護学研究科(博士後期課程)	1	37
看護学研究科(博士課程)	3	7
人間生活学研究科(博士後期課程)	1	11
健康生活科学研究科健康生活科学専攻(博士後期課程)		50
合 計	5	105

○修 士

(単位:人)

研 究 科 名	修 士	
	令和3年度	累 計
看護学研究科(博士前期課程)	18	308
人間生活学研究科(博士前期課程)	10	188
合 計	28	496

【学位授与者一覧】

○博 士

授与年月日	学位の種類	氏 名	論 文 名
令和 4年 3月22日	博士(看護学)	川本 美香	中山間地域に暮らす高齢期にある住民のPlace Attachment
令和 4年 3月22日	博士(看護学)	伏見 木綿子	福島第一原子力発電所事故による放射線災害がもたらした住環境およびその後被災者が変化させた住環境と健康に対する考え方の基盤の関連
令和 4年 3月22日	博士(看護学)	YUDI ARIESTA CHANDRA	Development of a Disaster Mental Health Risk Reduction Nursing Model for Caregiving Family Member of the Elderly
令和 4年 3月22日	博士(看護学)	SUSHILA PAUDEL	Barriers and Facilitators to Healthcare Access for Nepalese Migrants during the COVID-19 Crisis in Japan
令和 4年 3月22日	博士(生活科学)	隅田 有公子	経腸栄養剤の半固形化に関する検討

○修 士

授与年月日	学位の種類	氏 名	論 文 名
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	野中 美希	身体障害者のスティグマの体験
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	林 あゆ	病棟看護師のNPPV導入支援－慢性心不全患者の継続使用を目指して－
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	今井 ユミ	急性期病棟の看護師が行う終末期がん患者の意向確認
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	氏原 愛絵	住民の地域づくりコミットメント

○修　士（続き）

授与年月日	学位の種類	氏　名	論　　文　　名
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	角西　三菜	若年期にある養護教諭のストレスマネジメント
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	上村　明咲	治療が奏功しない重症患者に対するICU看護師のcomfortケア
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	木村　義孝	心臓手術を受ける高齢者のインタレスト
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	清重　真衣子	苦痛を伴う処置を受ける乳児期の子どもに対する熟練看護師によるケアリング
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	小菅　樹里	地域で認知症の人が安心して過ごせる場づくりにおける保健師の役割
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	隅　華奈	術後の壮年期がん患者に対してがん相談支援センターの看護師が行う就労支援
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	髙橋　啓太	小児期に化学療法を受けた経験をもつ青年のストレングス
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	竹本　智子	活動拡大に向かう急性心不全患者へのセルフモニタリング支援
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	佃　勇輝	医療的ケア児を育てる親の南海トラフ地震に向けた準備性
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	中村　夏子	皮膚生理学的指標と主観的指標による高齢者浮腫のアセスメント
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	松浦　美樹	看護教員の経験学習
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	眞鍋　正子	ひきこもりを呈している精神疾患を持つ人への活動性を高めるための看護ケア
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	三笠　優樹	再入院を繰り返しているアルコール依存症患者の回復を促す看護ケア
令和 4年 3月22日	修士(看護学)	明神　拓也	脳卒中による後遺症を抱えた高齢患者の首尾一貫感覚(Sense of Coherence:SOC)
令和 4年 3月22日	修士(社会福祉学)	小原　真己	子育て支援における市区町村社会福祉協議会の参画方法に関する研究 ―子育て支援プラットフォームの取り組みから―
令和 4年 3月22日	修士(生活科学)	有岡　佐和	プラスチック廃棄物が水産食品に及ぼす影響
令和 4年 3月22日	修士(学術)	王　芸	古都における景観保全と町並みの保存活用に関する比較研究 ―京都と北京―
令和 4年 3月22日	修士(生活科学)	緒方　裕一郎	医療福祉領域に従事する職員の腰痛症状、及び関係する腰痛発症要因の解析
令和 4年 3月22日	修士(生活科学)	小松　勝人	自閉スペクトラム症児の感覚統合と知能の関連性について

○修　士（続き）

授与年月日	学位の種類	氏　名	論　　文　　名
令和 4年 3月22日	修士(生活科学)	鮫島　千遥	生鮮食品における栄養機能食品の栄養成分表示とその方法の具体化
令和 4年 3月22日	修士(学術)	森田　佐枝	A Study on Teaching English Vocabulary at Junior High School : Theoretical and Practical Considerations for Systematized Instructions in Classroom Settings
令和 4年 3月22日	修士(生活科学)	山田　晋行	マウス肝癌細胞培養時の培地中の各種アミノ酸が、メチル基転移酵素群の遺伝子発現、及び生成される含硫アミノ酸量に及ぼす影響
令和 4年 3月22日	修士(生活科学)	山根　悠太	ポリフェノール複合物のマウス筋芽細胞の分化に対する影響
令和 4年 3月22日	修士(生活科学)	渡邉　千尋	運動後の疲労回復のための代謝調節と植物性成分による疲労回復効果

(2)「地域共生推進士」認定書授与状況

授与年月日	称　号	授与者人数(人)	部　局　内　訳
令和4年3月22日	地域共生推進士	8	文化学部3人、看護学部2人、社会福祉学部3人

(3)日本語教員授与状況

授与年月日	称　号	授与者人数(人)
-	日本語教員	3

(4)履修証明書授与状況

授与年月日	称　号	授与者人数(人)
-	履修証明書	―

※令和3年度は開講せず

(5)大学賞・学長賞授与状況

【大学賞】

学部・研究科	学科・専攻	学年	受賞者数	功績
看護学部	看護学科	4	1	入学時より一貫して高い目標を持って学業に真摯に取り組み、看護実践、看護研究で特に優秀な成績を修めた。
看護学研究科	看護学専攻 博士後期課程	5	1	研究に真摯に取り組み、看護学研究の深化・発展に寄与した。

【学長奨励賞】

学部・研究科	学科・専攻	学年	氏名	功績
文化学部	文化学科	4	内田 莉聖 堤 美咲 中川 往香	大学における学業成績が特に優れていると認められ、かつ、他の学生の模範となる者。
		3	大嶋 康晃 白石 菜々瀬 川村 舞	
		2	永易 真愛美 浜本 鈴加 松田 萌日	
看護学部	看護学科	4	朝日 琳果 清水 菜央	
		3	髙坂 菜未 春名 美愛	
		2	多田 帆乃夏 西本 愛美	
社会福祉学部	社会福祉学科	4	畑山 菜の子 安岡 真帆	
		3	林 未夢 別役 花子	
		2	織田 彩嘉 川上 夏歩	

学部・研究科	学科・専攻	学年	氏名	功績
健康栄養学部	健康栄養学科	4	矢野 愛実	大学における学業成績が特に優れていると認められ、かつ、他の学生の模範となる者。
		3	中村 朱里	
		2	山本 響香	

【学長賞】

団体名（人数）	功績	学部	氏名
薬物乱用防止サークル「ダメ。ゼッタイ。」（1名）	高知桜ライオンズクラブ、高知県警と共に小中学校を訪問し、子供たちを対象に薬物乱用の危険性を啓発する教室で講師として活動し、子どもたちの健全育成に貢献した。公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターとライオンズクラブ国際協会336-A地区の共催で年1回開催されている「薬物乱用防止教育認定講師養成講座」でも講師を務めた。3回生からは代表を務め、協力団体との連絡調整やサークルのマネジメントも1人で担った。	文化学部	中矢 悠大
オーテピアンズ（10名）	コロナ禍において疲弊した人々の心に癒しを提供することを目的とし、子供だけでなく大人も対象とした読み聞かせを収録した動画をオーテピア図書館の監修のもと作成し、大手動画共有サイトやSnsを通じて配信する活動を精力的に行った。	文化学部	朝倉 緋奈子 石黒 天芽 大西 寧々 荻田 桃紅子 国見 春香 小林 美月 嶋 美涼 藤田 琉花 山川 真輝
県大生のセキララジオ！（3名）	1回生の時から3年間、企画・司会進行の役割を担い、ラジオを通じて高知県立大学の魅力を高知県民に発信し、本学の名誉を大きく高める活動を行った。	文化学部	石山 莉那 大西 寧々 政木 美里
空き家研究グループ※令和3年12月受賞（4名）	国が公開する地域経済分析システム(Resas:リーサス)等の客観的データを活用して地域の課題を発見し、それを解決して地域を元気にするアイデアを競うコンテスト「高知家地域創生アイデアコンテスト2021」において、「大賞」を受賞した。	文化学部	笹波 夏帆 中内 優加里 中島 優綺 中城 日那

団体名（人数）	功績	学部	氏名
いけいけサロン活動 （5名）	立志社中事業（1回生から3回生の時）及び学生サークル活動（4回生の時）において、看護学を学ぶ学生と地域住民の協働による地域交流の促進や地域づくりを目的とした活動を継続的に行い、町内会活動に貢献してきた。大学で行われる合同災害訓練では「災害時の生活について考える」をテーマに、避難所での生活体験ができる企画・運営を実施した。また、これまでの活動で明らかになっていた「池地域に起こる災害とペットの問題」を取り上げ、ペットと暮らす大切さや地域猫がペットとして暮らす様子を知り、災害時にペットとともに避難できる対応の必要性を見出し、町内会に結果を還元し町内会活動に貢献してきた。	看護学部	池原 由記 冨岡 百恵 西村 紗貴 橋村 汐音 福川 美季
健援隊 （7名）	メンバーの組織への貢献度の低下や目的が曖昧になるなどの課題が生じるようになっていたが、「救急時の対応の知識の普及」、「コミュニティーへの継続した知識の普及」、「子どもに対する知識の普及」の3つの目的に沿って組織を分割し、運営を開始し、「救急時の対応の知識の普及」は、日曜市を中心に活動を継続し、「コミュニティーへの継続した知識の普及」、「子どもに対する知識の普及」に関してはそれぞれ、香美市、南国市から助成金を受け、事業の充実を図った。新型コロナウイルス感染拡大後は、「コミュニティーへの継続した知識の普及」を中心に事業を選択集中させ、「手紙」を用いて、集合・対面での開催が困難な状況にも関わらず活動を継続できるよう、後輩を助言、指導し、この功績により、現地に赴かなくてもできる支援を確立し、現在に引き継がれている。	看護学部	大石 茄奈 大山 悠人 梶山 莉緒 上岡 麻尋 後藤 航平 高木 晴生 森本 真以
室戸ボランティアリーダー （4名）	国立室戸青少年自然の家や高知県立野市青少年センターが企画した教育的活動にボランティアとして参加するだけでなく、施設運営者の指導の下、学生が自主企画したイベントやボランティアリーダーの育成研修の企画・実施などに1，2回生時から現在に至るまで、継続的に参画した。またコロナ禍において、イベントの中止やメンバー間の直接的な交流が制限される中でも、Snsの充実を図って積極的に情報発信を行い、Web会議システムを活用して後輩の顔を見ながら話し合う機会を持ち、児童の成長発達に関する専門的な知識を活かして、発達段階に合わせたコミュニケーションの取り方や活動内容の組み立て方などを伝え、サークルとしての活動の維持・発展に尽力した。	看護学部	磯部 優花 岩打 紗歩 古藤 愛梨 橋村 汐音

団体名（人数）	功績	学部	氏名
廃校シェアハウス～須崎にきいやプロジェクト～ ※令和2年12月受賞 （5名）	国が公開する地域経済分析システム(Resas:リーサス)等の客観的データを活用して地域の課題を発見し、それを解決して地域を元気にするアイデアを競うコンテスト「高知家地域創生アイデアコンテスト2020」において、「敢闘賞」を受賞した。	社会福祉学部	大崎 明日香 塩崎 勇斗 菅野 開斗 須藤 真梨 丸川 日花里
安芸家プロジェクト ※令和3年12月受賞 （4名）	国が公開する地域経済分析システム(Resas:リーサス)等の客観的データを活用して地域の課題を発見し、それを解決して地域を元気にするアイデアを競うコンテスト「高知家地域創生アイデアコンテスト2021」において、「審査員特別賞」を受賞した。	社会福祉学部	井尻 璃子 岡崎 栞奈 小松 可歩 中川 紗也
Pシスターズ （9名）	持続可能な地域づくりに向けて、住民の思いを聞き、その地域ならではの「良さ」を生かして発展させながら、地域の生活「課題」に対してもその解決に向けて住民自身が主体的に取り組むことによって、「住み続けたい」地域づくりに貢献してきた。	社会福祉学部	生原 杏 石本 菜花 井上 結菜 高橋 和子 武村 明日香 西尾 理彩 平野 優里 吉村 歩華 渡部 千尋
イケあい地域災害学生ボランティアセンター （11名）	コロナウイルスの影響を受けている状況下でも、福祉・医療現場に手作りの感染防護用品を届ける活動や、子ども達がゲーム形式で防災を学べるカードゲーム、輪投げボードの開発、医療センターに向けた応援メッセージの発信等、自分達にできる防災活動を探求し、地域住民の方々との信頼関係を繋げていった。	文化学部	國澤 匠 中矢 悠大
		看護学部	井上 暖乃 入江 真衣 江本 美月 遠藤 春音 小松 未羽 山縣 穂佳
		社会福祉学部	大崎 明日香 長野 青葉 山本 真奈可
高知県学生献血クロス倶楽部 （2名）	日本赤十字社高知県支部と連携し、1回生から4回生まで継続して活動を行い、献血の普及、啓発活動に貢献した。	健康栄養学部	井土 遥 戸田 夕芽
COME☆RISH （12名）	COME☆RISH6期生として、中土佐町での農作業体験や定食提供、地域イベントへの参加等を行い、地域との交流を深め、子どもから大人を対象に高知市内の量販店店舗で大野見エコ米を含む複数のお米の食べ比べやお米に関する知識の普及を行った。地域での活動に積極的に取組み、食育活動や定食提供等を通じて、大野見エコ米や中土佐町の食材の素晴らしさを広く発信してきた。	健康栄養学部	池田 夏海 大崎 万葉 掛水 花音 加島 陽菜 片山 真優 酒井 優希 指熊 怜 島村 千香子 中尾 理紗 西村 麻矢 安井 美楓 吉永 さくら

団体名（人数）	功績	学部	氏名
小児糖尿病サマーキャンプ （4名）	公益財団法人日本糖尿病協会が主催する「小児糖尿病サマーキャンプ」に参加し、医療スタッフの指導を受け、子供たちと一緒に企画を楽しみ、血糖コントロールを一緒に考えたりする等、参加者(1型糖尿病の児童・生徒)のサポートを行った。また、サマーキャンプに参加する前から1型糖尿病に関する勉強会を重ね、専門知識の自己研鑽に努めた。	健康栄養学部	矢野 愛実 稲嶺 果音 高岡 萌衣 松崎 萌々子
☆こどもみらい塾☆ （6名）	こどもみらい塾のメンバーとして、健康栄養学部の学生は、主に献立作成と調理、片付けと活動資金の管理、社会福祉学部の学生は、主に活動資金の申請、小学校へのチラシの配布や子どもとの交流を行う等、それぞれの学部での学びを生かしながら子ども食堂の運営を行い、地域の子どもたちの居場所づくりを行った。	社会福祉学部	西本 真悟 松村 宏人 吉村 歩華
		健康栄養学部	岡 ゆり 千頭 夢 山城 舞依

（6）サーティフィケーション授与状況

協定校	氏名	内容	招聘者
弘光科技大學	廖盈慈 黃怡如 余泳茵 鐘玉如 廖家羚 張靖荑 李欣霈 勞建國 陳履軒	2021年10月21日 オンライン交流会～多文化共生について～	高知県立大学 （国際交流センター）
慶尚国立大學校	金世珉 吳尙炫 金旼映 張星吉 黃現泰 盧珍勳 金東壎 金建瑩 崔汀勛 尹楨希	2021年11月22日 オンライン交流会～多文化共生について～	高知県立大学 （国際交流センター）

6 SD・FD活動実施状況

（1）全学SD・FD

区 分	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主 催	共 催
S D	「ポスト・コロナ時代の大学授業・大学教員・大学生−大学教育はいかに変容していくのか」	大阪大学 全学教育推進機構 佐藤 浩章 准教授	令和3年11月11日	74	高知県立大学	
F D	第22回学際的交流サロン 「高知県立大学の域学共生」	地域教育研究センター長 清原 泰治 教授	令和3年5月31日	71	学術研究戦略委員会	高知県立大学FD委員会
	第8回越境シリーズ講座 責任ある研究者として －適正な研究活動のための研究倫理の基本	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター トランスレーショナル・メディカルセンター 臨床研究支援部 倫理相談・教育研修室室長 有江 文栄 先生	令和3年6月15日	58	高知県立大学研究倫理委員会	学術研究戦略委員会（越境シリーズ講座）・FD委員会
	第23回学際的交流サロン 「研究能力を高める戦略的研究推進プロジェクトの報告会」 ①災害時意思決定支援モバイル・ツール開発のための基礎調査 －被災地における看護有資格者の医療知識／技術情報について－ ②大学－臨床連携システムによる感染症に対する地域包括的な対応能力の向上	①看護学部 木下 真里 教授 ②看護学部 大川 宣容 教授	令和3年7月19日	63	学術研究戦略委員会	高知県立大学FD委員会
	第24回学際的交流サロン 「研究能力を高める戦略的研究推進プロジェクトの報告会Ⅱ」 ①高幡保健医療圏における精神障害に対応した包括的支援マネジメントモデルの開発 ②永国寺キャンパスを拠点とした地域文化資源の保存・整備と利活用に関する実践的研究 ③炎症性腸疾患の新規治療法確立を目指した基礎的研究	①看護学部 瀧 めぐみ 助教 ②文化学部 飯高 伸五 准教授 ③健康栄養学部 竹井 悠一郎 講師	令和3年9月6日	40	学術研究戦略委員会	高知県立大学FD委員会
	第9回越境シリーズ講座 「Visualization and information utilization of disaster reduction towards SFDRR and SDGs −How can we secure the inclusiveness with used information in Society 5.0?−（仙台防災枠組み及びSDGsを鑑みた防災の可視化と情報利活用 −Society 5.0の中で情報を利活用し、地域の安心を包摂的に守れるか−）」	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 Rajib Shaw 教授	令和3年11月10日	33	学術研究戦略委員会	高知県立大学FD委員会 看護学研究科 人間生活学研究科
	第25回学際的交流サロン 「地方移住政策の地域における影響」	文化学部 宇都宮 千穂 准教授	令和3年11月17日	50	学術研究戦略委員会	高知県立大学FD委員会
	令和3年度第1回FD研修会 遠隔授業の実践例紹介	文化学部 梶原 太一 准教授 看護学部 時長 美希 教授 看護学部 川本 美香 助教 看護学部 髙橋 真紀子 助教 社会福祉学部 行貞 伸二 講師 健康栄養学部 小林 淳 教授 地域教育研究センター 石山 貴章 教授	令和3年12月21日	72	高知県立大学FD委員会	
	第26回学際的交流サロン 「世界を切り分ける言葉の根源的な働きからみるとアルツハイマー病も相当違ってみえる」	社会福祉学部 横井 輝夫 教授	令和4年1月19日	47	学術研究戦略委員会	高知県立大学FD委員会
	第27回学際的交流サロン 「子どもを産み育てる親を支える看護 ～乳児期の子どもを育てる親のMasteryに関する研究～」	看護学部 嶋岡 暢希 准教授	令和4年2月16日	52	学術研究戦略委員会	高知県立大学FD委員会
	令和3年度第2回FD研修会 パフォーマンス課題による評価の考え方と進め方	京都大学 教育学研究科 西岡 加名恵 教授	令和4年3月8日	72	高知県立大学FD委員会	

（2）部局別SD・FD

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主 催	共 催
文化学部	障害を持った学生への対応 （受講方法：オンライン）	文化学部　鳥飼 真人 准教授 竹島 健児 学務支援室長 文化学部　大井 方子 障害監督者	令和3年5月24日	23	学務支援室・学部障がい学生支援に関する監督者・学部FD委員会	
	遠隔授業：他教員から学ぶ （受講方法：オンライン）	文化学部　井上 次夫 教授	令和3年6月28日	22	学部FD委員会	
	基礎演習に関する情報の共有と意見交換 （受講方法：オンライン）	「基礎演習」担当教員9名	令和3年7月26日	18	学部FD委員会	
	卒業研究関係－ゼミ所属、発表会、評価法－	井上 次夫 学部教務委員長	令和3年12月13日	23	学部教務委員会	学部FD委員会
	育児・介護休業法	根岸 忠 学部人権委員長	令和4年2月7日	19	学部人権委員会	学部FD委員会
看護学部	第1回　ルーブリックに関するFD	なし	令和3年4月28日	53	学部FD委員会	
	第2回　ルーブリックに関するFD （受講方法：オンライン）	なし	令和3年5月10日	45	学部FD委員会	
	大学におけるハラスメント （受講方法：オンライン）	看護学部　内川 洋子 准教授	令和3年5月12日	45	学部人権委員会	
	第3回　看護学教育におけるカリキュラムと評価に関するFD （受講方法：オンライン）	日本赤十字看護大学 看護学部長 佐々木 幾美 教授	令和3年5月14日	44	学部FD委員会	
	第4回　ルーブリック作成の進め方に関するFD （受講方法：オンライン）	なし	令和3年5月26日	50	学部FD委員会	
	第1回　新任の先生を対象としたFD （受講方法：オンライン）	なし	令和3年6月2日	9	学部FD委員会	
	令和3年度高知看護教育研究会第1回学習会 コロナ禍におけるシュミレーション教育 （受講方法：オンライン）	東京医科大学　阿部 幸恵 教授	令和3年6月19日	20	学部FD委員会	
	第2回　新任の先生を対象としたFD	ファシリテーター 看護学部　藤代 知美 准教授 看護学部　髙谷 恭子 准教授 着任後2年目の教員 アドバイザー 看護学部　池添 志乃 教授	令和3年7月28日	10	学部FD委員会	
	第5回　ルーブリックに関するFD （受講方法：オンライン）	なし	令和3年9月8日	32	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「近年の大学改革の進展をふまえた大学管理運営の新たな発想」 （受講方法：オンライン）	桜美林大学大学院 山本 真一 先生	令和3年9月29日	21	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「リスクマネジメント－大学教員のためのキャンパスハラスメント－」	立命館大学・立命館附属高校 ハラスメント防止委員会委員長代理 湯川 笑子 特命教授	令和3年10月6日	16	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「IR入門」 （受講方法：オンライン）	立命館大学　鳥居 朋子 先生	令和3年10月20日	19	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「IR入門」 （受講方法：オンライン）	立命館大学　安岡 高志 先生	令和3年10月27日	21	学部FD委員会	
	第6回　臨地実習における学生の主体的な学びを言語化するレポート作成の指導	瓜生 浩子 学部教務委員長 大川 宣容 学部臨床実習委員長	令和3年11月8日	9	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「教職協働による大学運営」 （受講方法：オンライン）	立命館大学　大島 英穂 先生	令和3年11月24日	12	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「大学におけるミクロ・ミドルレベルでのFD活動（part1.2）」 （受講方法：オンライン）	大阪大学　佐藤 浩章 先生	令和3年12月1日	18	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「大学におけるミクロ・ミドルレベルでのFD活動（part3）」 （受講方法：オンライン）	大阪大学　佐藤 浩章 先生	令和3年12月8日	18	学部FD委員会	

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主 催	共 催
看護学部	ディープアクティブラーニング～深い学びを促進する （受講方法：オンライン）	京都大学　松下 佳代 教授	令和3年12月18日	22	高知看護教育研究会	
	実践的FDプログラム「大学経営革新に活かすプロジェクト・マネジメント」	（社）日本能率協会 牧野 光昭 先生	令和3年12月22日	16	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「現代の高等教育」 （受講方法：オンライン）	筑波大学　金子 元久 先生	令和4年1月5日	20	学部FD委員会	
	早く気づけるストレスケア （受講方法：オンライン）	成蹊大学　原 昌登 氏 横浜労災病院勤労者メンタルヘルスセンター長　山本 晴義 氏	令和4年1月5日～3月16日	38	学部人権委員会	
	実践的FDプログラム「高等教育研究史」 （受講方法：オンライン）	桜美林大学　舘 昭 先生	令和4年1月26日	16	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「大学教育改革とFD」 （受講方法：オンライン）	京都産業大学　川島 啓二 先生	令和4年2月2日	25	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「大学評価論」 （受講方法：オンライン）	立命館大学　教育開発推進機構 鳥居 朋子 先生	令和4年2月9日	19	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「高等教育政策」 （受講方法：オンライン）	明治大学　高野 和子 先生	令和4年3月2日	19	学部FD委員会	
社会福祉学部	学外実習における新型コロナ感染対策 （受講方法：オンライン）	社会福祉学部　三好 弥生 准教授	令和3年5月24日	22	学部FD委員会	
	研究費獲得に向けた実践の紹介 （受講方法：オンライン）	社会福祉学部　辻 真美 講師	令和3年6月28日	19	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「研究者にできる多様なアウトリーチ活動の紹介」 （受講方法：オンライン）	滋賀大学教育学部理科教室講座 加納 圭 准教授	令和3年11月22日	22	学部FD委員会	
	無関心が生む不正義と不誠実を乗り越えるソーシャルワーク教育～鋭敏かつ感性豊かな「想豫」と「創造」の力をいかに育むか～ （受講方法：オンライン）	第50回 全国社会福祉教育セミナー2021　奥田 知志 氏（特定非営利活動法人抱撲）、道念 由紀 氏（厚生労働省 社会・援護局）等	令和3年11月27日	2	日本ソーシャルワーク教育学連盟	
	研究と社会正義 （受講方法：オンライン）	文化学部　吉川 孝 准教授 NPO法人はまちどり 永野 いつ香 氏	令和4年1月31日	26	学部FD委員会	人間生活学研究科FD委員会
健康栄養学部	破骨細胞様細胞を標的とした、炎症性腸疾患の新規治療法の開発を目指した基礎的研究	健康栄養学部 竹井 悠一郎 講師	令和3年11月22日	17	学部FD委員会	
	合同災害訓練の振り返り	健康栄養学部 廣内 智子 講師 健康栄養学部 島田 郁子 講師	令和3年12月6日	20	学部FD委員会	
	遠隔授業の実践例紹介 （受講方法：オンライン）	健康栄養学部 小林 淳 教授	令和4年1月31日	13	学部FD委員会	
	新科目「健康栄養フィールドワーク」の活動報告	健康栄養学部 廣内 智子 講師 健康栄養学部 島田 郁子 講師	令和4年2月21日	17	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム （受講方法：オンライン）	立命館大学　鳥居 朋子 先生	令和4年3月7日	8	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「教員と学生の教育・研究を促進するツールとしての研究倫理」 （受講方法：オンライン）	東京大学　渡邊 卓也 先生	令和4年3月14日	7	学部FD委員会	

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主 催	共 催
看護学研究科	統計勉強会No.1 （受講方法：オンライン）	看護学部　山田 覚 教授	令和3年5月10日	7	研究科FD委員会	
	統計勉強会No.2 （受講方法：オンライン）	看護学部　山田 覚 教授	令和3年6月14日	6	研究科FD委員会	
	統計勉強会No.3 （受講方法：オンライン）	看護学部　山田 覚 教授	令和3年7月5日	5	研究科FD委員会	
	統計勉強会No.4 （受講方法：オンライン）	看護学部　山田 覚 教授	令和3年9月6日	6	研究科FD委員会	
	国際学会での研究発表 （受講方法：オンライン）	看護学部　池田 光徳 教授	令和3年9月13日	14	研究科FD委員会	
	統計勉強会No.5 （受講方法：オンライン）	看護学部　山田 覚 教授	令和3年10月4日	5	研究科FD委員会	
	統計勉強会No.6 （受講方法：オンライン）	看護学部　山田 覚 教授	令和3年11月1日	4	研究科FD委員会	
	統計勉強会No.7 （受講方法：オンライン）	看護学部　山田 覚 教授	令和3年12月6日	5	研究科FD委員会	
地域教育研究センター	情報セキュリティ研修 「大学で発生した事例」	地域教育研究センター 一色 健司 教授	令和4年2月22日	6	センターFD委員会	

（3）全学人権研修会

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主 催	共 催
全学	法律の観点から学ぶ職場におけるハラスメント防止 （受講方法：オンライン研修）	文化学部　根岸 忠 准教授	令和3年12月3日	82	高知県立大学人権委員会	

（4）部局別人権研修会

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主 催	共 催
文化学部	育児・介護休業法	根岸 忠 学部人権委員長	令和4年2月7日	19	学部人権委員会	学部FD委員会
看護学部・看護学研究科	大学におけるハラスメント （受講方法：オンライン）	看護学部　内川　洋子 准教授	令和3年5月12日	45	学部人権委員会	
	早く気づけるストレスケア （受講方法：オンライン）	成蹊大学　原 昌登 氏 横浜労災病院勤労者メンタルヘルスセンター長　山本 晴義 氏	令和4年1月5日～3月16日	38	学部人権委員会	
	厚生労働省委託事業「あかるい職場応援団」 みんなでNoハラスメントオンライン研修講座 （受講方法：オンライン）		令和4年1月5日～3月4日	34	学部人権委員会	
社会福祉学部	厚生労働省委託事業「あかるい職場応援団」 みんなでNoハラスメントオンライン研修講座 （受講方法：オンライン）		令和4年1月20日～2月28日	15	学部人権委員会	
健康栄養学部	厚生労働省委託事業「あかるい職場応援団」 みんなでNoハラスメントオンライン研修講座 （受講方法：オンライン）		令和4年1月12日～1月31日	15	学部人権委員会	
地域教育研究センター	私たち一人ひとりができること―当事者意識を持って考えるコロナ差別―		令和4年2月2日	4	地域教育研究センター人権委員会	
事務局	厚生労働省委託事業「あかるい職場応援団」 みんなでNoハラスメントオンライン研修講座 （受講方法：オンライン）		令和3年11月9日～令和4年1月31日	84	事務局人権委員会	

（5）学外研修

部 署	内 容	期 間	参加者数（人）	主 催
看護学部	第35回　愛媛大学授業デザインワークショップ （受講方法：オンライン）	令和3年7月3日～7月4日	1	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	第2回　公立大学の経営課題に関する研修会 （受講方法：オンライン）	令和3年7月30日	1	一般社団法人公立大学協会
	SPODフォーラム2021 （受講方法：オンライン）	令和3年8月25日～8月27日	1	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	オンラインでグループワークを！ ―オンラインMiroを使ったワークを体験する― （受講方法：オンライン）	令和3年9月8日	1	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	第3回愛媛大学データサイエンス教育セミナー （受講方法：オンライン）	令和4年1月19日	1	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
健康栄養学部	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法 （受講方法：オンライン）	令和3年12月10日～令和4年1月31日	1	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
事務局	初任者研修①	令和3年4月1日	3	高知県公立大学法人
	初任者研修②	令和3年4月12日	3	高知県公立大学法人
	初任者研修③	令和3年4月16日	3	高知県公立大学法人
	新規採用職員研修（社会人経験者採用）	令和3年4月22日	1	高知県
	新規採用職員研修（社会人経験者採用） オンライン研修① （受講方法：オンライン）	令和3年4月21日～5月21日	1	高知県
	新規採用職員研修（基礎①） （受講方法：オンライン）	令和3年4月21日～5月21日	2	高知県
	公立大学に関する基礎研修	令和3年5月10日	6	一般社団法人公立大学協会
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（新任職員） （受講方法：オンライン）	令和3年5月12日～5月14日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	新規採用職員研修（基礎②）	令和3年5月17日	1	高知県
	新規採用職員研修（基礎②） （受講方法：オンライン）	令和3年5月17日～6月17日	2	高知県
	新規採用職員研修（社会人経験者採用） オンライン研修② （受講方法：オンライン）	令和3年5月17日～6月17日	1	高知県
	ハラスメント相談員セミナー （受講方法：オンライン）	令和3年5月17日～8月16日	1	フォーブレーン
	新規採用職員研修（基礎②）	令和3年6月3日	1	高知県
	Excel研修 （受講方法：オンライン）	令和3年6月14日～7月30日	35	富士通 （FUJITSUファミリ会四国支部）
	公立大学の経営課題に関する研修会 （受講方法：オンライン）	令和3年6月24日	8	一般社団法人公立大学協会
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ） （受講方法：オンライン）	令和3年6月24日～6月25日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク

部 署	内 容	期 間	参加者数（人）	主 催
事務局	大学SDフォーラム （受講方法：オンライン）	令和3年7月～12月	53	学校経営支援センター
	令和3年度著作権セミナー （受講方法：オンライン）	令和3年7月7日	11	文化庁 高知県
	次世代リーダー養成ゼミナール（第2回）開放講義 （受講方法：オンライン）	令和3年7月15日	1	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	公立大学リスク・マネジメントセミナー（第2回） （受講方法：オンライン）	令和3年7月16日	7	一般社団法人公立大学協会
	第2回　公立大学の経営課題に関する研修会 （受講方法：オンライン）	令和3年7月30日	2	一般社団法人公立大学協会
	SPODフォーラム2021 （受講方法：オンライン）	令和3年8月25日～8月27日	4	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	令和3年度高知大学新任教員FD研修 （受講方法：オンライン）	令和3年9月8日	1	高知大学
	2021年度FD・SD夏期スキルアップ講座 （受講方法：オンライン）	令和3年9月9日	2	愛媛大学
	教務事務セミナー （受講方法：オンライン）	令和3年9月10日	6	一般社団法人公立大学協会
	9月FDスキルアップ講座 （受講方法：オンライン）	令和3年9月16日	6	香川大学
	公立大学法人会計入門セミナー （受講方法：オンライン）	令和3年9月27日	7	一般社団法人公立大学協会
	令和3年度公立大学職員セミナー （受講方法：オンライン）	令和3年9月30日	2	一般社団法人公立大学協会
	公立大学法人会計初級セミナー （受講方法：オンライン）	令和3年10月5日	6	一般社団法人公立大学協会
	公立大学法人会計中級セミナー （受講方法：オンライン）	令和3年10月7日、10月11日	5	一般社団法人公立大学協会
	次世代リーダー養成ゼミナール（第3回）開放講義 （受講方法：オンライン）	令和3年10月20日	3	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	第3回　公立大学の経営課題に関する研修会 （受講方法：オンライン）	令和3年11月30日	1	一般社団法人公立大学協会
	第4回　公立大学の経営課題に関する研修会 （受講方法：オンライン）	令和3年12月17日	4	一般社団法人公立大学協会
	公立大学リスク・マネジメントセミナー（第3回） （受講方法：オンライン）	令和4年3月22日	3	一般社団法人公立大学協会

Ⅴ　学生

1　行事実績

令和3年

4月　2日(金)	入学式
4月　4日(日)～4月　5日(月)	健康診断　：　池キャンパス
4月　5日(月)	(1)新入生ガイダンス
	(2)在学生ガイダンス
4月　6日(火)	(1)新入生ガイダンス
	(2)在学生ガイダンス
4月　7日(水)	前期授業開始
4月11日(日)	健康診断　：　永国寺キャンパス
4月14日(水)	履修登録締切
4月21日(水)	創立記念日
4月22日(木)～　4月30日(金)	前期履修登録変更期間
4月25日(日)	健康診断　：　永国寺キャンパス
5月14日(金)	定例学生大会(午後)
5月25日(火)～　5月31日(月)	前期履修中止届出期間
7月　8日(木)～　7月28日(水)	後期英語コミュニケーション科目履修希望調査
7月10日(土)	ウェブオープンキャンパス
8月　2日(月)～　8月　9日(月)	補講・試験期間
8月10日(火)～　9月12日(日)	夏季休業期間
8月31日(火)	前期成績提出締切
9月11日(土)～　9月12日(日)	大学院第一次学生募集選抜
9月　7日(火)	前期成績開示日
9月13日(月)～　9月30日(木)	集中講義期間
9月24日(金)	9月卒業式・修了式
9月27日(月)	前期成績判定日
10月　1日(金)	後期授業開始
10月　8日(金)～10月18日(月)	後期履修登録変更期間
10月21日(木)	月曜日授業
11月　6日(土)～11月　7日(日)	大学祭
11月20日(土)～11月21日(日)	学校推薦型選抜・社会人選抜・3年次編入学選抜
11月24日(水)～11月30日(火)	後期履修中止届出期間
12月20日(月)～12月24日(金)	集中講義期間
12月25日(土)～　1月　4日(火)	冬季休業期間

令和4年

1月　5日(水)	授業開始
1月14日(金)	休講(大学入学共通テスト準備のため)
1月15日(土)～　1月16日(日)	大学入学共通テスト本試験
1月22日(土)～　1月23日(日)	大学院第二次学生募集選抜
1月23日(日)	私費外国人留学生選抜
1月29日(土)～　1月30日(日)	大学入学共通テスト追試験
2月　1日(火)～　2月21日(月)	次年度前期英語コミュニケーション科目履修希望調査
2月　9日(水)～　2月22日(火)	補講・試験期間
2月24日(木)～　3月18日(金)	集中講義期間
2月24日(木)	後期成績提出締切(4回生)
2月25日(金)	後期成績開示日(4回生)
2月25日(金)～　2月26日(土)	一般選抜(前期日程)
3月　1日(火)	後期成績提出締切(1～3回生)
3月　2日(水)	卒業判定会議
3月　8日(火)	成績開示日(1～3回生)
3月12日(土)～　3月13日(日)	一般選抜(後期日程)・社会人選抜
3月22日(火)	卒業式・修了式
3月23日(水)～　3月31日(木)	春季休業期間
3月25日(金)	後期成績判定日(1～3回生)

2 入学の状況

(1)入学の状況

(単位:人)

学部・学科名		区分		募集人員 a	志願者数b 全体	志願者数b (県内)	志願倍率 b/a	受験者数c 全体	受験者数c (県内)	受験倍率 c/a	合格者数d 全体	合格者数d (県内)	合格倍率 c/d	追加合格者数 全体	追加合格者数 (県内)	入学者数 全体	入学者数 (県内)
文化学部	文化学科[言語文化系／地域文化創造系]	推薦	県内	30	61	(61)	2.0	61	(61)	2.0	32	(32)	1.9			32	(32)
			全国	8	35	(4)	4.4	35	(4)	4.4	14	(3)	2.5			14	(3)
		個別	前期	72	191	(48)	2.7	168	(44)	2.3	87	(20)	1.9	0	(0)	76	(18)
			後期	10	179	(56)	17.9	51	(21)	5.1	10	(5)	5.1	0	(0)	9	(4)
		社会人		若干名	0	(0)	−	0	(0)	−	0	(0)	−	0	(0)	0	(0)
		私費外国人留学生		若干名	2		−	2		−	1		−			1	
		1年次計		120	468	(169)	3.9	317	(130)	2.6	144	(60)	2.2	0	(0)	132	(57)
		3年次編入		5	5	(2)	1.0	4	(2)	0.8	1	(1)	4.0	0	(0)	1	(1)
		合計		125	473	(171)	3.8	321	(132)	2.6	145	(61)	2.2	0	(0)	133	(58)
	文化学科[文化総合系(夜間主コース)]	推薦	県内	10	3	(3)	0.3	3	(3)	0.3	3	(3)	1.0			3	(3)
		社会人A		10	12	(3)	1.2	12	(3)	1.2	12	(3)	1.0	0	(0)	10	(3)
		社会人B		10	27	(15)	2.7	20	(13)	2.0	18	(11)	1.1	0	(0)	17	(10)
		1年次計		30	42	(21)	1.4	35	(19)	1.2	33	(17)	1.1	0	(0)	30	(16)
		3年次編入		3	5	(1)	1.7	4	(1)	1.3	0	(0)		0	(0)	0	(0)
		合計		33	47	(22)	1.4	39	(20)	1.2	33	(17)	1.2	0	(0)	30	(16)
看護学部	看護学科	推薦	県内	22	46	(46)	2.1	46	(46)	2.1	22	(22)	2.1			22	(22)
		個別	前期	52	87	(38)	1.7	77	(37)	1.5	56	(24)	1.4	0	(0)	54	(23)
			後期	6	81	(28)	13.5	23	(7)	3.8	7	(1)	3.3	0	(0)	7	(1)
		社会人		若干名	1	(0)	−	0	(0)	−	0	(0)	−	0	(0)	0	(0)
		私費外国人留学生		若干名	0		−	0		−	0		−			0	
		合計(1年次計)		80	215	(112)	2.7	146	(90)	1.8	85	(47)	1.7	0	(0)	83	(46)
社会福祉学部	社会福祉学科	推薦	県内	20	23	(23)	1.2	23	(23)	1.2	20	(20)	1.2			20	(20)
			全国	10	17	(0)	1.7	17	(0)	1.7	10	(0)	1.7			10	(0)
		個別	前期	35	175	(37)	5.0	151	(35)	4.3	40	(13)	3.8	0	(0)	35	(9)
			後期	5	110	(32)	22.0	54	(15)	10.8	10	(1)	5.4	0	(0)	9	(1)
		社会人		若干名	0	(0)	−	0	(0)	−	0	(0)	−	0	(0)	0	(0)
		私費外国人留学生		若干名	4		−	2		−	2		−			1	
		合計(1年次計)		70	329	(92)	4.7	247	(73)	3.5	82	(34)	3.0	0	(0)	75	(30)
健康栄養学部	健康栄養学科	推薦	県内	12	14	(14)	1.2	14	(14)	1.2	12	(12)	1.2			12	(12)
			全国	5	24	(0)	4.8	24	(0)	4.8	5	(0)	4.8			5	(0)
		個別	前期	23	64	(12)	2.8	53	(10)	2.3	28	(3)	1.9	0	(0)	25	(3)
		社会人		若干名	0	(0)	−	0	(0)	−	0	(0)	−	0	(0)	0	(0)
		私費外国人留学生		若干名	2		−	2		−	1		−			0	
		合計(1年次計)		40	104	(26)	2.6	93	(24)	2.3	46	(15)	2.0	0	(0)	42	(15)
学部計(夜間主を除く)		推薦	県内	84	144	(144)	1.7	144	(144)	1.7	86	(86)	1.7			86	(86)
			全国	23	76	(4)	3.3	76	(4)	3.3	29	(3)	2.6			29	(3)
		個別	前期	182	517	(135)	2.8	449	(126)	2.5	211	(60)	2.1	0	(0)	190	(53)
			後期	21	370	(116)	17.6	128	(43)	6.1	27	(7)	4.7	0	(0)	25	(6)
		社会人		若干名	1	(0)	−	0	(0)	−	0	(0)	−	0	(0)	0	(0)
		私費外国人留学生		若干名	8		−	6		−	4		1.5			2	
		1年次計		310	1,116	(399)	3.6	803	(317)	2.6	357	(156)	2.2	0	(0)	332	(148)
		3年次編入計		5	5	(2)	1.0	4	(2)	0.8	1	(1)	4.0	0	(0)	1	(1)
		総合計		315	1,121	(401)	3.6	807	(319)	2.6	358	(157)	2.3	0	(0)	333	(149)
学部総合計(夜間主も含む)		1年次総合計		340	1,158	(420)	3.4	838	(336)	2.5	390	(173)	2.1	0	(0)	362	(164)
		3年次編入総合計		8	10	(3)	1.3	8	(3)	1.0	1	(1)	8.0	0	(0)	1	(1)
		総合計		348	1,168	(423)	3.4	846	(339)	2.4	391	(174)	2.2	0	(0)	363	(165)
看護学研究科				26	27	(11)	1.0	26	(11)	1.0	23	(10)	1.1	0	(0)	22	(10)
人間生活学研究科				21	11	(9)	0.5	7	(5)	0.3	7	(5)	1.0	0	(0)	6	(5)
研究科計				47	38	(20)	0.8	33	(16)	0.7	30	(15)	1.1	0	(0)	28	(15)

(2)出身地別入学状況

【 学 部 】

○一般選抜

（単位：人）

学部	文化学部		看護学部		社会福祉学部		健康栄養学部	合　　計			
学科	文　化		看　護		社会福祉		健康栄養				
区分	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	前期	後期	計	割合
北海道	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0.5%
青森	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
岩手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
宮城	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0.5%
秋田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
山形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
福島	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
茨城	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
栃木	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
群馬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
埼玉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
千葉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
東京	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0.5%
神奈川	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.5%
新潟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
富山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
石川	1	0	1	0	1	1	0	3	1	4	1.9%
福井	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0.5%
山梨	0	0	0	0	2	0	0	2	0	2	0.9%
長野	2	0	0	1	0	0	0	2	1	3	1.4%
岐阜	1	0	0	0	0	0	1	2	0	2	0.9%
静岡	4	0	0	0	1	0	2	7	0	7	3.3%
愛知	1	0	0	0	0	0	3	4	0	4	1.9%
三重	1	0	0	0	0	1	0	1	1	2	0.9%
滋賀	0	0	0	0	1	0	1	2	0	2	0.9%
京都	2	0	0	1	0	0	0	2	1	3	1.4%
大阪	4	0	1	0	0	0	0	5	0	5	2.3%
兵庫	6	1	8	1	2	2	3	19	4	23	10.7%
奈良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
和歌山	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0.5%
鳥取	3	0	2	1	0	0	0	5	1	6	2.8%
島根	1	0	1	0	0	0	2	4	0	4	1.9%
岡山	5	1	2	0	3	0	2	12	1	13	6.0%
広島	5	1	7	0	1	1	0	13	2	15	7.0%
山口	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.5%
徳島	7	0	2	0	4	1	2	15	1	16	7.4%
香川	5	1	3	0	4	0	1	13	1	14	6.5%
愛媛	3	0	1	1	1	1	1	6	2	8	3.7%
高知	18	4	23	1	9	1	3	53	6	59	27.4%
福岡	1	0	0	0	1	0	0	2	0	2	0.9%
佐賀	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0.5%
長崎	2	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0.9%
熊本	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
大分	0	0	0	0	2	0	0	2	0	2	0.9%
宮崎	2	0	0	0	0	0	1	3	0	3	1.4%
鹿児島	0	0	1	0	1	1	0	2	1	3	1.4%
沖縄	0	0	1	1	0	0	1	2	1	3	1.4%
合計	76	9	54	7	35	9	25	190	25	215	100%

○学校推薦型選抜

（単位：人）

学部	文　化		看　護	社会福祉	健康栄養	合　計	割合
学科	文化学科 言語文化系／地域文化創造系	文化学科 文化総合系 （夜間主コース）	看　護	社会福祉	健康栄養		
兵庫	2	0	0	0	1	3	2.5%
和歌山	0	0	0	1	0	1	0.8%
徳島	2	0	0	3	2	7	5.9%
香川	1	0	0	1	0	2	1.7%
愛媛	3	0	0	5	1	9	7.6%
高知	35	3	22	20	12	92	78.0%
熊本	1	0	0	0	0	1	0.8%
宮崎	1	0	0	0	1	2	1.7%
鹿児島	1	0	0	0	0	1	0.8%
合計	46	3	22	30	17	118	100%

【大　学　院】

（単位：人）

研究科	看護学研究科		人間生活学研究科		合　計	割合
専攻	看護学専攻		人間生活学専攻	人間生活学専攻		
課程	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程		
千葉	0	1	0	0	1	3.6%
東京	1	0	0	0	1	3.6%
滋賀	0	1	0	0	1	3.6%
兵庫	1	0	0	0	1	3.6%
奈良	0	1	0	0	1	3.6%
岡山	1	0	0	0	1	3.6%
徳島	0	0	1	0	1	3.6%
愛媛	0	2	0	0	2	7.1%
高知	9	1	4	1	15	53.6%
福岡	1	1	0	0	2	7.1%
大分	1	0	0	0	1	3.6%
宮崎	1	0	0	0	1	3.6%
合計	15	7	5	1	28	100%

3　学生数（令和3年5月1日現在）

（単位：人）

学部・学科・専攻		1回生			2回生			3回生			4回生			5回生以上			合計		
		県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計
文化学部（昼）	文化学科	65	63	128	52	73	125	47	75	122	60	96	156				224	307	531
	編入生	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	2				1	2	3
	小　計	65	63	128	52	73	125	47	76	123	61	97	158				225	309	534
文化学部（夜間主）	文化学科	16	8	24	18	15	33	19	10	29	22	16	38				75	49	124
	編入生	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	3	5				2	4	6
	小　計	16	8	24	18	15	33	19	11	30	24	19	43				77	53	130
看護学部	看護学科	34	51	85	33	50	83	32	49	81	35	49	84				134	199	333
	編入生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0
	小　計	34	51	85	33	50	83	32	49	81	35	49	84				134	199	333
社会福祉学部	社会福祉学科	29	45	74	29	49	78	32	43	75	34	42	76				124	179	303
	編入生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0
	小　計	29	45	74	29	49	78	32	43	75	34	42	76				124	179	303
健康栄養学部	健康栄養学科	14	30	44	18	22	40	13	30	43	12	29	41				57	111	168
	編入生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0
	小　計	14	30	44	18	22	40	13	30	43	12	29	41				57	111	168
学部合計	学部合計	158	197	355	150	209	359	143	207	350	163	232	395				614	845	1,459
	編入生合計	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3	4	7				3	6	9
	合　計	158	197	355	150	209	359	143	209	352	166	236	402				617	851	1,468
大学院	看護学研究科看護学専攻（博士前期）	12	9	21	13	8	21										25	17	42
	看護学研究科看護学専攻（博士後期）	4	4	8	2	3	5	4	6	10							10	13	23
	看護学研究科共同災害看護学専攻（博士）							0	1	1	1	0	1	0	4	4	1	5	6
	人間生活学研究科（博士前期）	7	1	8	12	0	12										19	1	20
	人間生活学研究科（博士後期）	4	0	4	4	0	4	1	1	2							9	1	10
大学院合計	合　計	27	14	41	31	11	42	5	8	13	1	0	1	0	4	4	64	37	101
総計		185	211	396	181	220	401	148	217	365	167	236	403	0	4	4	681	888	1,569

4 休学・退学・修業年限を超えて在籍する学生数及び単位互換の状況

(1)年次別休学者数

(単位:人)

区分			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
文化学部	文化学科		19	13	24	20	24
看護学部	看護学科		2	3	4	4	4
社会福祉学部	社会福祉学科		1	3	3	5	5
健康栄養学部	健康栄養学科		0	0	2	2	4
学部合計			22	19	33	31	37
大学院	看護学研究科	看護学専攻(博士前期)	1	0	2	3	3
		看護学専攻(博士後期)	0	2	2	6	7
		共同災害看護学専攻(博士)	1	1	1	1	0
	人間生活学研究科	人間生活学専攻(博士前期)	1	2	0	1	1
		人間生活学専攻(博士後期)	1	0	0	0	1
大学院合計			4	5	5	11	12
合計			26	24	38	42	49

(2)年次別退学者数

(単位:人)

区分			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
文化学部	文化学科		14	13	13	13	19
看護学部	看護学科		3	1	1	2	3
社会福祉学部	社会福祉学科		4	2	1	1	4
健康栄養学部	健康栄養学科		0	0	2	1	2
学部合計			21	16	17	17	28
大学院	看護学研究科	看護学専攻(博士前期)	2	0	1	0	1
		看護学専攻(博士後期)	0	0	0	1	0
		共同災害看護学専攻(博士)	0	0	0	1	0
	人間生活学研究科	人間生活学専攻(博士前期)	1	1	0	0	0
		人間生活学専攻(博士後期)	0	3	0	0	0
大学院合計			3	4	1	2	1
合計			24	20	18	19	29

（3）修業年限を超えて在籍する学生数（令和3年4月1日現在）

（単位：人）

区　　分		5年	6年	7年	8年以上	計
文化学部	文化学科	26	7	3	0	36
看護学部	看護学科	0	1	0	0	1
社会福祉学部	社会福祉学科	2	1	0	0	3
健康栄養学部	健康栄養学科	0	0	0	0	0
学　部　合　計		28	9	3	0	40

（単位：人）

区　　分			3年	4年	5年	6年以上	計
大 学 院	看護学研究科	看護学専攻（博士前期）	3	1	0	0	4
		看護学専攻（博士後期）		3	2	2	7
		共同災害看護学専攻（博士）				1	1
	人間生活学研究科	人間生活学専攻（博士前期）	2	0	0	0	2
		人間生活学専攻（博士後期）		0	0	2	2
大 学 院 合 計			5	4	2	5	16

（4）単位互換の状況

（単位：人）

大　学　名	派　遣		受　入	
	人数	科目数(延べ)	人数	科目数(延べ)
高知大学	0	0	0	0
高知短期大学	0	0	0	0
高知学園短期大学	0	0	0	0
高知工科大学	0	0	0	0
名古屋市立大学	0	0	0	0
名桜大学	0	0	0	0
合　　計	0	0	0	0

5 課外活動

（単位：人）

文化系　（令和4年3月31日現在）		体育系　（令和4年3月31日現在）	
団　体　名	部員数	団　体　名	部員数
3大学合同地域活性化団体Sun-fes	19	FCソフィア	32
COME☆RISH	51	合氣道部	6
Society For Everyone	9	弓道部	3
イケあい地域災害学生ボランティアセンター	33	柔道部	3
いけいけサロン活動	18	準硬式野球部	22
裏千家茶道部池キャンパス	6	女子ソフトボール部	6
裏千家茶道部（永国寺）	9	水泳部	4
エスコーターズ	9	太鼓部	5
オーテピアンズ	13	バスケットボール部	21
学生子ども保健室「ゆい」	9	バドミントンサークル	40
活輝創生実行委員会	17	バレーボール部	33
華道部	1	高知県立大学陸上競技部	3
競技かるた部	3	高知県立大学剣道部	4
かんきもん	58	少林寺拳法部	3
グローカルクラブ	11	高知県立大学卓球サークル	3
軽音楽部RiOT	35	ASC	22
国際交流クラブ	16	ソフトバレーサークル ※	23
☆こどもみらい塾☆	35		
こめっ娘。	6		
手話サークル	8		
高知県立大学池キャンパス吹奏楽団	5		
永国寺キャンパス吹奏楽団	12		
高知県立大学生活協同組合学生委員会	2		
箏曲部	5		
図書館サークルLibe	6		
ハモ☆イケ	9		
漫画研究部	13		
マンドリンクラブ	3		
薬物乱用防止啓発サークル「ダメ。ゼッタイ。」	9		
JELIE	5		
高知県立大学災害看護学生チーム	27		
Pシスターズ	39		
室戸ボランティアリーダー	78		
UOK手話サークル	21		
学生団体コンパスよさこいチーム叢雲	7		
落語研究会	7		
Squid ink	4		
ことば研究会	3		
中国語サークル　ちゃいん	4		
セキララジオ ※	6		
LGBTQ支援部 ※	4		
news paper's ※	5		
美術部 ※	2		
Harmony of Music ※	6		
44団体	648	17団体	233
61団体		881人	

※　令和3年度活動なし

６ 授業料等の納入状況

（1）入学料・授業料

（単位：円）

区　分		入学検定料の額	入学料の額		授業料の額	
			県内生	県外生		
学　生	学　部	17,000 夜間主コース：10,000	141,000 夜間主コース：70,500	282,000 夜間主コース：141,000	年　額	535,800 夜間主コース：267,900
		編入：30,000 編入夜間主コース：18,000				
	大学院	30,000				
科目等履修生		4,900	14,100 夜間主コース：7,500	28,200 夜間主コース：14,100	1単位	14,800 夜間主コース：7,400
研　究　生		4,900	42,300	84,600	月　額	29,700

（2）授業料免除状況①（経済的理由による免除、家計急変等特別な事情による免除）

区　分		学　部			大　学　院			合　計		
		半額免除	全額免除	合計	半額免除	全額免除	合計	半額免除	全額免除	合計
平成29(2017)年度	免除者（人）	52	92	144	4	1	5	56	93	149
	免除額（円）	13,930,800	48,445,250	62,376,050	1,071,600	535,800	1,607,400	15,002,400	48,981,050	63,983,450
平成30(2018)年度	免除者（人）	63	105	168	6	0	6	69	105	174
	免除額（円）	16,877,700	53,580,000	70,457,700	1,607,400	0	1,607,400	18,485,100	53,580,000	72,065,100
令和元(2019)年度	免除者（人）	75	89	164	7	4	11	82	93	175
	免除額（円）	20,047,850	46,569,950	66,617,800	1,875,300	1,964,600	3,839,900	21,923,150	48,534,550	70,457,700
令和2(2020)年度	免除者（人）	53	74	127	8	6	14	61	80	141
	免除額（円）	12,680,600	22,771,500	35,452,100	2,143,200	3,214,800	5,358,000	14,823,800	25,986,300	40,810,100
令和3(2021)年度	免除者（人）	38	43	81	8	6	14	46	49	95
	免除額（円）	9,733,700	18,217,200	27,950,900	2,143,200	3,214,800	5,358,000	11,876,900	21,432,000	33,308,900

（3）授業料免除状況②（成績優秀者に対する免除）

区　分		学　部			大　学　院			合　計		
		半額免除	全額免除	合計	半額免除	全額免除	合計	半額免除	全額免除	合計
平成28(2016)年度	免除者（人）	10	12	22	－	－	0	10	12	22
	免除額（円）	2,679,000	6,161,700	8,840,700	－	－	0	2,679,000	6,161,700	8,840,700
平成29(2017)年度	免除者（人）	11	12	23	－	－	0	11	12	23
	免除額（円）	2,946,900	5,893,800	8,840,700	－	－	0	2,946,900	5,893,800	8,840,700
平成30(2018)年度	免除者（人）	12	12	24	－	－	0	12	12	24
	免除額（円）	3,036,200	5,893,800	8,930,000	－	－	0	3,036,200	5,893,800	8,930,000
令和元(2019)年度	免除者（人）	12	12	24	－	－	0	12	12	24
	免除額（円）	2,812,950	6,429,600	9,242,550	－	－	0	2,812,950	6,429,600	9,242,550

※平成28年度制度開始、成績優秀による免除は平成31年度まで

（令和2年度以降は、制度変更により、学長奨励賞 受賞者への副賞として奨励金支給開始）

7 日本学生支援機構奨学金受給状況（令和4年3月1日現在）

【学 部】

（単位：人、％）

区分			文化学部	看護学部	社会福祉学部	健康栄養学部	合計
全学年	給付		102	52	51	23	228
	給付率(％)		15.4	15.6	16.8	13.7	15.5
	貸与	1種	186	83	87	56	412
		2種	132	75	52	34	293
		合計	318	158	139	90	705
		併用	52	21	17	13	103
		貸与率(％)※	40.1	41.1	40.3	45.8	41.0
	他奨学金※※		1	11	26	1	39
	学生数		664	333	303	168	1,468
1回生	給付		28	10	18	5	61
	貸与	1種	47	13	19	11	90
		2種	34	18	18	8	78
		合計	81	31	37	19	168
		併用	13	4	6	3	26
	他奨学金※※		0	1	3	0	4
2回生	給付		31	24	12	5	72
	貸与	1種	51	20	16	21	108
		2種	46	12	13	9	80
		合計	97	32	29	30	188
		併用	22	7	5	6	40
	他奨学金※※		0	3	6	0	9
3回生	給付		28	4	7	4	43
	貸与	1種	45	24	26	10	105
		2種	31	19	13	9	72
		合計	76	43	39	19	177
		併用	11	4	3	1	19
	他奨学金※※		0	5	8	1	14
4回生	給付		15	14	14	9	52
	貸与	1種	43	26	26	14	109
		2種	21	26	8	8	63
		貸与合計	64	52	34	22	172
		併用	6	6	3	3	18
	他奨学金※※		1	2	9	0	12

※ 貸与率(％)＝〔(合計-併用)〕/学生数*100　　※※ 他奨学金：日本学生支援機構以外

【大学院】

（単位：人、％）

区分		看護学研究科	人間生活学研究科	合計
全学年	1種	10	2	12
	2種	2	1	3
	合計	12	3	15
	併用	1	0	1
	学生数	71	30	101
	貸与率(％)※	15.5	10.0	13.9
	他奨学金※※	1	0	1

※ 貸与率(％)＝〔(合計-併用)〕/学生数*100　　※※ 他奨学金：日本学生支援機構以外

8 卒業(修了)者状況

(1)年次別卒業(修了)者数

(単位:人)

区分		年度	H29	H30	R1	R2	R3
学部	文化学部	文化学科	91	137	138	135	160
	看護学部	看護学科	80	82	82	82	81
	社会福祉学部	社会福祉学科	68	70	71	73	74
	健康栄養学部	健康栄養学部	41	42	41	40	41
	学部計		280	331	332	330	356
大学院	看護学研究科看護学専攻(博士前期)		10	16	11	17	18
	看護学研究科看護学専攻(博士後期)		3	1	6	3	1
	看護学研究科共同災害看護学専攻(博士)			1	2	1	3
	人間生活学研究科人間生活学専攻(博士前期)		5	13	7	6	10
	人間生活学研究科人間生活学専攻(博士後期)		2	0	2	1	1
	大学院計		20	31	28	28	33
合計			300	362	360	358	389

(2)令和3年度卒業者 就職状況

学科別産業別就職状況(令和4年4月22日現在)

(単位:人)

区　　分		文化学部	看護学部	社会福祉学部	健康栄養学部	合計
		文化	看護	社会福祉	健康栄養	
卒業者数		160	81	74	41	356
進学・留学決定者数		7	5	1	0	13
就職希望なし		29	0	3	0	32
就職希望者数(A)		124	76	70	41	311
就職決定者数(B)		121	76	70	41	308
就職決定率(B)/(A)%		97.6%	100.0%	100.0%	100.0%	99.0%
農林水産業・鉱業		2			1	3 (0)
建設業		4 (1)				4 (1)
製造業		7 (2)		1	4	12 (2)
電気・ガス・水道業						0 (0)
情報通信業		5				5 (0)
運輸業、郵便業		4 (1)				4 (1)
卸売業、小売業		32 (13)		1 (1)	7 (1)	40 (15)
金融業、保険業		21 (12)		1 (1)		22 (13)
不動産業、物品賃貸業		1 (1)				1 (1)
学術研究、専門・技術サービス業		2				2 (0)
宿泊業、飲食サービス業		2			3 (1)	5 (1)
生活関連サービス業、娯楽業		2			1 (1)	3 (1)
教育、学習支援業	学校教育	7 (5)	9 (1)		3 (3)	19 (9)
	学習支援					0 (0)
医療・福祉	医療・保健	2 (1)	51 (24)	7 (1)	13 (2)	73 (28)
	福祉・介護	1	2 (1)	39 (15)	4	46 (16)
複合サービス事業		5 (1)				5 (1)
サービス業(他に分類されないもの)		9 (2)		7	1	17 (2)
公務		14 (8)	14 (5)	14 (8)	3 (1)	45 (22)
上記以外		1 (1)			1	2 (1)
合　　計		121 (48)	76 (31)	70 (26)	41 (9)	308 (114)

注　( )内の数値は高知県内に就職した者

分類は日本標準産業分類による分類

Ⅵ　総合情報センター

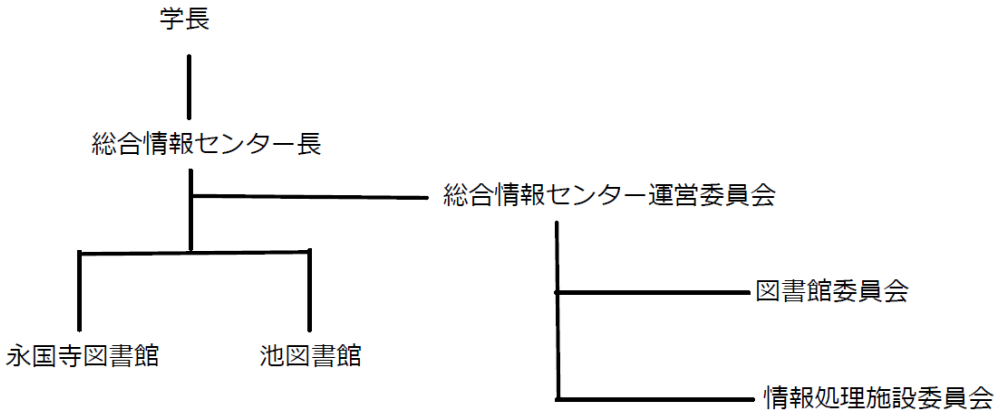
1　概要

総合情報センターのめざすもの

　高知県立大学総合情報センター図書館の管理、運営、図書館資料の収集、整理、保存、閲覧、調査及び情報処理施設の管理、運営を行い、教職員及び学生の情報処理に関する教育、研究の支援を行うとともに、地域社会の図書館活動及び学術情報システムの確立に協力し、地域の発展に寄与する。

2　組織･委員会

(1) 組織



(2) 委員会

ア　図書館委員会

委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。(図書館委員会細則第2条:審議事項)

1. 図書館の整備計画及び維持管理に関すること。
2. 図書館の図書館資料の収集、利用、管理及び調査等に関すること。
3. 学術情報の電子化及び情報発信等に関すること。
4. 図書館の利用者教育に関すること。
5. 図書館所蔵の特別資料の指定に関すること。
6. 他の図書館等との連携に関すること。
7. その他図書館の運営に関し必要な事項。

イ　情報処理施設委員会

委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。(情報処理施設委員会細則第2条:審議事項)

1. 情報処理施設及び設備(以下「情報処理施設等」という。)の整備計画及び維持管理に関すること。
2. 情報処理施設等の利用及び運用等に関すること。
3. 情報処理施設等の利用者教育に関すること。
4. 他の情報システムとの連携に関すること。
5. その他情報処理施設等の運営に関し必要な事項。

３ 図書等受入状況

（単位：冊）

図　書		永国寺	池	合　計
和漢書	令和3年度 受入数	887	1,198	2,085
	令和3年度 除籍等	-41	-2,702	-2,743
	蔵書数 (R4年3/31現在)	132,984	83,252	216,236
洋書	令和3年度 受入数	33	122	155
	令和3年度 除籍等	0	-112	-112
	蔵書数 (R4年3/31現在)	19,884	13,100	32,984
合計	令和3年度 受入数	920	1,320	2,240
	令和3年度 除籍等	-41	-2,814	-2,855
	蔵書数 (R4年3/31現在)	152,868	96,352	249,220

（単位：タイトル）

雑　誌		永国寺	池	合　計
和雑誌	令和3年度 受入数	88	171	259
	令和3年度 受入開始数	0	0	0
	令和3年度 除籍等	0	0	0
	蔵書数 (R4年3/31現在)	939	921	1,860
洋雑誌	令和3年度 受入数	7	49	56
	令和3年度 受入開始数	0	0	0
	令和3年度 除籍等	0	0	0
	蔵書数 (R4年3/31現在)	235	207	442
合計	令和3年度 受入数	95	220	315
	令和3年度 受入開始数	0	0	0
	令和3年度 除籍等	0	0	0
	蔵書数 (R4年3/31現在)	1,174	1,128	2,302

4　図書館利用状況

＜図書館利用状況＞

（単位：人、冊）

	永国寺	池	合計
入館者数	39,374	40,727	80,101
貸出人数	3,913	3,705	7,618
貸出冊数	6,334	9,029	15,363

新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年3月より学外利用者の入館を停止している。

＜文献複写＞　（令和4年3月31日現在）

（単位：件）

	依　頼			受　付
	公費	私費	合計	計
永国寺	144	98	242	100
池	347	86	433	479
合計	491	184	675	579

5　学内 LAN 状況

(1) サーバ、ネットワークシステムの概要

ア　サーバ

重要サーバ群（教務システム、財務システム等の業務用サーバ）は、高知工科大学と共同利用しているデータセンターに構築している仮想基盤上に配置している。情報演習室のシステムのサーバは永国寺キャンパスに配置している。

イ　ネットワークシステム

両キャンパスともに有線・無線LAN環境が整備されている。令和3年8月に池・永国寺無線ネットワーク更改を行った。池キャンパスにおいてはアクセスポイントを倍増（50台→100台）し接続環境が改善された。

(2) 登録ID（教職員、学生、大学院生ごとの内訳）及び接続端末の総数

ア　登録ID総数　1,760 名　　教職員219名（教員　120 名、事務職員 99名）

学生1,541 名（学部 1,446 名、大学院　95名）

イ　接続端末総数　約690台　　永国寺キャンパス　約320台

池キャンパス　約370台

(3) 情報演習室

ア　池情報演習室　2室（利用者用端末　各49台）

イ　池大学院生研究室　3室（利用者用端末　各14台）

ウ　永国寺情報演習室　2室（利用者用端末　130台、48台）

※永国寺情報演習室は高知工科大学と共用している。

VII　地域教育研究センター

地域教育研究センターは、本学が、社会に貢献する大学として、地域コミュニティに根ざし、また、未来を拓く「知の拠点」としての役割の強化並びに本学の教育理念である「地域社会志向教育」を実現するために、平成24年4月に設置された。

1. 地域教育研究センターは、中山間対策など高知県や地域が抱える現状や課題、ニーズを把握し、県・市町村や地域の諸組織 、本学卒業生などとともに本学との協働体制を構築し、機能させる仕組みづくりを行い、全学体制で課題解決に取り組む。
2. 地域課題に関する情報を入手できる環境を整備し、学生が主体的に行動できるよう、プログラムや支援体制を充実させる。
3. 公開講座、県民開放授業、履修証明プログラム、科目等履修生制度等を活用し、県民が学び続けることのできる生涯学習プログラムを構築し、実施する。
4. 専門職者を対象とする研修会やリカレント教育を実施し、最新の知識や高度な技術を伝え、専門職者の力量アップを支援する。
5. 地域の教育機関や行政等との連携を図り、共同事業等を通じて、児童や生徒の学問に対する興味や関心を高めるための公開講座や出前講座等の学習支援活動を実施する。

＜事業実施状況＞

【履修証明プログラム】

平成26年度から「履修証明プログラム」を開始している。
昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、募集中止となった。

【高知県立大学県民開放授業】

県民開放授業は、平成14年度後期から、文化学部の公開講座の一つとして始まった。平成25年度には、地域教育研究センターが「AERU県民公開授業」を開始した。平成26年度からは、上記2つの事業を統合し、「高知県立大学県民開放授業」を実施している。
昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、募集中止となった。

【高大連携事業】

(1)小・中・高等学校への出前講座

学問に対する興味・関心を高め、大学で学ぶことの魅力や楽しさについて知っていただくことを目的に、高知県内の小・中・高等学校の児童、生徒を対象に、出前講座を実施し ている。

延べ受講者数:927人

No.	学校名	実施日	対象者	講師名		テーマ	受講者数
1	馬路中学校	令和3年6月1日	全学年	文化学部	宇都宮 千穂 准教授	地域づくりを考える	12
2	大川中学校	令和3年7月8日	中学3年	健康栄養学部	小林 淳 教授	飲み水の作り方	5
3	大川中学校	令和3年7月9日	中学3年	健康栄養学部	廣内 智子 講師	巨大地震に備え今すべき食料備蓄	5
4	馬路中学校	令和3年7月12日	全学年	文化学部	高西 成介 教授	漢字のしくみ・おもしろさ	12
5	高知北高等学校	令和3年7月14日	高校2年生	地域教育研究センター	石山 貴章 教授	心理学ワールド	60
6	大川小中学校	令和3年9月24日	小学6年～中学3年	社会福祉学部	雑賀 正彦 助教	地域福祉とは:人と人がつながる大切さ	5

No.	学校名	実施日	対象者	講師名		テーマ	受講者数
7	土佐女子中学校	令和3年10月6日	中学2年	看護学部	大川 宣容 教授	看護の仕事	264
				地域教育研究センター	鈴木 康郎 教授	教師になるには	
8	安芸高等学校	令和3年10月20日	高校1・2年	文化学部	宇都宮 千穂 准教授	文化学部でできることって何？	148
				看護学部	川上 理子 准教授	大学で看護を学ぶ意味	
				社会福祉学部	遠山 真世 准教授	「障害」を知れば社会が変わる	
				健康栄養学部	竹井 悠一郎 講師	健康と栄養、そして栄養学研究について	
9	高知学芸中学・高等学校	令和3年10月22日	中学3年・高校1年	看護学部	藤田 佐和 教授	看護を学ぶということ／看護の仕事	38
10	介良中学校	令和3年10月27日	中学3年	健康栄養学部	廣内 智子 講師	栄養バランスを考えた成長期の食糧備蓄	105
11	宿毛高等学校	令和3年11月5日	高校2年	看護学部	嶋岡 暢希 准教授	ようこそ！看護の世界へ	35
12	佐川高等学校（定時制）	令和3年11月10日	定時制全生徒・一般参加	文化学部	橋尾 直和 教授	若者語と土佐ことば	48
13	山田高等学校	令和3年11月24日	高校2年	文化学部	梶原 太一 准教授	観光土産商品の機能～おみやげという文化を考える～	39
				看護学部	坂元 綾 助教	安楽をもたらす援助	
14	高知国際中学校	令和3年11月24日	全学年・保護者	文化学部	白岩 英樹 准教授	「自分自身」の探し方	83
15	高知北高等学校	令和3年12月8日	高校2年	社会福祉学部	玉利 麻紀 助教	ストレスとつきあうコツ	60
16	窪川高等学校	令和3年12月21日	高校1・2生	文化学部	金澤 俊吾 准教授	ことばの楽しさ、面白さ―日本語から見た英語、英語から見た日本語―	8

(2)高校生のための公開講座

高校生が、大学の教育・研究に触れ、学問に対する興味・関心を深め、学びの楽しさについて知っていただくことを目的に実施している。

延べ受講者数:179人

	実施日	テーマ	講師名	受講者数
県大立志塾2021	令和3年6月19日	高知県の地域課題をどう認識するか	地域教育研究センター 清原 泰治 教授	55
	令和3年9月19日	今から始める社会貢献活動の第一歩	文化学部 梶原 太一 准教授	61
	令和3年12月18日	発災目前！？そのとき何をすべきか	地域教育研究センター 一色 健司 教授	11
	令和4年2月12日	高知県:日本一の健康長寿県構想実現の課題～在宅療養体制の充実に焦点をあてて～	看護学部 川上 理子 准教授	52

【地域教育研究センター主催公開講座】

「知の拠点」として、県民を対象とした公開講座を随時開催している。YouTubeを利用したオンラインで開催した。

延べ受講者数:417人

テーマ		講師名	実施日	受講者数
豊かな暮らしにつながる学び	①末期でない人物の安楽死とヨーロッパ人権裁判所	文化学部 田中 康代 講師	令和3年7月20日-7月26日	32
	②足のケアで豊かな生活を－今知ってほしい足の手入れの話－	看護学部 坂元 綾 助教	令和3年7月27日-8月2日	33
	③栄養素をバランスよく摂ることの意義	健康栄養学部 鈴木 麻希子 准教授	令和3年8月3日-8月9日	39
	④判断能力が低下してきた時に利用できる制度や支援 －成年後見制度や権利擁護の紹介－	社会福祉学部 西内 章 教授	令和3年8月10日-8月16日	36
	⑤災害後の文学者たち-関東大震災を中心に-	文化学部 田中 裕也 准教授	令和4年2月1日-2月7日	63
	⑥地域で子どもを守っていくために ～子どもの困難さと子どもを守る 地域の資源～	社会福祉学部 加藤 由衣 講師	令和4年2月8日-2月14日	64
	⑦健康長寿を支える、ロコモティブシンドローム予防の骨(コツ) ～栄養と運動からのアプローチ～	健康栄養学部 竹井 悠一郎 講師	令和4年2月15日-2月21日	67
	⑧住み慣れた場所で暮らし続けるためには	看護学部 竹中 英利子 助教	令和4年2月22日-2月28日	83

【第38回「本山町・高知県立大学公開講座」協定書に基づく公開講座】

本山町と本学で公開講座協定書を締結し9回の公開講座を行った。6講座以上受講した方に、修了証書を発行した。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、7回目の講座は中止となった。

延べ受講者数:104人(第7回講座除く)

No.	公開講座「夜學」講座内容	講師名	実施日	受講者数
1	われわれはなぜ「読む」のか、「学ぶ」のか？	文化学部 白岩 英樹 准教授	令和3年5月17日	18
2	異文化理解の面白さ	文化学部 飯高 伸五 准教授	令和3年6月11日	19
3	おうちで健康長寿！	健康長寿センター 乾 由美 入退院支援事業専任コーディネーター	令和3年6月30日	8
4	セルフケア	看護学部 高橋 真紀子 助教	令和3年7月20日	13
5	コミュニケーション技術:「聞く力」を伸ばす	社会福祉学部 三好 弥生 准教授	令和3年10月28日	10
6	人と人がつながる仕組みについて －防災などの事例から－	社会福祉学部 雑賀 正彦 助教	令和3年9月27日	6
7	(開催中止)	(開催中止)	(開催中止)	-
8	地域をいきいき！元気にするために	健康栄養学部 島田 郁子 講師	令和3年10月22日	11
9	海洋プラスチックゴミはどこへ？	地域教育研究センター 一色 健司 教授	令和3年11月16日	9
10	あなたの地域を元気にするためのまちづくり	地域教育研究センター 清原 泰治 教授	令和3年12月7日	10

【安芸市シルバー短期大学】

安芸市と本学との包括連携協定に基づく連携事業の一つとして、安芸市社会福祉協議会が開催している「安芸シルバー短期大学」に本学教員が講師として登壇した。

No.	テーマ	講師名	実施日
1	生涯学び続けることの意義	地域教育研究センター 清原 泰治 教授	令和3年5月28日
2	土佐ことば再発見！！－過去から未来へ-	文化学部 橋尾 直和 教授	令和3年6月25日
3	最後まで住み慣れた地域で暮らすために	看護学部 森下 安子 教授	令和3年11月26日
4	（開催中止） 生産量日本一の県民として知りたいしょうがのこと	健康栄養学部 渡邊 浩幸 教授	（開催中止）

【立志社中】

平成25年度から、地域の課題解決に主体的に取り組む学生を大学として支援する「立志社中」をスタートさせた。9年目となる令和3年度は、6件のプロジェクト、146人の学生が地域活動に参画した。

（1）令和3年度採択プロジェクト「立志社中」

No.	プロジェクト名	チーム名	交付額(利息含) ［執行額］
1	土佐の暮らしとことば再発見～中土佐町を中心に～	from ZERO	141,270円 ［131,000円］
2	～「学生」が変わる～、～「地域」が変わる～	かんきもん	86,280円 ［10,000円］
3	「みんなのたいこ岩」プロジェクト	活輝創生実行委員会	100,440円 ［66,330円］
4	健援隊　Cloverプロジェクト	健援隊　Clover	39,872円 ［25,553円］
5	国際交流×SDGs	グローバルクラブ	36,823円 ［0円］
6	住民と学生による持続可能な地域づくり	Pシスターズ	164,000円 ［10,556円］

(2)その他実施事業

No.	事業名	実施日	内容
1	プレゼンテーション及び審査会	令和3年5月23日	応募のあった6件のプロジェクトについて、プレゼンテーション及び審査会を実施し、採択プロジェクトを決定した。
2	第1回スキルアップセミナー 「未来につながる地域づくりを考える」 講師:東埼玉総合病院 コミュニティナース　秋元　里美 氏	令和3年9月24日	高知県立大学健康長寿センター主催の公開講座をスキルアップセミナーに位置づけ、学生が聴講した。地域づくり活動をされている講師に取り組みの内容をご紹介いただいた。
3	第2回スキルアップセミナー 「つぶやきの育て方」 講師:株式会社 わらびの 代表取締役 畠中 智子 氏	令和4年1月14日	13人の学生が参加し、「つぶやきの育てかた」をテーマに、地域の方々とのコミュニケーションを深める上で必要な「作法・手法」などをワークを交えながら学んだ。
4	活動成果報告会	令和4年3月6日	各プロジェクトの活動を報告・評価し、成果や課題を共有することを目的として開催した。

【令和3年度全国公立大学学生大会 LINKtopos2021への参加】

9回目を迎えるLINKtoposは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から昨年度に引き続きオンラインでの開催となった。全国22の公立大学から92人の学生、40人の教職員が参加し、本学からは立志社中に所属している1人の学生が運営に携わり、全国の公立大学の学生と交流した。公立大学学生ネットワークの発足のきっかけとなった東日本大震災から10年の節目であった本大会は、災害が起きる前に・災害が起きた時に自分たちに何ができるかということをテーマに実施された。

テーマ　：　「あれから、これから」
日　時　：　令和3年9月15日(水)10:00～18:00、16日(木)10:00～14:40
場　所　：　オンライン開催(運営拠点は岩手県立大学)

【コミュニティサービスラーニング(CSL)サポートデスク】

地域の抱える課題を認識し、課題解決への関心を高めた学生が、専門的な知識や技術など大学での学びの成果を活かして、域学共生の理念に基づき、ボランティア活動を行うコミュニティサービスラーニングを支援するための窓口として、平成28年5月から地域教育研究センターに設置している。

延べ参加者数:24人

No.	概要	団体名	件数	参加学生数
1	小津高校SSH事業課題研究TA	高知県立高知小津高等学校	1	中止
2	小・中学校での学習支援	津野町教育委員会(夏季・春季)	1	中止
3	小・中学校での学習支援	三原村教育委員会(夏季)	1	中止
4	中学校での学習支援	安芸市教育委員会(春季)	1	中止
5	小・中学校での学習支援	高知市教育委員会	1	24

【包括連携協定】

本協定は、各市町村や企業・NPO法人等の団体と本学が多様な分野で緊密な協力関係を築き、持続・発展的に連携を深めることにより、未来を担う人材の育成や活力ある地域社会の形成・発展に寄与することを目的とする。

協定締結団体との連携

No.	団体名	事業名	期間等	概要
1	津野町	学習支援ボランティアの派遣	令和3年8月23日-8月27日 令和3年8月30日-9月3日 令和4年2月2日-2月25日 令和4年2月28日-3月4日	津野町の小・中学校へ学習支援や学校支援業務への学生ボランティア募集、取りまとめと津野町との調整を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大により中止とした。
2	三原村	学習支援ボランティアの派遣	令和3年8月30日-9月3日	三原村の小・中学校への学習支援への学生ボランティア募集、取りまとめと三原村との調整を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大により中止とした。
3	安芸市	学習支援ボランティアの派遣	令和4年2月18日-3月1日	安芸市の中学校への学習支援への学生ボランティアの募集を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大により中止とした。

【協力団体との連携強化に向けた取り組み】

連携の強化に向けて、高知県や市町村、学生受入団体等との情報交換を定期的に行っている。

No.	会議名	実施日	概要	対象	出席者数
1	域学共生連連携拡大会議	令和3年8月31日	大学との連携事例を知っていただく機会として、全体報告会と「共生」「減災」「学び」の3つのテーマに分かれ、本学の教員9人による事例発表と併せて、参加者との情報共有や意見交換を行い、諸組織との連携推進に向けた協働体制の構築、強化に繋げた。	高知県及び県内市町村の一般の方	70
2	連携推進会議	令和3年11月25日	地域教育研究センター及び健康長寿センターと自治体との連携事例について当該連携団体と共に報告を行い、出席者との情報共有や意見交換を行った。	包括連携協定を締結している県内7市町村	24

VIII　健康長寿センター

健康長寿センターは、本学の学部が連携して、地域の人々の健康長寿の推進および健康長寿社会の構築に貢献する専門職者の最新の知識や技術の向上に努めることを目的として、平成22年4月に設置された。
センターは、平成30年度に改めて活動ポリシー(次表)をまとめ、5つの活動を行っている。

【活動状況】

活動ポリシー	内　　容	回数	実施時期	参加数（人）	対象者・参加者
Ⅰ 高知県民の皆様に対し健康長寿を啓発する活動（域学共生）	おうちで健康長寿体験型セミナー Presented by 高知県立大学健康長寿センター ①「転倒予防体操」 第7回：（運動）足元体操　ボール体操編 第8回：（運動）足元体操　かんたん体操　総集編	2	令和3年12月23日から、高知県立大学健康長寿センターYouTubeチャンネルで、全8回シリーズとして随時配信（第1回～第6回は前年度に公開）	542 （3/31時点）	在宅高齢者、一般県民、医療・介護・福祉従事者
	おうちで健康長寿体験型セミナー Presented by 高知県立大学健康長寿センター ②「高知家、認知症とのつき合い方」 第1回：（講義）土佐ことばで脳トレ！！お家で健康長寿 第2回：（講義）認知症を理解しよう～私って認知症？～	2	令和3年9月8日から、高知県立大学健康長寿センターYouTubeチャンネルで、全2回シリーズとして随時配信	505 （3/31時点）	在宅高齢者、一般県民、医療・介護・福祉従事者
	令和3年度高知県立大学健康長寿センター公開講座 「未来につながる地域づくりを考える」	1	令和3年9月24日ライブ配信 令和3年10月1日－令和3年11月30日YouTube配信	156 （3/3時点）	「地域づくり」に新しい視点を求めている人（行政、病院、住民、学生）
	おうちで健康長寿体験型セミナー 「高知家、認知症とのつき合い方」リーフレットの作成				一般県民
	土佐市連携事業 「とさっ子健診プロジェクト　アンケート分析」		通年		
	土佐市連携事業 「土佐市地域ケア会議推進プロジェクト」	8	通年		土佐市地域包括支援センター
	土佐市連携事業 「子育て支援事業　土佐市両親学級」	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、本学からの参加中止			
	「第13回みさとフェア」への参画	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、今年度の開催中止			
	健康長寿文庫（令和3年度119冊収蔵）		通年		一般県民
Ⅱ 高知県の医療・健康・福祉政策課題を解決する活動	高知県中山間地域等訪問看護師育成講座 ～令和3年度訪問看護スタートアップ研修～		通年	17	訪問看護ステーションに勤務する新任・新卒訪問看護師及び病院などに勤務する看護師
	高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	4	令和3年7月29日－30日 令和3年10月23日－24日 令和3年12月18日－19日 令和4年2月12日－13日	24	介護福祉士、介護職員、特別支援学校教員、保育士等、特定の者に対してたんの吸引等の行為を行う必要がある者
	入退院支援事業	13	通年	954	県内病院・施設・福祉保健所・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所等

活動ポリシー	内　　容	回数	実施時期	参加数（人）	対象者・参加者
Ⅱ 高知県の医療・健康・福祉政策課題を解決する活動	高知県キャリア教育推進事業 集合型研修　福祉で未来を探求！高校生のためのWeb EVENT ①～社会福祉の事を分かりやすく学べます～	1	令和3年7月25日	160	高校生と保護者
	高知県キャリア教育推進事業 集合型研修　福祉で未来を探求！高校生のためのWeb EVENT ②～卒業生の働く現場からLIVE配信～	1	令和3年9月26日	94	高校生と保護者
	高知県キャリア教育推進事業 集合型研修　福祉で未来を探求！高校生のためのWeb EVENT ③～アカデミックに福祉介護を探求する～	1	令和3年11月7日	97	高校生と保護者
	高知県キャリア教育推進事業 集合型研修　福祉で未来を探求！高校生のためのWeb EVENT ④～認知症を地域で支える～	1	令和4年3月23日	56	高校生と保護者
	高知県キャリア教育推進事業　訪問型講座	10	令和3年9月13日 令和3年9月15日 令和3年9月17日 令和3年9月24日(2校) 令和3年9月27日 令和3年9月29日 令和3年10月8日 令和3年10月11日 令和3年10月26日	233	高校生・高校教員
	糖尿病保健指導連携体制構築事業		通年	590	モデル基幹病院の看護師
Ⅲ 高知医療センターとの包括的連携を推進する活動	高知医療センター地域医療連携研修会の合同開催 「超高齢社会における医療介護連携について」 ～家族で考える将来の高齢者医療とケア～	1	令和4年2月20日	75	高知県内外の皆様
	「あいうえお塩分表」の改定及び「減塩生活ガイドブック」の減塩指導媒体表の作成				高知医療センターの患者様、地域住民、健康栄養学部生
	医療コンフリクト・マネジメント研修	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、今年度の開催中止			
	子育て支援事業 「赤ちゃん同窓会」	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、今年度の開催中止			
	教員による若手看護師のキャリア・サポート 「専門職としてのキャリア・デザイン」	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、今年度の開催中止			
	病院前妊産婦救護に関するシミュレーションコース BLSO in 高知	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、今年度の開催中止			
	慢性疾患を有する患者対象の料理教室	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、今年度の開催中止			

活動ポリシー	内　　容		回数	実施時期	参加数（人）	対象者・参加者
Ⅳ 高知県内の医療・健康・福祉専門職者のスキルアップに資する活動	リカレント教育講座　社会福祉学部　リカレント教育講座 「－ ようこそ！知のフィールドへ －」 ①「地方における貧困問題と地域共生社会」		1	令和3年11月1日－	643	保健・医療・福祉従事者・一般県民
	リカレント教育講座　社会福祉学部　リカレント教育講座 「－ ようこそ！知のフィールドへ －」 ②「多様な性の理解とSOGI／LGBTQをめぐる人権課題」		1	令和3年11月15日－	389 (3/3時点)	保健・医療・福祉従事者・一般県民
	リカレント教育講座　社会福祉学部　リカレント教育講座 「－ ようこそ！知のフィールドへ －」 ③「保護者の「語り」と児童虐待の予防」		1	令和3年11月29日－	283 (3/3時点)	保健・医療・福祉従事者・一般県民
	リカレント教育講座　看護相談室（リカレント教育等）の広報活動		1	令和3年5月21日－		高知県内の看護職
	リカレント教育講座　精神看護リカレント教育（高知県西部地区精神科看護研修会）テーマ「依存症の理解とコロナ禍における支援」		1	令和3年9月25日	42	高知県西部地区の精神科医療従事者
	高知県新任期保健師研修会	第1回プリセプター能力育成研修	1	令和3年4月27日	273	高知県・県内市町村に所属する1～4年目の保健師
		1年目研修	2	令和3年8月3日 令和3年11月5日		
		2年目研修	2	令和3年6月11日 令和3年12月16日		
		3年目研修	2	令和3年7月29日 令和3年12月14日		
		4年目研修	2	令和3年6月18日 令和4年2月10日		
		第2回プリセプター能力育成研修	1	令和4年3月		
	新任期行政栄養士研修会		2	令和3年8月13日 令和3年12月7日	7	高知県・県内市町村に所属する1年目並びに2年目の管理栄養士
	第1回看護学部公開講座 フィジカルアセスメント研修		1	令和3年9月23日 Zoom（遠隔）開催	13	県内の卒後5年目までであるいはフィジカルアセスメントに自信がない看護師
	第2回看護学部公開講座 地域減災拠点事業 「医療・介護施設におけるBCP策定に関する研修会」		1	令和4年2月23日 オンライン開催	18	医療・介護施設、訪問看護ステーション管理職、当該施設で勤務する看護職等
	新任期保健師採血技術向上研修		1	令和3年4月21日	16	今後採決業務を担当することになる福祉保健所保健師

活動ポリシー	内　　容	回数	実施時期	参加数（人）	対象者・参加者
V 高知県の健康長寿を研究する活動	研究から得られた知見を高知県内に発信する 「2019年度高知県内における褥瘡を保有する在宅療養者の実態調査」				
	地域ケア会議　コンサルテーション事業		通年	150	市町村の介護保険担当課、地域包括支援センター、地域ケア会議に参加するアドバイザー及び参加者
	健康長寿研究のためのロジスティクス		令和3年4月1日－令和4年3月31日		健康栄養学部及び看護学部

IX　健康管理センター

【健康管理センター利用状況】

（単位：件、人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
池キャンパス	内　科	5	3	7	9	4	1	2	7	3	6	5	0	52
	外　科	4	3	9	7	2	2	4	4	4	2	2	1	44
	婦人科	0	1	10	1	0	0	0	4	0	1	0	0	17
	メンタルヘルス	19	24	37	34	13	11	31	67	59	23	18	13	349
	健診フォロー	24	35	54	54	3	6	6	9	1	0	0	0	192
	その他	39	40	85	96	42	17	102	124	43	123	65	83	859
	合 計 件 数	91	106	202	201	64	37	145	215	110	155	90	97	1,513
	合 計 人 数	81	100	184	190	52	36	136	188	96	147	85	93	1,388
永国寺キャンパス	内　科	2	0	4	2	4	0	5	2	3	2	0	1	25
	外　科	2	2	2	0	1	0	5	0	4	1	3	1	21
	婦人科	0	6	11	4	2	0	3	1	0	0	0	0	27
	メンタルヘルス	12	22	44	62	19	27	37	29	27	21	39	22	361
	健診フォロー	29	62	113	66	5	0	2	0	0	0	0	0	277
	その他	121	114	243	237	57	29	81	112	29	88	68	20	1,199
	合 計 件 数	166	206	417	371	88	56	133	144	63	112	110	44	1,910
	合 計 人 数	150	187	367	324	77	48	115	125	63	102	85	39	1,682
総計	合 計 件 数	257	312	619	572	152	93	278	359	173	267	200	141	3,423
	合 計 人 数	231	287	551	514	129	84	251	313	159	249	170	132	3,070

【精神科医師によるメンタルヘルス相談】

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
池キャンパス	4	4	2					2	2	2	1	3	20
永国寺キャンパス	1	1	1	3		1	1	2	2	2	2		16
合 計 件 数	5	5	3	3		1	1	4	4	4	3	3	36

【カウンセラーによるメンタルヘルス相談】

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
池キャンパス	2	2	9	5	2	1	3	4	4		1	1	34
永国寺キャンパス	1	2	6	3	2	2	4	7	4		5	4	40
合 計 件 数	3	4	15	8	4	3	7	11	8		6	5	74

【産婦人科医師及び助産師による婦人科相談】

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
池キャンパス		0	4					1					5
永国寺キャンパス		1	2					0	1				4
合 計 件 数		1	6					1	1				9

【定期健康診断】

①実施内容一覧

月日	4月4日（日）	月日	4月11日（日）
場所 （時間）	池キャンパス （8時50分 ～16時30分）	場所 （時間）	永国寺キャンパス （8時50分 ～16時30分）
対象者	看護学部2、4回生 社会福祉学部2、4回生 健康栄養学部2、4回生 研究科（希望者）	対象者	文化学部2、3、4回生 人間生活学研究科（希望者）
健診項目	胸部レントゲン撮影 検尿 身体計測 医師の診察 ＜感染症血液検査：一部学生＞ ※B型肝炎抗体検査 看護学部2回生の一部学生 健康栄養学部4回生の一部学生	健診項目	胸部レントゲン撮影 検尿 身体計測 医師の診察 ＜感染症血液検査：一部学生＞ ※4種感染症抗体検査 文化学部3回生の一部学生
月日	4月5日（月）	月日	4月25日（日）
場所 （時間）	池キャンパス （8時50分～12時30分）	場所 （時間）	永国寺キャンパス （8時50分～16時30分）
対象者	看護学部3回生 社会福祉学部3回生 健康栄養学部3回生 研究科(希望者)	対象者	看護学部1回生 社会福祉学部1回生 健康栄養学部1回生 文化学部1回生・3年次編入生 研究科1回生（希望者）
健診項目	胸部レントゲン撮影 検尿 身体計測 医師の診察 ＜感染症血液検査：一部学生＞ ※B型肝炎抗体検査 看護学部3回生の一部学生 健康栄養学部3回生の一部学生	健診項目	胸部レントゲン撮影 検尿 身体計測 医師の診察 ＜感染症血液検査＞ ※B型肝炎抗原抗体検査・4種感染症抗体検査 看護学部1回生 社会福祉学部1回生 健康栄養学部1回生 看護学研究科1回生(希望者)

※印の内容は、施設実習のために必要な項目であり、定期健康診断時に併せて実施した。

4種感染症：麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎

特記：上記実施日に健康診断できなかった学生に対しては、委託施設にて個別に受診した。

②学年・学科別学部生　健康診断受診状況

学年	学　科	対象者数	胸部間接撮影		内科診察		尿検査	
			受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)
1	文化(昼)	128	126	98.4%	126	98.4%	126	98.4%
	文化(夜)	22	22	100.0%	22	100.0%	22	100.0%
	看　護	85	85	100.0%	85	100.0%	85	100.0%
	社会福祉	74	73	98.6%	73	98.6%	73	98.6%
	健康栄養	43	43	100.0%	43	100.0%	43	100.0%
2	文化(昼)	124	122	98.4%	122	98.4%	122	98.4%
	文化(夜)	31	28	90.3%	28	90.3%	28	90.3%
	看　護	83	83	100.0%	83	100.0%	83	100.0%
	社会福祉	78	78	100.0%	78	100.0%	78	100.0%
	健康栄養	40	40	100.0%	40	100.0%	40	100.0%
3	文化(昼)	118	112	94.9%	112	94.9%	112	94.9%
	文化(夜)	28	23	82.1%	23	82.1%	23	82.1%
	看　護	80	80	100.0%	80	100.0%	80	100.0%
	社会福祉	74	73	98.6%	73	98.6%	73	98.6%
	健康栄養	43	43	100.0%	43	100.0%	43	100.0%
4	文化(昼)	152	147	96.7%	147	96.7%	146	96.1%
	文化(夜)	35	21	60.0%	21	60.0%	21	60.0%
	看　護	84	84	100.0%	84	100.0%	84	100.0%
	社会福祉	76	74	97.4%	74	97.4%	74	97.4%
	健康栄養	41	41	100.0%	41	100.0%	41	100.0%
合　計		1,439	1,398	97.2%	1,398	97.2%	1,397	97.1%
前年度		1,417	1,352	95.4%	1,356	95.7%	1,356	95.7%

※受検率は、在籍数から休学者・留学中・中途退学者および健診免除者を除いた人数(対象者)を分母としたものである。

※3か月以内に医療機関等で胸部レントゲン撮影をしている学生は、撮影済みとみなした。

③大学院生　健康診断受診状況

学年	研究科		対象者数	胸部間接撮影		内科診察		尿検査	
				受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)
1	看護学		13	13	100.0%	13	100.0%	13	100.0%
	(再掲)	前期課程	13	13	100.0%	13	100.0%	13	100.0%
		後期課程	0	0					
	人間生活学		6	3	50.0%	3	50.0%	3	50.0%
	(再掲)	前期課程	4	3	75.0%	3	75.0%	3	75.0%
		後期課程	2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2	看護学		13	11	84.6%	11	84.6%	11	84.6%
	(再掲)	前期課程	12	11	91.7%	11	91.7%	11	91.7%
		後期課程	1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	人間生活学		10	6	60.0%	7	70.0%	7	70.0%
	(再掲)	前期課程	8	6	75.0%	6	75.0%	6	75.0%
		後期課程	2	0	0.0%	1	50.0%	1	50.0%
3	看護学		2	2	100.0%	2	100.0%	2	100.0%
	(再掲)	後期課程	1	1	100.0%	1	100.0%	1	100.0%
		DNGL	1	1	100.0%	1	100.0%	1	100.0%
4以上	看護学		6	3	50.0%	3	50.0%	3	50.0%
	(再掲)	後期課程	2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		DNGL	4	3	75.0%	3	75.0%	3	75.0%
合　計			50	38	76.0%	39	78.0%	39	78.0%
前年度			48	43	89.6%	43	89.6%	43	89.6%

※受検率は、在籍数から休学者および健診免除者を除いた人数(対象者)を分母としたものである。

※3か月以内に医療機関等で胸部レントゲン撮影をしている学生は、撮影済みとみなした。

【学生精神的健康調査（UPI調査）】

・対　象　者：全学部生（文化学部編入生を含む）　但し、休学中の学生及び科目履修生、外国人留学生(1年未満)、特別聴講学生、委託生、留学中の学生は除く。

・調査期間：令和3年4月4日（日）～令和3年7月末日

・実施方法：定期健康診断時に実施。
未受診者は、個別受診の説明時に健康管理センターで実施。

学部	学年	対象者数	実施数	実施率
看護学部	1	85	85	100.0%
	2	83	83	100.0%
	3	80	80	100.0%
	4	84	84	100.0%
社会福祉学科部	1	74	73	98.6%
	2	78	78	100.0%
	3	74	73	98.6%
	4	76	74	97.4%
健康栄養学部	1	43	43	100.0%
	2	40	40	100.0%
	3	43	43	100.0%
	4	41	41	100.0%
池キャンパス小計		801	797	99.5%
文化学部	1	128	126	98.4%
	2	124	122	98.4%
	3	118	112	94.9%
	4	152	147	96.7%
文化学部（夜間主）	1	22	22	100.0%
	2	31	28	90.3%
	3	28	23	82.1%
	4	35	21	60.0%
永国寺キャンパス小計		638	601	94.2%
合計		1,439	1,398	97.2%

X　国際交流

1　正規学生（留学生）数の推移

区分	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)
大学院	3	6	7	5	7
学部	10	9	9	9	12
計	13	15	16	14	19

2　協定校数の推移

年	2017 (H29)	2018 (H30)	2109 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)
協定校数	12	14	16	15	16

3　協定校一覧

大学名	国名	締結年月
ゲント大学	ベルギー	2021年10月
慶尚國立大学校（旧慶南科学技術大学校）	韓国	2021年 6月
開南大學	台湾	2019年12月
弘光科技大學	台湾	2019年 4月
ワシントン大学継続教育部	アメリカ	2018年10月
インドネシア大学	インドネシア	2018年 9月
アンダラス大学	インドネシア	2017年 2月
ウボンラーチャタニ大学	タイ	2016年12月
木浦大學校	韓国	2016年10月
ガジャマダ大学	インドネシア	2013年11月
サバ大学	マレーシア	2012年11月
カリフォルニア大学サンフランシスコ校	アメリカ	2012年 3月
ヴェネチア　カ・フォスカリ大学	イタリア	2011年12月
文藻外語大學	台湾	2007年 1月
北京聯合大学旅游学院	中国	2006年11月
エルムズカレッジ	アメリカ	1998年10月

4　協定大学への派遣実績

協定大学	2018（平成30）年度			2019（令和元）年度			2020（令和2）年度			2021（令和3）年度		
	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員
エルムズカレッジ	15	2	3	8	0	1	0	0	0	0	0	0
北京聯合大学旅游学院	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
文藻外語大學	4	2	1	6	2	1	0	0	0	0	1	0
ヴェネチア　カ・フォスカリ大学	3	0	1	6	0	1	0	0	0	0	0	0
ガジャマダ大学	5	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
インドネシア大学	5	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サバ大学	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
慶尚国立大學校	3	0	1	2	2	1	0	0	0	0	1	0
木浦大學校	0	1	2	7	2	1	0	0	0	0	0	0
弘光科技大學				2	0	1	0	0	0	0	0	0
アンダラス大学	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
ウボンラーチャタニ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	37	7	13	31	8	7	0	0	0	0	2	0

5 協定大学からの受入実績

協定大学	2018(平成30)年度			2019(令和元)年度			2020(令和2)年度			2021(令和3)年度		
	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員
エルムズカレッジ				9	0	2	0	0	0	0	0	0
北京聯合大学旅游学院	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
文藻外語大學	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0
ヴェネチア　カ・フォスカリ大学	9	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0
ガジャマダ大学	0	0	0	8	0	1	0	0	0	0	0	0
インドネシア大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サバ大学	5	0	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0
慶尚国立大學校	14	1	4	15	1	2	0	0	0	0	0	0
木浦大學校	0	0	0	10	0	1	0	0	0	0	0	0
弘光科技大學				17	0	2	0	0	0	0	0	0
アンダラス大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	28	5	5	75	5	8	0	0	0	0	1	0

6 外国人学生に対するプログラム

(1)協定校からの受入

プログラム名	対象大学	受入数(人)
実績なし		

(2)協定校以外からの受入

事業名	機関	実施期間	受入数(人)
実績なし			

7 海外機関との共同研究・教育事業支援

講義名	主催者	実施日	対象者	参加数(人)
国際学術交流1 台湾　弘光科技大學「サマープログラム」 オンライン	弘光科技大學	令和3年8月2日- 令和3年8月13日	協定締結校在籍の学生	7
国際学術交流2 イタリア　ヴェネツィア　カ・フォスカリ大学 「バーチャル留学プロジェクト2」 オンライン	ヴェネツィア　カ・フォスカリ大学	令和3年10月1日- 令和3年11月30日	協定締結校在籍の学生	6
国際学術交流3 台湾　弘光科技大學との「オンライン交流会～多文化共生について～」	高知県立大学国際交流センター	令和3年10月21日	弘光科技大學の学生	9
			高知県立大学の学生	11
国際学術交流4 韓国　慶尚国立大學校との「オンライン交流会～多文化共生について～」	高知県立大学国際交流センター	令和3年11月22日	慶尚国立大學校の学生	9
			高知県立大学の学生	8

8 外国人留学生を対象とした交流活動

活動名	実施日	参加者
高知工科大学、高知県立大学 「バスツアー」	令和3年11月27日	行　先:土佐の高知のくだもの畑、高知県立歴史民俗資料館 参加者:高知工科大学(留学生4名、日本人学生9名、外国人教職員4名) 高知県立大学(留学生4名、日本人学生4名、教職員2名)
高知県立山田高等学校 グローバル探究科とのオンライン交流会	令和4年3月14日	山田高等学校グローバル探究科16名、本学留学生3名(正規留学生2名(韓国1，台湾1)、ダブルディグリー学生1名(台湾)

９ 地域連携活動

講義名	実施日	概要
2021年度 高知地域留学生交流推進会議研修会	令和4年1月31日	研修テーマ「コロナ禍での国際交流の諸課題について」 担当機関：高知工科大学教務部国際交流課 参加機関：高知大学国際交流室、高知工科大学国際交流課、高知工業高等専門学校、高知市総務課、高知県国際交流協会、龍馬学園、香美市国際交流協会、高知県経営者協会、ソロプチミスト高知（計20名）

XI　開かれた大学

1　公開講座等実施状況

○公開講座等

区　分	内　　容	回数	実施時期	参加数（人）	対象者
文化学部	WEBオープンキャンパス 学部別プログラム「レポートの書き方講座」	1	令和3年8月1日	15	高校生
	WEBオープンキャンパス 学部別プログラム「先輩と話そう！」	2	令和3年8月1日	7	高校生
	WEBオープンキャンパス「動画で体験、文化学部！」講義（オンライン開催）「社会貢献活動を支える寄附と税金のしくみ」	1	令和3年7月10日	－	高校生
看護学部	高校生のための看護学を学ぶ公開講座 「相手を理解する力」	1	令和3年7月30日	20	高校生
健康栄養学部	WEBオープンキャンパス　栄養学実験 「ビタミンCの酸化還元実験から栄養学に触れよう」	2	令和3年8月19日	39	高校生
	公開講座「災害時の栄養管理について」	1	令和3年8月31日	－	一般
	介護労働講習「生活支援技術・栄養と食事編」	1	令和3年9月21日	33	一般
	ケースメソッドを応用した演習のための教材集をもとに2ケースの事例検討	1	令和3年9月22日	20	一般
	ダイエット講座	1	令和3年11月18日	30	一般
	管理栄養士・栄養士が災害に向けて備えておくべきこと	1	令和4年1月9日	46	一般
	生涯大学 「災害に備えた非常食備蓄職の考え方」	1	令和4年3月11日	110	一般

○リカレント講座

区 分	内　　容	回数	実施時期	参加数（人）	対象者
学文部化	令和3年度教科等研修 なぜそこに人が住めなくなるのか～県境経済を考える～	1	令和3年8月6日	1	専門職者
看護学部	家族看護学領域　リカレント教育 第1回「コンサルテーションの技」 第2回 事例検討会 第3回「スタッフの機能を活かす関わり」 第4回「スタッフの機能を活かす関わり」 第5回「看護研究活動への支援」 第6回 事例検討会 第7回「家族看護を取り巻く社会の動向」	7	令和3年5月21日 令和3年6月18日 令和3年7月16日 令和3年10月15日 令和3年11月19日 令和3年12月17日 令和4年1月21日	75	専門職者
	クリティカルケア看護学領域　ケア検討会 第1回 「『鎮める力』難治性不整脈の事例検討」 第2回 「鎮める力」	2	令和3年6月5日 令和3年10月2日	7	専門職者
	クリティカルケア看護学領域　リカレント教育	2	令和3年7月22日 令和3年12月15日	16	専門職者
	地域看護学領域　ケア検討会	4	令和3年6月11日 令和3年8月3日 令和3年11月5日 令和3年12月16日	100	専門職者
	地域看護学領域　リカレント教育	4	令和3年6月18日 令和3年7月29日 令和3年12月14日 令和4年2月10日	57	専門職者
	看護管理学領域　ケア検討会 第1回 「管理者の支援とは」 第2回 「主任・副師長への関わり」	2	令和3年6月19日 令和3年10月8日	59	専門職者
	看護管理学領域　交流会	1	令和3年11月6日	8	専門職者
	看護管理学領域　交流会 「リフレクションできていますか？」	1	令和3年11月6日	8	専門職者
	精神看護学領域　ケア検討会 第1回「精神状態の査定を導入するプロセスと成果」 第2回「人との関わりや治療への拒否が強い小児の事例」 第3階「CNSの役割開発」	3	令和3年6月20日 令和3年9月16日 令和4年3月17日	47	専門職者
	精神看護学領域　リカレント 「依存症の理解とコロナ禍における支援」	1	令和3年9月25日	52	専門職者
	災害・国際看護学領域　ケア検討会 第1回 「コロナ禍における訪問看護の現状とBCP策定の課題」 「訪問看護ステーショ ンにおけるBCPについて」 第2回 「医療におけるBCP(事業継続計画)の策定」	2	令和3年6月24日 令和3年11月25日	40	専門職者
	母性・助産看護学領域　交流会	1	令和3年8月3日	7	専門職者
	母性・助産看護学領域　ケア検討会	1	令和3年11月5日	11	専門職者
	質の高いがん看護実践を検討する会(ケア検討会) 第1回 「がん患者の身体症状のマネジメントに困難を感じた事例」 第2回 「がん患者の精神症状やスピリチュアルな苦痛症状のマネジメントに困難を感じた事例」	2	令和3年8月28日 令和4年2月11日	31	専門職者
	在宅看護学領域　リカレント教育 修了生交流会	1	令和3年9月12日	12	専門職者
	在宅看護学領域　ケア検討会 慢性心不全をもつ療養者とその家族のエンドオブライフケア	1	令和3年11月18日	26	専門職者
健康栄養学部	教員免許状更新講習	1	令和3年8月3日	1	専門職者

2 学会役員等の状況

（1） 学会の理事・幹事

学 部	職 名	氏 名	学 会 名	理事・幹事の別
文化学部	教 授	五百藏 高浩	英語コーパス学会	幹事
			四国英語教育学会	理事、紀要編集委員、査読委員
			大学英語教育学会中四国支部	支部企画研究委員、査読委員
			The Korean Association of English for Specific Purposes	International Cooperation Director & Editor
	教 授	井上 次夫	日本語教育学会	審査・運営協力員
	教 授	橋尾 直和	流域圏学会	理事、編集・出版委員
			土佐民俗学会	常任理事
			物部庄谷相・拓の歴史と文化を考える会	副会長
			土佐歴史資料研究会	理事
			いざなぎ流と物部川流域の文化を考える会	理事
			土佐民俗文化研究会	世話人
	教 授	東原 伸明	中古文学会	年度委員
			学術団体物語研究会	委員
	教 授	三浦 要一	日本建築学会民家小委員会	主査
	准教授	飯髙 伸五	日本オセアニア学会	理事・評議員
	准教授	宇都宮 千穂	社会経済史学会中国四国部会	理事
	准教授	金澤 俊吾	英語コーパス学会	理事
			日本英文学会	編集委員会副委員長
			英語語法文法学会	大会運営委員、編集委員
			日本認知言語学会	大会査読委員
	准教授	梶原 太一	日本簿記学会	簿記教育研究部会委員
			日本会計教育学会	全国大会準備委員
			日本会計教育学会	スタディ・グループ委員
	准教授	菊池 直人	総合法政策研究会	副会長
			日本保険学会	関西部会幹事
	准教授	田中 裕也	日本近代文学会	関西支部運営委員
			昭和文学会	編集委員
	准教授	鳥飼 真人	英語英文学会片平会	事務局長
			日本ロレンス協会	評議員
			テクスト研究学会	編集委員
	准教授	根岸 忠	アジア法学会	理事、企画委員
			総合法政策研究会	副会長
	准教授	吉川 孝	日本現象学会	委員・企画実行委員長
			日本倫理学会	共通課題実施委員
			実存思想協会	幹事

学 部	職 名	氏 名	学 会 名	理事・幹事の別
看護学部	教 授	畦地 博子	日本精神保健看護学会	理事・代議員
			日本看護科学学会	代議員
	教 授	池添 志乃	日本養護教諭養成大学協議会	副会長
			日本学校保健学会	理事
			日本家族看護学会	評議員
			日本養護教諭教育学会	評議員
			中国・四国学校保健学会	理事
	教 授	池田 光徳	日本皮膚科学会高知地方会	幹事
	教 授	内田 雅子	日本慢性看護学会	評議員
	教 授	瓜生 浩子	日本看護科学学会	代議員
			日本家族看護学会	評議員
	教 授	大川 宣容	日本がん看護学会	代議員
			日本看護科学学会	代議員
			日本看護シミュレーションラーニング学会	理事
			第3回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会	会長
	教 授	久保田 聡美	日本禁煙学会	特任理事、資格制度委員会委員
			日本クリニカルパス学会	評議員、資格認定委員会副委員長、学術・出版委員
			日本看護科学学会	代議員
	教 授	田井 雅子	日本精神保健看護学会	代議員
	教 授	竹崎 久美子	日本老年看護学会	評議員
	教 授	長戸 和子	日本看護科学学会	代議員
			日本家族看護学会	理事
			日本看護倫理委員会学会	評議員
			高知県小児保健協会	理事
			高知県母性衛生学会	理事
	教 授	藤田 佐和	日本がん看護学会	理事
			日本緩和医療学会	代議員
			日本慢性看護学会	代議員
			日本看護科学学会	代議員
	教 授	森下 安子	日本在宅ケア学会	理事
	教 授	山田 覚	日本災害看護学会	理事・代議員
			日本看護科学学会	代議員
			日本医療・病院管理学会	評議員
			日本看護管理学会	評議員
	教 授	渡邊 聡子	日本災害看護学会	代議員
	特任教授	神原 咲子	日本災害看護学会	理事
			日本国際保健医療学会	代議員
	准教授	川上 理子	日本在宅ケア学会	代議員
	准教授	嶋岡 暢希	高知県母性衛生学会	理事
	講 師	有田 直子	日本小児看護学会	評議員
	助 教	田之頭 恵里	日本移植・再生医療看護学会	評議員

学 部	職 名	氏 名	学 会 名	理事・幹事の別
社会福祉学部	教 授	杉原 俊二	KJ法学会	運営委員・編集委員
			日本社会福祉学会	中国四国地域ブロック運営委員（研究担当） 所属学会等の編集協力（査読者）
			日本人間科学研究会	理事
	准教授	西梅 幸治	日本学校ソーシャルワーク学会	中国四国ブロック運営委員
	講 師	辻 真美	日本介護福祉学会	評議員
	助 教	雑賀 正彦	日本地域福祉学会	地方委員
	助 教	福田 敏秀	日本認知症予防学会	代議員
			日本認知症ケア学会	代議員
健康栄養学部	教 授	稲井 玲子	日本食育学術会議	理事長
			日本栄養改善学会	評議員
			日本機能性食品医用学会	評議員
			日本栄養・食糧学会	参与
	教 授	村上 尚	日本肥満学会	評議員
	教 授	渡邊 浩幸	日本栄養・食糧学会	代議員
			日本脂質栄養学会	評議員
	准教授	荒牧 礼子	日本未病学会	評議員
	准教授	鈴木 麻希子	日本栄養・食糧学会	参与
	講 師	竹井 悠一郎	日本栄養改善学会	評議員
			日本栄養・食糧学会	参与
	講 師	島田 郁子	日本家政学会中国・四国支部	常任幹事・機関幹事
地域教育研究センター	教 授	石山 貴章	日本職業リハビリテーション学会	理事
	教 授	一色 健司	日本分析化学会	常任幹事
			流域圏学会	理事・総務委員長
			高知地区分析技術懇談会	会長
	教 授	清原 泰治	日本スポーツ産業学会	スポーツ産業史専門分科会運営委員
	教 授	鈴木 康郎	日本比較教育学会	紀要編集委員会委員

（2） 教員が受託した審議会・委員会の委員等

学部	職　名	氏　名	審議会・委員会名等	発　令　者
文化学部	教　授	五百藏　高浩	国立大学教育研究評価委員会専門委員	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構長
			れんけいこうち広域都市圏ビジョン推進懇談会委員	高知市長
			マイプロジェクト発表会審査委員会委員	高知県立嶺北高等学校長
	教　授	岩倉　秀樹	高知県公文書開示審査会委員	高知県知事
			高知県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会委員	高知県後期高齢者医療広域連合長
			高知弁護士会懲戒委員会委員	高知弁護士会会長
	教　授	大井　方子	高知地方最低賃金審議会委員	高知労働局長
			高知県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会委員	高知職業能力開発促進センター所長
			高知県職業能力開発審議会委員	高知県商工労働部長
			高知県立高等技術学校広報委託業務プロポーザル審査委員	高知県商工労働部雇用労働政策課長
			高知地方労働審議会委員	高知労働局長
	教　授	大村　　誠	スーパーサイエンスハイスクール岡山県立津山高等学校運営指導委員会委員	岡山県教育委員会教育長
			令和3年度学校防災アドバイザー	高知県教育長
			寺田寅彦記念賞選考委員	高知県文教協会理事長
	教　授	高西　成介	大原富枝文学賞審査員	本山町立大原富枝文学館館長
			高知県出版文化賞選考委員	高知県文教協会理事長
	教　授	橋尾　直和	高知県民俗芸能緊急調査委員	高知県教育長
			高知市文化財保護審議会委員	高知市教育長
	教　授	三浦　要一	高知県史編さん編集委員会委員	高知県知事
			高知県史編さん文化財専門部会副会長	高知県知事
			高知県文化賞選定委員会委員	高知県知事
			高知県文化財保護審議会委員	高知県教育長
			高知県文化財専門委員	高知県教育長
			土佐遍路道・札所寺院保存検討委員会委員長	高知県教育長
			高知市文化財保護審議会副会長	高知市長
			重要文化財（建造物）旧関川家住宅保存活用計画策定委員会副委員長	高知市長
			史跡高松城跡整備会議委員	高松市教育委員会
			独立行政法人日本学術振興会審査委員候補者	独立行政法人日本学術振興会研究事業部研究助成第二課
			日本建築学会建築歴史・意匠委員会委員	日本建築学会建築歴史・意匠委員長
	教　授	ヨース・ヨエル	高知県英文公文書アドバイザー	高知県文化生活スポーツ部国際交流課長
	准教授	飯髙　伸五	国立民族学博物館共同研究員	国立民族学博物館長

学部	職　名	氏　　名	審議会・委員会名等	発　令　者
文化学部	准教授	宇都宮　千穂	高知市建築審査会委員	高知市長
			高知市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例 第8期見守り委員	高知市長
			高知市都市計画審議会委員	高知市長
			高知市住宅審議会委員	高知市長
			高知市立自由民権記念館協議会委員	高知市教育委員会高知市教育長
			高知市行政改革推進委員会委員	高知市長
	准教授	梶原　太一	高知県社会貢献活動支援推進会議委員	高知県文化生活スポーツ部長
			高知県ボランティア・NPOセンター運営委員会委員	高知県社会福祉協議会会長
			第三期高知市中心市街地活性化基本計画策定検討委員会委員	高知市長
			高知県公立大学生活協同組合監事	高知県公立大学生活協同組合
			こうち生活協同組合有識者監事	こうち生活協同組合
			高知市雇用創出促進協議会構成員	高知市雇用創出促進協議会長
			高知市民の大学運営委員	高知市民の大学運営委員会委員長
	准教授	菊池　直人	令和3年度高知県市町村等消費者行政推進事業費補助金 補助対象消費者団体等審査会審査委員	高知県文化生活スポーツ部 県民生活・男女共同参画課長
			こうち生活協同組合有識者理事	こうち生活協同組合
			高知県LPガスお客様相談所相談委員会議委員	高知県LPガス協会　会長
			高知県消費生活審議会委員	高知県知事
			高知県公文書管理委員会委員	高知県知事
			香美市情報公開審査会及び香美市個人情報保護審査会委員	香美市長
			高知市消費生活審議会委員	高知市長
			土佐市個人情報保護運営審議会会長	土佐市長
			高知県公文書開示審査会委員	高知県知事
	准教授	清水　直樹	特別研究員等審査会委員	独立行政法人日本学術振興会理事長
			自治紛争処理委員	高知県知事
	准教授	根岸　　忠	高知県地方裁判所簡易裁判所判事推薦委員会委員	高知地方裁判所　所長
			高知県個人情報保護審査会委員	高知県知事
			委嘱研究員	関西大学法学研究所　所長
	准教授	向井　真樹子	高知地方労働審議会臨時委員	高知労働局長
看護学部	教　授	畦地　博子	精神保健看護学会編集委員会委員長	日本精神保健看護学会理事長
			学術集会部会委員	日本精神科看護協会会長
			大学設置・学校法人審議会（大学設置分科会）専門委員	文部科学省高等教育局長
	教　授	池添　志乃	令和4年度（令和3年度実施）高知県公立学校教員採用候 補者選考審査第1次審査筆記審査問題研究員	高知県教育委員会事務局 教職員・福利課長
			令和4年度（令和3年度実施）高知県公立学校教員採用候 補者選考審査筆記審査問題調査研究員	高知県教育長
	教　授	池田　光徳	高知県地方薬事審議会委員	薬務衛生課
	教　授	瓜生　浩子	日本家族看護学会教育促進委員会委員	日本家族看護学会理事長

学部	職　名	氏　名	審議会・委員会名等	発　令　者
看護学部	教　授	木下　真里	令和3年度南海トラフ地震対策啓発推進事業委託業務プロポーザル審査委員	高知県危機管理部 南海トラフ地震対策課長
			令和3年度南海トラフ地震対策広報番組制作放送委託業務に関するプロポーザル審査委員会委員	高知県総務部広報公聴課長
			日本災害看護学会第24回年次大会企画委員	日本災害看護学会第24回年次大会大会長
	教　授	久保田　聡美	入院機能に応じた看護職員配置に関する調査検討委員会委員	日本看護協会会長
			高知県健康づくり推進協議会たばこ対策専門部会委員	高知県健康政策部健康長寿政策課長
			日本災害看護学会第24回年次大会企画委員	日本災害看護学会第24回年次大会大会長
	教　授	田井　雅子	日本精神保健看護学会編集委員会委員	日本精神保健看護学会理事長
	教　授	竹崎　久美子	令和3年度災害看護委員会委員	高知県看護協会会長
	教　授	長戸　和子	令和3年度新人看護職員研修検討会委員	高知県看護協会会長
			日本看護系大学協議会高度実践看護師教育課程認定委員(家族看護)	日本看護系大学協議会高度実践看護師教育課程認定委員会委員長
	教　授	中野　綾美	大学評価委員会大学評価第38分科会委員	大学基準協会会長
			基準委員会委員	大学基準協会会長
	教　授	藤田　佐和	2022年度日本看護系大学協議会　高度実践看護師教育課程認定委員会　がん看護専門分科会副委員長	日本看護系大学協議会高度実践看護師教育課程認定委員会委員長
			独立行政法人大学改革支援・学位授与機構大学機関別認証評価委員会専門委員	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構長
			中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム理事	会長・協議会議長
			高知県・高知市病院企業団高知医療センター 地域医療支援病院運営委員会委員	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター病院長
			高知県国民健康保険運営協議会委員	高知県健康政策部長
			高知県の看護を考える検討会委員	高知県知事
			高知県がん教育推進協議会委員	高知県教育委員会
			令和3年度高知県ナースセンター運営協議会委員	高知県看護協会会長
	教　授	森下　安子	高知市地域密着型サービスの運営に関する委員会委員	高知市長
			高知市地域包括支援センター運営協議会委員	高知市長
			令和3年度介護支援専門員更新（専門）研修【研修課程Ⅱ】事例予備選考会委員	高知県社会福祉協議会会長
			令和3年度高知県主任看護支援専門員研修における受講者選考のための評価委員会委員	高知県介護支援専門員連絡協議会会長
			高知県介護支援専門員研修等向上委員会委員	高知県子ども・福祉政策部高齢者福祉課長
			高知県訪問看護推進協議会委員	高知県健康政策部在宅療養推進課長
			令和3年度高知県看護協会第1副会長、地域包括ケア検討委員会、在宅領域看護師検討会委員	高知県看護協会会長
			高知県介護支援専門員研修等向上委員会委員	高知県子ども・福祉政策部高齢者福祉課長
			第1回日高村地域福祉計画策定委員会委員	日高村長
			日高村地域福祉計画・日高村地域福祉活動計画策定委員会委員	日高村長、日高村社会福祉協議会会長
			令和3年度高知県介護支援専門員実務研修の実習提出物審査会審査委員	高知県社会福祉協議会会長
	教　授	森本　悦子	令和3年度保健師助産師看護師実習指導者講習検討会委員	高知県看護協会会長

学部	職　名	氏　　名	審議会・委員会名等	発　令　者
看護学部	教　授	山田　　覚	令和3年度認定看護管理者教育運営委員会委員	高知県看護協会会長
			高知市防災会議幹事会委員	高知市長
			高知市防災会議委員	高知市長
			日本災害看護学会第24回年次大会企画委員	日本災害看護学会第24回年次大会大会長
	教　授	渡邊　聡子	日本災害看護学会第24回年次大会企画委員	日本災害看護学会第24回年次大会大会長
			日本災害看護学会　編集委員会委員	日本災害看護学会理事長
			高知県周産期医療関係者研修事業役員	高知医療センター
	准教授	川上　理子	「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業」ニーズ・シーズマッチング支援事業マッチングサポーター	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所情報未来イノベーション本部長
	准教授	嶋岡　暢希	令和3年度助産師職能委員会委員	高知県看護協会会長
	准教授	高谷　恭子	令和3年度高知県小児救急電話相談事業運営協議会委員	高知県看護協会会長
			日本小児看護学会倫理委員会委員	日本小児看護学会理事長理事長
	准教授	藤代　知美	日本精神保健看護学会災害対策委員	日本精神保健看護学会理事長
			日本精神保健看護学会編集委員会査読委員	日本精神保健看護学会理事長
	講　師	有田　直子	令和3年度高知市医療的ケア児及び重度の障害のある子どもの支援検討会委員	高知市長
			日本小児看護学会評議員	日本小児看護学会理事長
			高知市医療的ケア児および重度の障害のある子どもの支援検討会委員	高知市長
	講　師	小澤　若菜	高知産業保健総合支援センター産業保健相談員	高知産業保健総合支援センター所長
			保健事業支援・評価委員会委員	高知県国民健康保険団体連合会理事長
			令和3年度保健師職能委員会、ﾅｰｽｾﾝﾀｰ委員会、3職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会委員	高知県看護協会会長
	講　師	小原　弘子	日本災害看護学第24回年次大会企画委員	日本災害看護学会第24回年次大会大会長
			日本看護シミュレーションラーニング学会研修企画委員	日本看護シミュレーションラーニング学会理事長
	助　教	瀧　めぐみ	広報・情報委員会委員	日本精神保健看護学会理事長
	助　教	中井　美喜子	日本専門看護師協議会研修委員会中部・近畿・中国・四国地区ワーキング委員会委員	日本専門看護師協議会代表
	助　教	西内　舞里	令和3年度看護研究論理審査委員会委員	高知県看護協会会長
	特任助教	三浦　由紀子	令和3年度研究学会委員会、3職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会委員	高知県看護協会会長
			日本専門看護師協議会 会則委員会　委員	日本専門看護師協議会代表
	大学院特任教授	野嶋　佐由美	高知県防災会議委員	高知県知事
			高知県人権尊重の社会づくり協議会委員	高知県知事
社会福祉学部	教　授	杉原　俊二	令和3年度スクールソーシャルワーカー活用事業におけるスーパーバイザー	高知県教育長
			高知県社会福祉協議会	理事選考委員長（議長）
			高知市いじめ問題調査委員	高知市教育長

学部	職　名	氏　　名	審議会・委員会名等	発　令　者
社会福祉学部	教　授	田中　きよむ	高知市生活支援相談センター運営委員会委員	高知市社会福祉協議会会長
			高知県高次脳機能障害支援委員会委員	高知県子ども・福祉政策部長
			すずめ福祉会第三者委員	社会福祉法人すずめ福祉会 すずめ通所センター施設長
			「中山間地域における地域共生社会を見据えた地域包括ケアシステム深化に関する調査研究事業」委員会委員長	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所　代表取締役社長
			高知県運営適正化委員会委員	高知県社会福祉協議会会長
			高知県地域年金事業運営調整会議委員長	高知東年金事務所長
			高知県青年農業士認定委員会委員長	高知県農業振興部環境農業推進課長
			高知県弁護士会綱紀委員会委員、高知弁護士会資格審査会予備委員	高知弁護士会会長
			高知県介護ケア研究会会長	発令者なし （任意の会のため。代表は会員の互選）
			全国障害者問題研究会高知支部長	発令者なし （任意の会のため。代表は会員の互選）
			高知県社会保障推進協議会会長	発令者なし （任意の会のため。代表は会員の互選）
			高知県保育運動連絡会会長	発令者なし （任意の会のため。代表は会員の互選）
			「ホームレス支援と貧困問題を考えるこうちの会」代表	発令者なし （任意の会のため。代表は会員の互選）
			高知市社会福祉審議会委員長、同審議会民生委員審査専門分科会会長	高知市長
			高知市国民健康保険運営協議会委員	高知市長
			高知市福祉有償運送運営協議会委員	高知市長
			高知県内各市町村地域福祉（活動）計画アドバイザー	各市町村社会福祉協議会会長
			高知市生活困窮者支援運営委員会委員長、セーフティネット連絡会委員	高知市社会福祉協議会会長
			公益財団法人ひかり協会高知県地域救済対策（森永ヒ素ミルク中毒事件被害者救済対策）委員会委員長	ひかり協会
			高知県リハビリテーション研究会理事	高知県リハビリテーション研究会理事会
			高知県居住支援協議会会長	公益社団法人高知県宅地建物取引業協会
			NPO法人「福祉住環境ネットワークこうち」理事、NPO法人「未来予想図」副理事長、NPO法人「あさひ会」理事長、NPO法人「あまやどり高知」理事、社会福祉法人「さんかく広場」理事	各法人理事会
	教　授	長澤　紀美子	高知市人権尊重のまちづくり審議会委員	高知市長
			高知県DV被害者支援計画策定委員会委員	高知県子ども・福祉政策部長
			第11期高知地方労働審議会委員	高知労働局長
			高知県社会福祉審議会委員	高知県子ども・福祉政策部長
			高知県人権尊重の社会づくり協議会委員	高知県知事
			「求職開拓事業」に係る提案書技術審査委員会（委員長）	高知労働局長
			地域密着型サービス外部評価事業評価審査委員（委員長）	高知県社会福祉協議会

学部	職　名	氏　　名	審議会・委員会名等	発　令　者
社会福祉学部	教　授	西内　　章	これからあんしんサポート事業審査委員会委員長	高知市社会福祉協議会会長
			高知市成年後見サポートセンター運営委員会会長	高知市社会福祉協議会会長
			高知県スクールソーシャルワーカー活用事業 スーパーバイザー（高知県教育委員会）	高知県教育長
			高知県高齢者・障害者権利擁護センター運営協議会 副委員長	高知県社会福祉協議会会長
			高知県行政不服審査会委員	高知県知事
			高知市成年後見制度利用促進審議会会長	高知市長
			高知市高齢者虐待予防ネットワーク会議会長	高知市長
			高知市社会福祉協議会評議員	高知市社会福祉協議会会長
			津野町地域包括支援センター及び地域密着型サービス 運営協議会委員	津野町長
			津野町認知症初期集中支援チーム検討委員会委員	津野町長
	教　授	丸山　裕子	高知県スクールソーシャルワーカー活用事業 スーパーバイザー（高知県教育委員会）	高知県教育長
	教　授	宮上　多加子	高知県社会福祉協議会理事	高知県社会福祉協議会会長
			令和3年度高知県医療提供体制推進事業等評価委員会委員	高知県健康政策部医療政策課長
			日常生活自立支援事業契約締結審査会委員（委員長）	高知県社会福祉協議会会長
			高知県福祉活動支援基金運営委員会委員	高知県社会福祉協議会会長
			高知市民生委員推薦会委員	高知市長
			高知県社会福祉審議会	高知県知事
	准教授	大松　重宏	特定非営利活動法人がんサポートコミュニティ顧問	特定非営利活動法人がんサポート コミュニティ会長
			高知県医療ソーシャルワーカー協会理事	高知県医療ソーシャルワーカー協会会長
	准教授	遠山　真世	高知県障害者介護給付費等不服審査会委員	高知県地域福祉部長
			土佐あけぼの会評議員及び第三者委員	社会福祉法人土佐あけぼの会　理事長
	准教授	河内　康文	高知県福祉人材センター・高知県福祉研修センター 運営委員会副委員長	高知県社会福祉協議会会長
			高知県障害者施策推進協議会委員	高知県子ども・福祉政策部長
			高知県自立支援協議会専門部会長	高知県子ども・福祉政策部障害福祉課長
			高知県自立支援協議会委員	高知県子ども・福祉政策部長
			高知市障害者計画等推進協議会副会長	高知市長
			いの町社会福祉協議会成年後見運営委員	いの町社会福祉協議会会長
			南国市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク委員会委員	南国市長寿支援課長
	准教授	西梅　幸治	令和3年度スクールソーシャルワーカー活用事業における スーパーバイザー	高知県教育長
	准教授	福間　隆康	大阪障害者雇用支援ネットワーク地域連携事業部委員	大阪障害者雇用支援ネットワーク理事長
			一般社団法人四国ソーシャルインクルージョンセンター 協力委員	四国ソーシャルインクルージョンセンター 理事長
			南国市社会福祉協議会南国ネットワーク連絡会委員	南国市社会福祉協議会会長
			南国市社会福祉協議会あったかにんにん運営委員会委員	南国市社会福祉協議会会長
	講師	加藤　由衣	高知県社会福祉士会理事	高知県社会福祉士会会長

学部	職　名	氏　名	審議会・委員会名等	発　令　者
社会福祉学部	講師	辻　真美	介護労働安定センター高知、徳島支部　ヘルスカウンセラー、雇用管理改善サポーター、介護人材育成コンサルタント	介護労働安定センター支部所長
			高知県ホームヘルパー連絡協議会理事	高知県ホームヘルパー連絡協議会会長
			高知市斎場運営協議会委員	高知市長
	講　師	行貞　伸二	高知県共同募金会評議員	社会福祉法人高知県共同募金会会長
			高知県共同募金会配分委員会委員	社会福祉法人高知県共同募金会会長
			高知県営住宅入居者選考基準等審査委員会委員	高知県知事
	助　教	稲垣　佳代	就労・雇用支援の在り方検討委員会委員	日本精神保健福祉士協会会長
			高知県精神医療審査会委員	高知県地域福祉部長
	助　教	片岡　妙子	全国高校生介護福祉研究発表会四国地区予選審査員	全国福祉高等学校長会四国地区理事
			高知県若い世代の福祉・人材確保・育成検討委員会委員	高知県子ども・福祉政策部地域福祉政策課
	助　教	雑賀　正彦	高知県地域福祉活動支援計画推進委員会副委員長	高知県社会福祉協議会会長
			土佐清水市権利擁護センター「らいとはうす」 権利擁護・成年後見人アドバイザー	土佐清水市社会福祉協議会会長
			日本社会福祉士会近畿ブロック研究・研修和歌山大会査読委員長	近畿ブロック大会実行委員長
			高知県市町村社会福祉協議会連絡会SW養成研修企画会アドバイザー	高知県市町村社会福祉協議会会長
			土佐町社会福祉協議会権利擁護センターオブザーバー	土佐町社会福祉協議会会長
			和歌山県社会福祉士会監事	和歌山県社会福祉士会会長
			和歌山県介護支援専門員指導者	和歌山県介護支援専門員協会会長
			和歌山県介護支援専門員協会法定研修運営委員会委員	和歌山県介護支援専門員協会会長
	助　教	田中　眞希	介護福祉士実習指導者講習会研修企画委員会委員	高知県介護福祉士会会長
			障害者支援施設アドレス・高知　第三者委員	社会福祉法人ミレニアム
			高知県地域救済対策委員	公益財団法人ひかり協会
	助　教	玉利　麻紀	高知県精神医療審査会委員	高知県地域福祉部長
			高知県精神保健福祉協会研修委員	高知県精神保健福祉協会会長
			介護労働安定センター高知支部　ヘルスカウンセラー	公益財団法人介護労働安定センター 高知支部長
			高知県精神保健福祉士協会研修部会委員	高知県精神保健福祉士協会　会長
			社会福祉法人土佐あけぼの会　第三者委員	社会福祉法人土佐あけぼの会 理事長
	助　教	福田　敏秀	高知県公立大学生活協同組合理事	高知県公立大学生活協同組合
			高知市介護保険施設等整備事業者審査委員会委員長	高知市長
			鳥取県介護支援専門員連絡協議会西部支部理事	鳥取県介護支援専門員連絡協議会 西部支部長
			公益財団法人介護労働安定センター雇用管理改善サポーター・ヘルスカウンセラー・介護人材育成コンサルタント	公益財団法人介護労働安定センター 高知支部長
健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	こうち産業振興基金助成対象事業審査会審査員	高知県産業振興センター理事長
			越知町まち・ひと・しごと創生推進会議委員	越知町企画課　事務局
			安芸市立学校給食センター運営委員会委員・アドバイザー	安芸市教育長
			令和3年度「高知県新事業チャレンジ支援事業費補助金審査会」審査員	高知県産業振興センター理事長
			高知県食の安全・安心推進審議会委員	高知県健康政策部長

学部	職　名	氏　　名	審議会・委員会名等	発　令　者
健康栄養学部	特任教授	稲井　玲子	令和4年度（令和3年度実施）高知県公立学校教員採用候補者選考審査第1次審査筆記審査の審査問題研究員	高知県教育委員会事務局教職員・福利課長
			令和4年度（令和3年度実施）高知県公立学校教員採用候補者選考審査筆記審査問題の調査研究員	高知県教育長
			高知県アルコール健康障害対策連絡協議会委員	高知県子ども・福祉政策部長
	准教授	鈴木　麻希子	高知県栄養士会生涯教育委員	高知県栄養士会会長
	准教授	西岡　道子	令和3年日本栄養改善学会四国支部特別シンポジウム運営委員	日本栄養改善学会四国支部
	講　師	島田　郁子	土佐市立学校給食センター運営審議会委員	土佐市教育長
			土佐市社会福祉事業団理事	土佐市社会福祉事業団理事長
			安芸市立学校給食センター運営委員会委員	安芸市教育長
			高知市学校給食調理業務プロポーザル選定委員会委員	高知市教育長
	講　師	竹井　悠一郎	研究倫理委員会委員	医療法人社団湧泉会ひまわり歯科理事長
	講　師	廣内　智子	高知県南海トラフ地震時栄養・食生活支援活動ガイドライン改定検討委員	高知県健康政策部健康長寿政策課長
	助　手	彼末　富貴	令和3年度高知市春野郷土資料館運営審議会委員	高知市民権・文化財課課長
地域教育研究センター	教　授	石山　貴章	令和3年度高知県教科用図書選定審議会委員	高知県教育長
	教　授	一色　健司	渡川流域学識者会議委員	四国地方整備局長
			仁淀川流域学識者会議委員	四国地方整備局長
			物部川流域学識者会議委員	四国地方整備局長
			高知県環境審議会委員	高知県知事
			高知県環境影響評価技術審査会委員	高知県知事
			第11回科学の甲子園高知県大会審査員	高知県教育委員会事務局高等学校課長
			高知県廃棄物処理施設設置審査会委員	高知県知事
			高知市産業廃棄物処理施設設置審議会委員	高知市長
			高知みらい科学館協議会委員	高知市教育委員会高知市教育長
			高知市学校支援地域本部事業推進委員会委員	高知市教育長
			高知市民の大学運営委員	高知市民の大学運営委員会委員長
			新宇治川放水路地下水監視委員会	いの町長
			高知県公立大学生活協同組合理事	高知県公立大学生活協同組合
	教　授	清原　泰治	高知市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員	高知市長
			高知放送番組審議会委員	高知放送代表取締役社長
			香美市振興計画審議会委員	香美市長
			令和3年度スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員	高知県教育長
			佐川町総合計画審議会及び佐川町まち・ひと・しごと創生推進会議委員	佐川町長
			土佐市創生有識者会議委員	土佐市長
			津野町本庁舎整備検討委員会委員	津野町長
			津野町まち・ひと・しごと創生有識者会議委員	津野町長
健康長寿センター	特任准教授	森下　幸子	高知県訪問看護推進協議会委員	高知県健康政策部在宅療養推進課長
			訪問看護ステーション運営委員会、在宅領域看護検討会委員	高知県看護協会長
			高知県重症心身障害児者等支援体制整備協議会委員	高知県子ども・福祉政策部長
			人生の最終段階における医療・ケア検討会議委員	高知県健康政策部医療政策課長

(3) 他大学等非常勤講師応諾

学部	職　名	氏　名	依頼大学等	科目名等	委嘱期間
文化学部	教　授	井上　次夫	高知大学	中等国語科指導法	令和3年4月1日～令和4年3月31日
			高知市文化振興事業団	帰化した中国故事－日本語に溶け込み、日本人に寄り添うことばたち－	令和3年12月10日
	教　授	岩倉　秀樹	高知工科大学	日本国憲法	令和3年9月30日
	教　授	大村　誠	高知市民の大学運営委員会	講演「宇宙からの視線を防災に活用する」	令和4年1月11日
			いの町立吾北小学校	教職員に向けての防災研修	令和4年1月25日
			高知リハビリテーション専門職大学	地域防災論	令和3年4月1日～令和3年9月15日
	教　授	高西　成介	高知大学人文社会学部	中国文学概論Ⅱ	令和3年4月1日～令和4年2月28日
				中国古典文学論基礎論	
			鳴門教育大学	語学・文学総合演習Ⅲ（漢文学）	令和3年4月9日～令和4年3月31日
			広島大学文学部	中国文学語学特講A	令和3年4月8日～令和3年9月30日
			広島大学大学院人間社会科学研究科	中国語学特殊講義B	
	教　授	橋尾　直和	高知県高坂学園生涯大学	活かすゾネ!!土佐ことば	令和3年10月27日
	准教授	菊池　直人	高知工業高等専門学校	法学	令和3年4月1日～令和3年9月30日
			高知県消防学校	法学基礎	令和3年4月1日～令和3年5月31日
	准教授	白岩　英樹	日本キリスト教文学会	文学のことば、聖書のことば	令和3年5月8日
	准教授	田中　裕也	放送大学高知学習センター	教養を深めるセミナー	令和3年4月1日～令和4年3月31日
	准教授	鳥飼　真人	高知市文化振興事業団	高知市文化振興事業団市民講座	令和3年11月10日、17日、24日
	准教授	根岸　忠	放送大学	印刷教材・放送教材の作成	承諾日～令和4年3月31日
看護学部	教　授	畦地　博子	愛媛県立医療技術大学	精神看護学特論Ⅱ	令和3年4月1日～令和4年3月31日
	教　授	池添　志乃	高知学園大学	家庭看護学	令和3年10月1日～令和4年3月31日
	教　授	池田　光徳	高知県立幡多けんみん病院	治療応援	令和3年4月1日～令和4年3月31日
			高知大学	皮膚科学	令和3年10月1日～令和4年3月31日
			高知学園短期大学	治療援助学Ⅰ	令和3年10月1日～令和4年3月31日
			三愛病院	皮膚科治療及び治療の教授	令和3年4月1日～令和4年3月31日
	教　授	瓜生　浩子	関西医科大学大学院	家族看護学	令和3年4月1日～令和4年3月31日
	教　授	木下　真里	兵庫県立大学	グローバルヘルス	令和3年10月1日～令和4年3月31日
	教　授	久保田　聡美	愛媛県立医療技術大学	看護管理学特論	令和3年4月1日～令和4年3月31日
			京都大学	慢性看護学特論Ⅵ	令和3年10月1日～令和4年3月31日
	教　授	竹崎　久美子	高知リハビリテーション専門職大学	生命倫理	令和3年4月1日～令和3年9月15日
			九州大学	看護研究方法論Ⅱ	令和3年4月1日～令和3年9月30日
			高知学園短期大学	災害看護学	令和3年10月1日～令和4年3月31日
	教　授	藤田　佐和	放送大学	がんとともに生きる人の看護ケア	令和3年11月27日～令和3年11月28日
			徳島大学	がん看護学特論Ⅰ	令和3年4月6日～令和3年9月30日
	教　授	山田　覚	兵庫県立大学	保健統計学	令和3年10月1日～令和4年3月31日
			福井大学	災害看護学特論Ⅳ	令和3年4月1日～令和3年9月30日

学部	職　名	氏　名	依頼大学等	科目名等	委嘱期間
看護学部	教　授	渡邊　聡子	高知リハビリテーション専門職大学	生命倫理	令和3年4月1日～令和3年9月15日
			兵庫県立大学看護学研究科	災害看護対象論	令和3年5月18日
	特任教授	神原　咲子	高知大学	リスクマネジメント・クライシスマネジメント	令和3年5月1日～令和4年3月31日
	准教授	川上　理子	高知リハビリテーション専門職大学	地域包括ケア論	令和3年9月16日～令和4年3月31日
	講　師	有田　直子	徳島文理大学	コンサルテーション論	①令和3年12月12日 ②令和3年12月19日 ③令和4年1月23日
	講　師	小澤　若菜	高知大学	地域援助論	令和3年4月16日～令和3年9月30日
	助　教	川本　美香	高知大学	地域援助論	令和3年4月16日～令和3年9月30日
	助　教	塩見　理香	龍馬看護ふくし専門学校	精神看護援助論Ⅰ	令和3年12月16日～令和4年2月18日
	助　教	徳岡　麻由	高知学園短期大学	家族看護学	令和3年10月1日～令和4年3月31日
	助　教	中井　美喜子	高知学園短期大学	家族看護学	令和3年10月1日～令和4年3月31日
	助　教	益　宏実	徳島文理大学	コンサルテーション論	①令和3年12月12日 ②令和3年12月19日 ③令和4年1月23日
	助　教	森本　紗磨美	龍馬看護ふくし専門学校	診療補助技術 看護技術の実際	令和3年4月1日～令和4年3月31日
社会福祉学部	教　授	杉原　俊二	九州保健福祉大学	社会福祉学特殊講義Ⅷ （児童・家族福祉論）	令和3年4月1日～令和4年3月31日
	教　授	田中　きよむ	高知大学	社会保障論	令和3年4月16日～令和3年9月30日
	教　授	西内　　章	高知リハビリテーション専門職大学	対人援助技術論	令和3年4月1日～令和3年9月15日
	教　授	横井　輝夫	吉備国際大学	運動発達学 理学療法技術実習	令和3年4月1日～令和4年3月31日
			吉備国際大学（通信教育）	臨床保健科学特論、生活機能障害理学療法学特論、生活機能障害理学療法学特論演習	令和3年4月1日～令和4年3月31日
	准教授	遠山　真世	高知リハビリテーション専門職大学	障害者の社会環境と制度	令和3年4月1日～令和3年9月15日
	准教授	西梅　幸治	高知リハビリテーション専門職大学	対人援助技術論	令和3年4月1日～令和3年9月15日
			四国中央医療福祉総合学院	地域福祉の理論と方法①②	令和3年4月1日～令和4年3月31日
	准教授	三好　弥生	放送大学	高齢者の終末期ケア	令和3年4月1日～令和3年9月30日
	講　師	加藤　由衣	高知福祉専門学校	社会調査の基礎	令和3年4月1日～令和3年9月30日
	講　師	行貞　伸二	高知学園短期大学	看護と福祉	令和3年4月1日～令和3年9月30日
	助　教	稲垣　佳代	土佐リハビリテーションカレッジ	社会福祉学概論	令和3年10月1日～令和4年3月31日
			高知医療学院	社会福祉学	令和3年9月1日～令和3年9月30日
	助　教	大熊　絵理菜	高知福祉専門学校	相談援助の理論と方法Ⅱ	令和3年4月1日～令和4年3月31日
	助　教	雑賀　正彦	聖カタリナ大学	地域福祉論Ⅰ	令和3年9月21日～令和4年3月31日
			龍馬看護ふくし専門学校	現代社会と福祉	令和3年4月1日～令和4年3月31日
			九州大学九州短期大学通信教育部保育科	相談援助演習	
	助　教	福田　敏秀	龍馬看護ふくし専門学校	社会福祉の原理と政策	令和3年10月1日～令和4年2月28日
			高知大学	健康福祉行政論	令和3年4月16日～令和3年8月31日
健康栄養学部	教　授	小林　淳	電気通信大学	基礎化学実験B	令和3年4月1日～令和3年9月30日
	教　授	渡邊　浩幸	北見工業大学	食品機能化学	令和3年9月21日～令和3年9月24日
	准教授	鈴木　麻希子	高知開成専門学校	生化学	令和3年4月26日～令和3年6月28日
			高知大学	食生活論	令和3年9月1日～令和3年9月30日

学部	職　名	氏　名	依頼大学等	科目名等	委嘱期間
健康栄養学部	講　師	島田　郁子	愛媛大学	子どもの食と栄養	令和3年4月1日～令和3年9月23日
			高知大学	食生活論	令和3年10月1日～令和4年2月28日
			高知学園大学	災害と生活	令和3年10月1日～令和4年3月31日
			RKC調理製菓専門学校	衛生法規、ハラールフード	令和3年4月20日～令和4年2月22日
	講　師	竹井　悠一郎	高知情報ビジネス＆フード専門学校	食品学	①令和3年4月9日～令和3年7月16日 ②令和3年8月25日～令和4年2月2日
	助　教	竹本　和仁	RKC調理製菓専門学校	食生活と健康	令和3年4月～令和4年3月
	助　教	生川　卓弘	高知情報ビジネス＆フード専門学校	栄養学	①令和3年9月13日～令和4年1月31日 ②令和3年9月17日、24日 ③令和3年9月16日、30日
	助　手	彼末　富貴	高知学園大学	調理学実習Ⅰ（基礎） 調理学実習Ⅱ（応用）	令和3年4月1日～令和4年3月31日
地域教育研究センター	教　授	石山　貴章	高知県教育委員会事務局 幼保支援課	子育て支援員研修 「子どもの障害」「特別に配慮を要する子どもへの対応」	【基本】令和3年6月6日～令和3年6月13日 【専門】令和3年6月26日～令和3年6月27日
			高知県教育委員会事務局	「自閉症・情緒障害特別支援学級　授業づくり支援事業」	令和3年6月30日～令和4年3月31日
			高知県立日高特別支援学校	「主体的・対話的で深い学びの視点を生かした授業づくり」	令和3年6月25日
			高知工科大学	特別支援教育概論	令和3年10月1日～令和4年3月31日
			高知県教育センター	心理検査実技等基礎講座Ⅲ(WISC-Ⅳ)	令和3年7月21日
	教　授	清原　泰治	高知大学	スポーツ科学実技	令和3年4月1日～令和4年3月31日
			高知工科大学	レクリエーション論	令和3年4月1日～令和3年9月30日
			高知工科大学	体育理論	令和3年4月1日～令和4年3月31日
	教　授	一色　健司	高知大学	固体化学	令和3年10月1日～令和4年2月28日
	教　授	鈴木　康郎	高知大学	教員免許状更新講習・選択必修科目	令和3年8月
健康長寿センター	特任准教授	森下　幸子	高知病院附属看護学校	在宅看護方法論・演習	令和3年9月1日～令和3年12月31日
			高知リハビリテーション専門職大学	地域包括ケア論	令和3年9月16日～令和4年3月31日
	特任助教	山本　かよ	高知学園短期大学		令和3年9月1日～令和3年12月31日

３ 学外提供用刊行物作成状況

担当部署	名　　称
文化学部	高知県立大学文化学部　思索と実践（改訂版）
	高知県立大学　文化論叢
	文化の力　Vol. 06
	高知県立大学　文化学部　活動記録
	文化学課題研究ゼミナール　概要集
	文化の思索
	中土佐町　ブリ鰤とカツオ鰹のモノ語り　2022
	Humanismus 第33号
看護学部	高知県立大学看護学部・看護学研究科活動報告書
	高知県立大学看護学部・看護学研究科年報
	看護学部パンフレット（受験生向けPR誌）
	看護学部ニュースレター学生生活通信『fure-fure』 8月・2月
	高知県立大学大学院看護学研究科
社会福祉学部	高校生のための公開講座（リーフレット）　6月・9月・11月・1月
	高知県立大学 社会福祉学部(学部パンフレット)
	実習のてびき ―相談援助実習―
	実習のてびき ―精神・社会福祉コース編―
	実習のてびき ―介護福祉実習―
	社会福祉実習報告書(相談援助実習・精神保健福祉援助実習)
	介護福祉実習報告書
	高知県立大学 社会福祉学部報　第23号
健康栄養学部	健康栄養学部　学部報
	始めよう・続けよう減塩生活ガイドブック
	高知あいうえお塩分表
総合情報センター	総合情報センター年報　令和2年度
	高知県立大学紀要　第71巻
	高知県立大学永国寺図書館利用案内リーフレット
	高知県立池図書館利用案内リーフレット
地域教育研究センター	高知県立大学地域教育研究センター報　2020　第9号
	立志社中プロジェクト2021リーフレット
	立志社中 令和2年度活動報告書
	域学共生事業パンフレット
健康長寿センター	高知県立大学健康長寿センター活動報告書
	高知県立大学健康長寿センターパンフレット
	高知県中山間地域等訪問看護師育成講座募集要項
	訪問看護スタートアップ研修　新卒パンフレット
	訪問看護スタートアップ研修　リーフレット
	訪問看護スタートアップ研修　I・Uターンリーフレット

担当部署	名　　称
健康長寿センター	おうちで健康長寿体験型セミナー「高知家、認知症とのつき合い方」リーフレット
	血管病患者を支援する活動手順書　Ver.3
	ヘルスパスポート（健康手帳）
総務課	全学広報誌「Pin+」vol.23～vol.24
	令和2年度学生による授業評価実施報告書
学生・就職支援課	就活ハンドブック2022
	学生生活実態及びニーズ調査　調査結果に基づく対応
入試課	大学案内2022
	大学院案内2022
国際交流課	2021活動報告書Activity Report
	高知で学ぶ世界に通じる心For Students from Overseas
	私費外国人留学生入試学生募集
教務課	学生便覧（学部・大学院・補遺）
教育研究戦略課	令和2年度年報

XII　財務

1　はじめに

本法人は、平成23年4月1日に地方独立行政法人法に基づく公立大学法人となり、今期が第2期中期計画の5年目にあたる第11期目の決算となる。

公立大学法人の会計基準は、企業会計を基本としながらも、主たる業務内容が教育・研究であり、利益の獲得を目的としないなどの特殊性を考慮した「地方独立行政法人会計基準」に基づき作成されるもので、県民をはじめとする利害関係者に、法人の財政状態や運営状況を明らかにするために、作成が義務付けられている。

第34条第1項では、毎事業年度終了後3ヶ月以内に、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、利益の処分又は損失の処理に関する書類等）を、設立団体の長に提出し、承認を得なければならないとされている。

令和3年度の財務諸表上の表記は下記のとおりである。

2　貸借対照表

貸借対照表は、令和4年3月31日現在の、全ての財産（資産、負債・純資産）の状況を示した。

令和3年度の資産総額は、

固定資産が　116億6千8百万円（ 93.7%）

流動資産が　　7億8千1百万円（　6.3%）

　　合計　　124億4千9百万円（100.0%）となっている。

固定資産が資産の93．7%を占め、このうち県からの出資財産が、92億8千2百万円で資産全体の74．6%を占めている。

負債の総額は、17億6千4百万円となっています。

固定負債が　　11億　1百万円

（うち資産見返負債[1]　9億5千8百万円　負債全体の 54.3%）

流動負債が　6億6千3百万円

（うち寄附金債務　　5百万円　同　0.3%）

負債総額のうち、資産の見返として計上し、減価償却処理により費用が発生する都度、取り崩して収益化する資産見返負債が9億5千8百万円と負債全体の54．3%を占め、使途特定寄附金収入のうち来期以降に使用する予定の寄附金債務が、5百万円で0．3%となっている。

純資産の総額は、　　106億8千5百万円で、内訳は

資本金（県からの出資金）が　109億6千5百万円、

資本剰余金が　　△3億6千9百万円

利益剰余金が　　8千9百万円となっている。

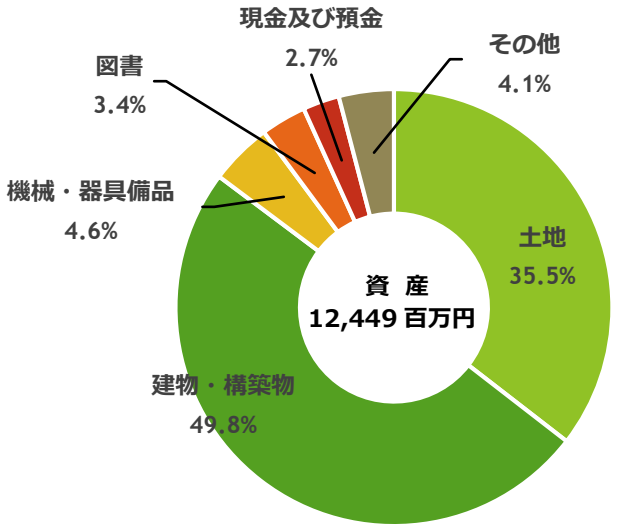
[1]資産見返負債：運営費交付金・寄附金・無償譲与・補助金等の財源で取得した固定資産の見合いで負債に計上され、固定資産の減価償却に伴って、資産見返負債戻入という収益に振替られるもので、資産・負債を均衡させるために必要なものである。

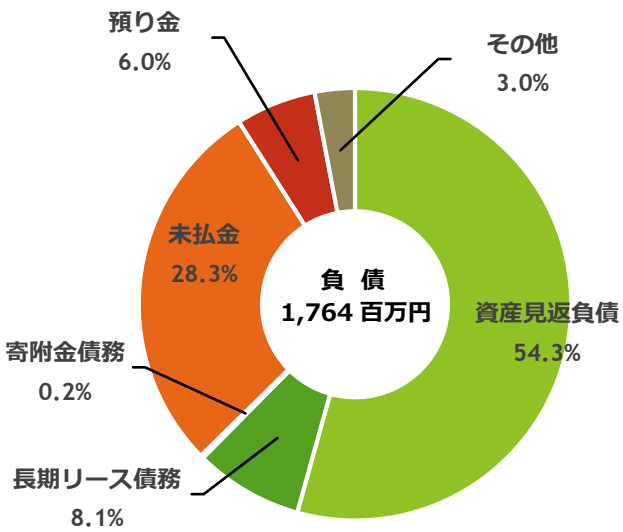
貸借対照表の概要

（単位：百万円）

資産の部	固定資産	有形固定資産	土地	4,417	負債の部	固定負債	資産見返負債	958
			建物	5,980			長期リース債務	143
			機械装置	37			小　計	1,101
			構築物	214		流動負債	寄附金債務	4
			工具器具備品	537			未払金	500
			図書	420			預り金	106
			車両運搬具	3			短期リース債務	53
			美術品・収蔵品	25			小　計	663
			小　計	11,633		合　計③		1,764
		無形固定資産		28	純資産の部	資本金		10,965
		投資その他の資産		7		資本剰余金		▲369
		合　計①		11,668		利益剰余金		89
	流動資産	現金及び預金		337		合　計④		10,685
		その他の流動資産		444				
		合　計②		781				
	資産合計①+②			12,449	負債純資産合計③+④			12,449

※百万円未満切捨て





[2]グラフの作成にあたっては、各項目の金額を百万円未満切り捨ての数値ではなく、実数をもとに算出している。損益計算書のグラフも同様。

3 損益計算書

損益計算書は、当期に発生した目的別費用とそれに対応する収益構造を記載した計算書である。

経常費用の総額は、25億1千8百万円で、内訳は業務費が23億9千万円で、一般管理費が1億2千7百万円、支払利息等の財務費用が1百万円となっている。

業務費23億9千万円の内訳は、

教育研究経費	8億1千3百万円（対経常費用 32.3%）
教育経費	4億8千7百万円
研究経費	1億4千5百万円
教育研究支援経費	1億8千1百万円
受託研究等経費	2千5百万円（対経常費用 1.0%）
受託研究費	2百万円
受託事業費	2千3百万円
人件費	15億5千2百万円（対経常費用 61.6%） ※受託研究・事業費に参入した人件費を除く

経常収益の総額は、　25億8千9百万円で、内訳は

運営費交付金収益	14億8千9百万円（対経常収益　57.5%）
授業料等収益	7億7千2百万円（同 29.8%　授業料、入学金、検定料収入を含む）
受託研究収益	2百万円（同 0.1%）
受託事業等収益	2千3百万円（同 0.9%）
寄附金収益	2千8百万円（同 1.1%）
補助金等収益	1億1千7百万円（同 4.5%）
施設費収益	1百万円（同 0.0%）
資産見返負債戻入	1 億　9百万円（同 4.2%）
財務収益・雑益	4千8百万円（同 1.9%）

経常収益から経常費用を差し引いた経常利益は、7千1百万円となった。

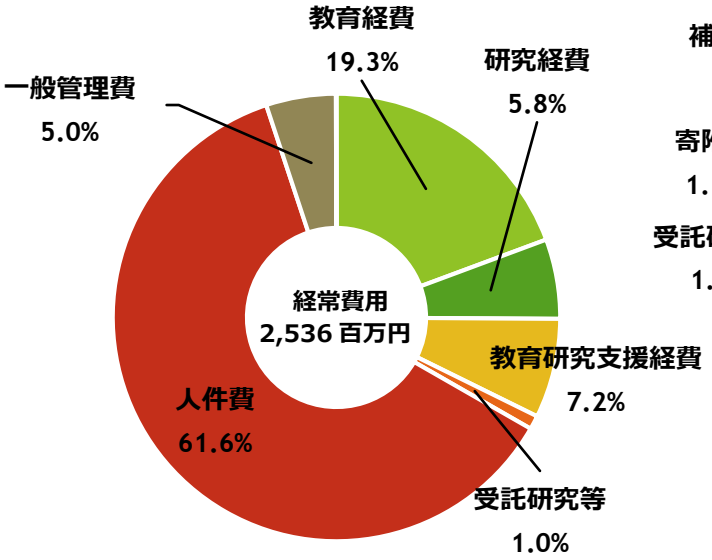
臨時利益が6百万円発生したため、当期純利益は7千7百万円で、目的積立金の取崩しは発生しなかったため、当期総利益も7千7百万円となっている。

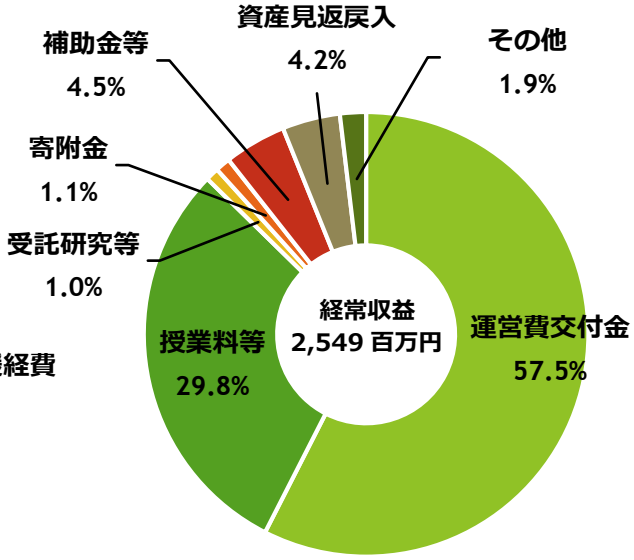
損益計算書の概要

（単位：百万円）

経常費用	業務費	教育経費	487	経常収益	運営費交付金収益	1,489
		研究経費	145		授業料収益	670
		教育研究支援経費	181		入学料収益	81
		受託研究費	2		検定料収益	21
		受託事業費	23		受託研究収益	2
		教員人件費	1,133		受託事業等収益	23
		職員人件費	419		寄附金収益	28
		合　計	2,390		補助金等収益	117
	一般管理費		127		施設費収益	1
	財務費用		1		資産見返負債戻入	109
	合　計		2,518		財務収益・雑益	48
当期総利益			77		合　計	2,589
				臨時利益		6
				合　計		2,595

※百万円未満切捨て





4 その他の主要諸表

① キャッシュ・フロー計算書

損益計算書は発生主義により作成されるため、資金の状況とは一致しないことから、資金の状況を把握するために、業務活動、投資活動、財務活動の区分から、当期の資金収支の状況を示した書類がキャッシュ・フロー計算書である。

キャッシュ・フロー計算書の概要

（単位：百万円）

Ⅰ 業務活動によるキャッシュ・フロー	53
Ⅱ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 24
Ⅲ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 52
Ⅳ 資金増減額	△ 23
Ⅴ 資金期首残高	360
Ⅵ 資金期末残高	337

※百万円未満切捨て

② 利益の処分に関する書類

利益の処分に関する書類は、損益計算上の利益の処分を明らかにするための書類である。公立大学法人における利益処分方法は、公立大学法人が効率的・効果的に事業を実施し、自己収入の増加あるいは費用の節減等により生じた利益として、設立団体の長が承認し翌事業年度以降に大学で自由に使途を決定できる「目的積立金」と翌事業年度以降の損失の補填のみに使途が限定された「積立金」として処分する方法がある。

③ 行政サービス実施コスト計算書

行政サービス実施コスト計算書は、損益計算書上の費用に加え法人運営上コストとなっている損益外減価償却費や機会費用等を計上することにより、県（県民）が負担している全コストを明らかにするための書類である。

行政サービス実施コスト計算書の概要

（単位：百万円）

Ⅰ 業務費用	1,597
(1)損益計算書上の費用	2,518
(2)自己収入等	△921
Ⅱ 損益外減価償却相当額	266
Ⅲ 損益外減損損失相当額	150
Ⅳ 引当外退職給付増加見積額	1
Ⅴ 引当外退職給付増加見積額	41
Ⅵ 機会費用	24
Ⅶ 行政サービス実施コスト	2,079

※百万円未満切捨て

５ 外部資金導入の状況
（1） 科学研究費助成事業交付状況
【科学研究費助成事業交付実績】

研究種目	課題番号	所属名	職名	研究代表者名	研究課題名	新規継続の別	補助事業期間開始	補助事業期間終了	令和3年度の直接経費	令和3年度の間接経費	（参考）研究期間全体の直接経費	（参考）研究期間全体の間接経費
基盤研究(B)	18H03097	看護学部	教授	野嶋 佐由美	脆弱性を抱えた家族のレジリエンスを促進するケアガイドラインと教育プログラムの構築	継続	2018	2021	2,600,000	780,000	13,000,000	3,900,000
基盤研究(B)	18H03120	看護学部	特任教授	神原 咲子	地域の全体最適を目指した減災ケアの可視化とツールの開発	継続	2018	2021	2,800,000	840,000	12,100,000	3,630,000
基盤研究(B)	20H03984	看護学部	教授	藤田 佐和	外来治療する高齢がん患者を支える協働型包括的機能評価に基づく統合ケアモデルの開発	継続	2020	2023	1,400,000	420,000	7,000,000	2,100,000
基盤研究(B)	20H04022	看護学部	教授	山田 覚	災害に関連する専門職者・行政と住民とのリスクコミュニケーションガイドラインの提案	継続	2020	2023	1,700,000	510,000	6,100,000	1,830,000
基盤研究(B)	21H03237	看護学部	教授	大川 宣容	クリティカルケア看護師の緩和ケアコンピテンシー育成プログラムの開発	新規	2021	2024	2,600,000	780,000	5,800,000	1,740,000
基盤研究(B)	21H03254	看護学部	教授	中野 綾美	家族との協働型エンドオブライフケア実践能力を高める看護遠隔教育プログラムの開発	新規	2021	2024	2,800,000	840,000	11,900,000	3,570,000
基盤研究(B)	19H01566	社会福祉学部	教授	田中 きよむ	中山間地域の運転免許返納者を含む移動問題と地域共生拠点を活かした課題解決の探求	継続	2019	2021	2,500,000	750,000	7,000,000	2,100,000
基盤研究(C)	19K01449	文化学部	准教授	清水 直樹	内閣による議会解散権の制約の政策的帰結：政治的景気循環論による研究	継続	2019	2021	400,000	120,000	1,800,000	540,000
基盤研究(C)	20K00040	文化学部	准教授	吉川 孝	ポルノグラフィにおける性的モノ化の哲学的考察――現象学的倫理学からのアプローチ	継続	2020	2022	700,000	210,000	1,900,000	570,000
基盤研究(C)	20K00527	文化学部	教授	高西 成介	「翻訳」「注釈」の創作性とフィクション生成をめぐる学際的・理論的研究	継続	2020	2022	700,000	210,000	2,500,000	750,000
基盤研究(C)	21K00572	文化学部	准教授	金澤 俊吾	英語の形容詞が関わる構文の変則的表現の創出と形成過程に関する実証的、理論的研究	新規	2021	2023	300,000	90,000	1,000,000	300,000
基盤研究(C)	21K02498	文化学部	教授	井上 次夫	オンライン授業におけるICT活用指導技術の習得・運用・評価に関する基礎的研究	新規	2021	2023	900,000	270,000	2,800,000	840,000
基盤研究(C)	21K04455	文化学部	教授	三浦 要一	国宝保存法時代の寺院建築の修理における当初復原に関する基礎的研究	新規	2021	2023	300,000	90,000	900,000	270,000
基盤研究(C)	19K10907	看護学部	教授	森本 悦子	地域の一般病院通院中の後期高齢がん患者への複合的な外来看護支援モデルの検証と評価	継続	2019	2021	700,000	210,000	3,200,000	960,000
基盤研究(C)	19K10955	看護学部	教授	内田 雅子	慢性病者中心のケア・コーディネーション：事例研究法による看護実践理論の構築	継続	2019	2022	400,000	120,000	3,300,000	990,000
基盤研究(C)	19K10987	看護学部	講師	有田 直子	血液・腫瘍疾患を持つ青年のSDMを支援する高度実践看護師の教育プログラムの開発	継続	2019	2022	700,000	210,000	3,300,000	990,000
基盤研究(C)	19K11012	看護学部	講師	岩崎 順子	低出生体重児のFamilyConfidenceを育成する看護介入プログラムの開発	継続	2019	2021	1,000,000	300,000	3,400,000	1,020,000
基盤研究(C)	19K11041	看護学部	助教	中井 美喜子	人工呼吸器を装着した児と家族のヘルスケア機能を増進するためのケアガイドライン開発	継続	2019	2021	500,000	150,000	2,400,000	720,000
基盤研究(C)	19K11091	看護学部	准教授	高谷 恭子	成人期に移行する先天性心疾患と共に生きる子どもと親の軌跡を説明できるモデルの構築	継続	2019	2022	1,100,000	330,000	3,300,000	990,000
基盤研究(C)	19K11254	看護学部	講師	川本 美香	住民による健康な地域づくりを可能にするplace attachmentの解明	継続	2019	2021	400,000	120,000	2,000,000	600,000
基盤研究(C)	19K11279	看護学部	教授	竹崎 久美子	急性期病院に入院中の認知症高齢者に対する効果的ケア・パッケージの開発	継続	2019	2021	500,000	150,000	1,600,000	480,000
基盤研究(C)	20K10610	看護学部	教授	久保田 聰美	看護の質の向上に貢献する看護師のエンゲージメントモデル開発	継続	2020	2022	1,100,000	330,000	3,300,000	990,000
基盤研究(C)	20K10696	看護学部	准教授	森下 幸子	組織学習を支える訪問看護管理者のコンサルテーション力を高める教育支援モデル構築	継続	2020	2022	700,000	210,000	2,800,000	840,000
基盤研究(C)	20K10738	看護学部	講師	井上 正隆	術前の心理的準備性向上による術後認知機能障害を防ぐケアモデルの開発	継続	2020	2022	1,400,000	420,000	3,400,000	1,020,000
基盤研究(C)	20K10811	看護学部	講師	山中 福子	心不全重症化予防に向けたアウトカム評価に基づく患者教育連携プログラム	継続	2020	2023	500,000	150,000	2,400,000	720,000
基盤研究(C)	20K10842	看護学部	教授	池添 志乃	発達障害のある子どもと家族の移行を支える協働型看護ケアガイドラインの開発	継続	2020	2023	1,200,000	360,000	3,400,000	1,020,000
基盤研究(C)	20K10891	看護学部	助教	源田 美香	学童期にある発達障害児の家族の家族ストレングスを促進するケアプログラムの開発	継続	2020	2023	1,600,000	480,000	3,300,000	990,000
基盤研究(C)	20K10914	看護学部	教授	瓜生 浩子	患者・家族と看護者間のコンフリクトの発生・悪化を予防する教育プログラムの開発	継続	2020	2022	900,000	270,000	3,200,000	960,000
基盤研究(C)	20K10915	看護学部	教授	長戸 和子	慢性心不全患者・家族のアドバンス・ケア・プランニング支援ガイドラインの開発	継続	2020	2022	1,100,000	330,000	3,200,000	960,000
基盤研究(C)	20K10944	看護学部	助教	田之頭 恵里	生体肝移植を受けた子どもの心理・社会的フォローアップケアガイドラインの開発	継続	2020	2022	500,000	150,000	2,900,000	870,000

研究種目	課題番号	所属名	職名	研究代表者名	研究課題名	新規継続の別	補助事業期間開始	補助事業期間終了	令和3年度の直接経費	令和3年度の間接経費	（参考）研究期間全体の直接経費	（参考）研究期間全体の間接経費
基盤研究(C)	20K10967	看護学部	教授	畦地 博子	障害文化と健常文化を超えて共創する支援のパターンランゲージ	継続	2020	2023	1,000,000	300,000	3,300,000	990,000
基盤研究(C)	20K11079	看護学部	講師	小澤 若菜	市町村保健師による医療保険者と連携型の高齢者心不全重症化予防プログラムの開発	継続	2020	2022	1,000,000	300,000	2,700,000	810,000
基盤研究(C)	20K11132	看護学部	教授	木下 真里	全被災者の健康状態把握を支援するモバイル・ツール開発研究	継続	2020	2022	1,300,000	390,000	3,300,000	990,000
基盤研究(C)	21K10550	看護学部	助教	塩見 理香	自閉スペクトラム症者の地域生活を支えるための訪問看護ケアの教育プログラム	新規	2021	2024	1,000,000	300,000	2,700,000	810,000
基盤研究(C)	21K10634	看護学部	教授	池田 光徳	ポータブルデバイスおよびAIアプリを用いたポスト・コロナにおける非対面型遠隔看護	新規	2021	2024	700,000	210,000	3,100,000	930,000
基盤研究(C)	21K10663	看護学部	准教授	内川 洋子	遠隔参加型看護マネジメント・リフレクションの実践のための教育プログラムの開発	新規	2021	2023	600,000	180,000	1,700,000	510,000
基盤研究(C)	21K10695	看護学部	助教	坂元 綾	2型糖尿病患者の足病変予防のセルフモニタリング促進看護支援ガイドラインの開発	新規	2021	2024	700,000	210,000	2,500,000	750,000
基盤研究(C)	21K10724	看護学部	助教	益 宏実	脳卒中患者の主体的な療養行動を引き出す看護のわざモデルの開発	新規	2021	2023	500,000	150,000	1,000,000	300,000
基盤研究(C)	21K10921	看護学部	准教授	嶋岡 暢希	周産期医療施設における両親を対象とした産婦健診ケアモデルの開発と検証	新規	2021	2023	1,000,000	300,000	2,200,000	660,000
基盤研究(C)	21K11009	看護学部	助教	竹中 英利子	慢性腎臓病患者のサインマネジメントを支援する外来看護師教育プログラムの開発	新規	2021	2024	600,000	180,000	1,700,000	510,000
基盤研究(C)	21K11031	看護学部	教授	田井 雅子	認知症の人と家族の家族の伴走を支援する家族看護援助モデルの開発	新規	2021	2024	800,000	240,000	3,100,000	930,000
基盤研究(C)	19K02191	社会福祉学部	助教	玉利 麻紀（平井麻紀）	社会的マイノリティへの偏見軽減要因の探索　無関心という壁を越えるために	継続	2019	2021	600,000	180,000	2,200,000	660,000
基盤研究(C)	20K02212	社会福祉学部	准教授	西梅 幸治	エンパワメント志向ジェネラル・ソーシャルワークにおける協働アセスメント方法の構築	継続	2020	2022	900,000	270,000	1,700,000	510,000
基盤研究(C)	20K02267	社会福祉学部	教授	長澤 紀美子	クィア視点に基づく性的指向・性自認に関する社会福祉士養成教育プログラムの開発	継続	2020	2022	1,000,000	300,000	3,000,000	900,000
基盤研究(C)	21K01950	社会福祉学部	助教	福田 敏秀	高齢者の在宅介護推進の障壁「介護者の阻害要因」への適切なアセスメント方法の開発	新規	2021	2023	600,000	180,000	1,500,000	450,000
基盤研究(C)	21K11680	健康栄養学部	講師	竹井 悠一郎	破骨細胞様細胞を標的とした炎症性腸疾患の新規栄養療法の開発	新規	2021	2023	1,000,000	300,000	3,200,000	960,000
基盤研究(C)	21K11704	健康栄養学部	助教	隅田 有公子	経腸栄養剤の粘性付加に関する検討	新規	2021	2024	1,100,000	330,000	3,100,000	930,000
基盤研究(C)	20K02611	地域教育研究センター	教授	鈴木 康郎	東南アジア諸国における「多様な価値の共存」を目指す道徳教育の比較研究	継続	2020	2022	1,100,000	330,000	3,300,000	990,000
若手研究	20K12924	文化学部	准教授	田中 裕也	三島由紀夫文学における思想系テクストの受容と実践に関する研究	継続	2020	2023	500,000	150,000	1,900,000	570,000
若手研究	21K12829	文化学部	准教授	オバーグ アンドリュー	An Image-Concept Phenomenological Analysis of Religion: Resituating Christianity within Judaism – Ontics and Ontology	新規	2021	2022	400,000	120,000	900,000	270,000
若手研究	18K17512	看護学部	准教授	藤代 知美	統合失調症患者の在宅生活を支援する看護師の交渉コンピテンシー育成プログラムの開発	継続	2018	2021	800,000	240,000	3,100,000	930,000
若手研究	18K17646	看護学部	教授	渡邊 聡子	ICTを用いた妊婦の災害への備えを促進するための介入の効果検証	継続	2018	2021	400,000	120,000	3,300,000	990,000
若手研究	19K19740	看護学部	講師	小原 弘子	難治性褥瘡への多職種在宅褥瘡ケアのマネジメントに向けたアセスメントツールの開発	継続	2019	2021	800,000	240,000	2,300,000	690,000
若手研究	20K19063	看護学部	助教	神家 ひとみ	ICUにおける人工呼吸器装着患者の集中治療後症候群予防のケアガイドライン開発	継続	2020	2023	200,000	60,000	1,600,000	480,000
若手研究	18K12999	社会福祉学部	准教授	福間 隆康	障がいのある従業員の組織適応プロセスに関する研究	継続	2018	2021	100,000	30,000	1,500,000	450,000
若手研究	19K14071	社会福祉学部	准教授	河内 康文	介護現場リーダーの越境的学習に基づく職場学習の実証研究－混合研究法に基づく分析－	継続	2019	2021	100,000	30,000	1,300,000	390,000
若手研究	20K13673	社会福祉学部	講師	辻 真美	ホームヘルパーが利用者から受けているハラスメントの実態と要因に関する研究	継続	2020	2022	400,000	120,000	900,000	270,000
若手研究	20K13826	社会福祉学部	准教授	三好 弥生	終末期に至る要介護高齢者の食事摂取困難に対する食事ケアモデルの有用性に関する研究	継続	2020	2022	400,000	120,000	900,000	270,000
研究活動スタート支援	20K23138	看護学部	助教	中井 あい	中山間地域の独居高齢者の食環境アクセシビリティに着目したスクリーニングシート開発	継続	2020	2021	800,000	240,000	1,800,000	540,000
合　計									54,400,000	16,320,000	189,000,000	56,700,000

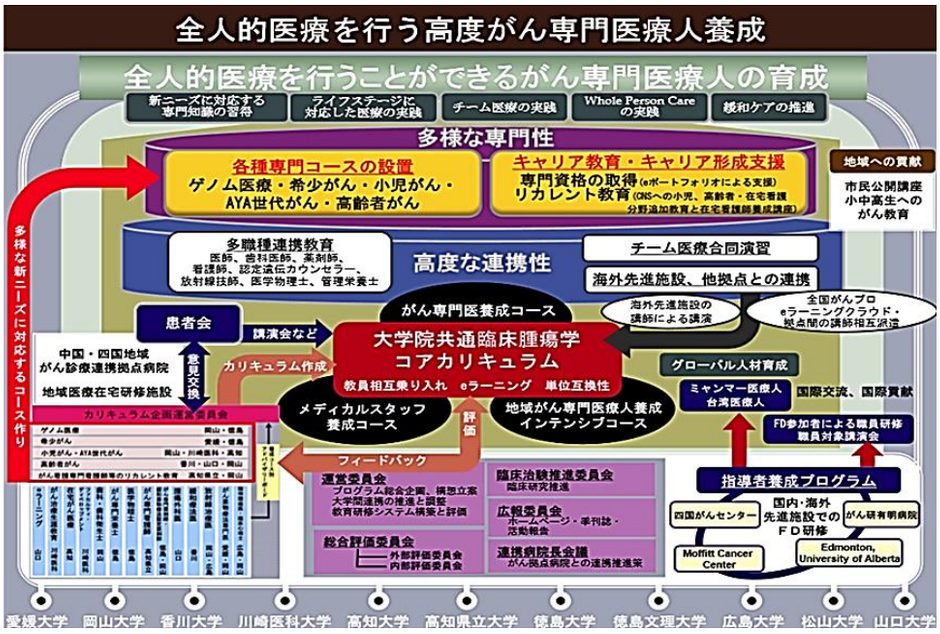
※令和3年度科研費に関し日本学術振興会へ実績報告書・実施状況報告書を提出した研究課題について、研究種目・学部・課題番号順に掲載（R3年度に繰越・延長された課題は除く）。なお、令和3年度の直接経費・間接経費は実際の入金額を（調整金は含まない）、研究期間全体の直接経費・間接経費は交付内定時の金額を、職名は実績報告書・実施状況報告書記載の職名を掲載。

（2）【「全人的医療を行う高度がん専門医療人養成」プロジェクト】

●事業目的

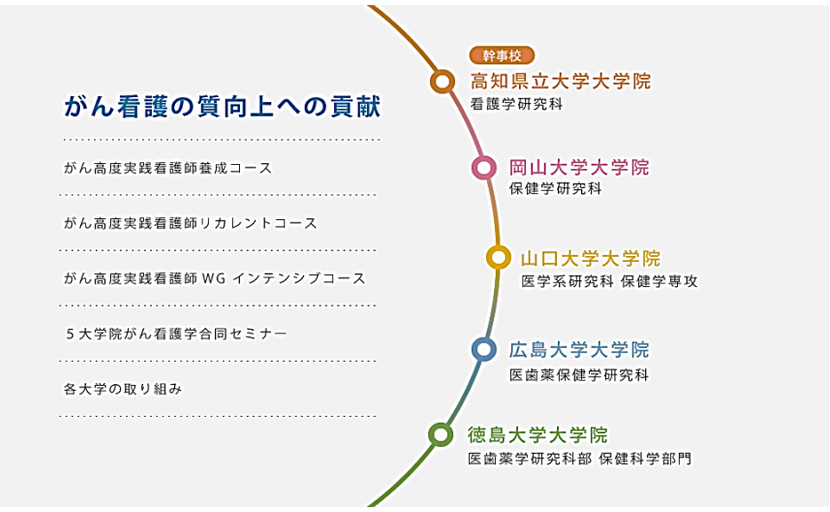
「全人的医療を行う高度がん専門医療人養成」プロジェクトは、中国・四国地方の岡山大学、香川大学、徳島大学、徳島文理大学、高知県立大学、高知大学、愛媛大学、松山大学、山口大学、広島大学、川崎医科大学の11の大学院と、35のがんセンター・がん診療連携拠点病院が参加する多職種の高度がん専門医療人養成の教育プログラムです。平成19年度に始まった「中国・四国広域がんプロ養成プログラム」、平成24年度からの「中国・四国がんプロ養成基盤プログラム」を経て、平成29年度から第3期事業へ発展しています。

平成29年度以来5年間行われた第3期事業では、第3期がん対策推進基本計画に盛り込まれるゲノム医療の実用化、小児および希少がんに対するがん医療、さらにAYA（Adolescent and Young Adult）世代や高齢者などのライフステージに応じたがん対策など、新たな視点から優れたがん専門医療人を育成し輩出することを目指してきました。



本学は、中国・四国広域がんプロコンソーシアムに参加し、がん高度実践看護師養成WGの幹事校として活動しています。最初の5年間は、岡山大学、徳島大学とともにがん看護専門看護師WGとして取り組み、コンソーシアム内のがん看護専門看護師養成の教育課程を整備し、中国・四国の看護職の進学の機会を増やすとともに、チーム医療を推進していくがん看護専門看護師の存在意義や専門性、活動内容の理解促進に成果をあげてきました。平成24年度からは、広島大学と山口大学が加わった5大学のWGの幹事校として、がん高度実践看護師の養成をはじめ、インテンシブコースⅠ、インテンシブコースⅡを企画し、看護職の看護実践能力の向上に貢献してきました。

平成29年度からは、“小児がんの子どものケア”、“高齢者がん患者の治療とケア”に焦点を当て、教育プログラムを実施しています。また、中国・四国の実情に沿ったライフステージの多様な新ニーズに応える看護の質向上を推進する看護師、質の高い高齢がん患者のケアを創造していく訪問看護師を養成する教育コースを、5大学との連携、地域の保健医療福祉の関連機関との連携体制を強化し、多職種の方々のご支援を得て開講しています。子どもから高齢者までのライフステージやがんの特性を考慮して、Cancer Trajectoryをたどる人の新ニーズを捉えて対応することのできる高度実践看護師の育成や、すでに実践で活躍されている専門看護師や認定看護師の新ニーズに対応する力を高めるリカレント教育を展開しています。



●事業内容

担当教員

学　部	職 名	氏 名
看護学部	教　授	藤田 佐和
	教　授	池田 光徳

事業費

年度	交付金額
令和3年度	2,203千円

●がん高度実践看護師教育課程におけるCNS養成と認定の実績

年度	入学者数	修了者数	CNS認定数
平成24年度	5	4	4
平成25年度	2	5	4
平成26年度	1	2	5
平成27年度	3	1	3
平成28年度	2	2	1
平成29年度	4	1	0
平成30年度	2	4	1
平成31年度	2	1	2
令和2年度	2	3	1
令和3年度	1	1	5

●インテンシブコースⅡ

平成24年度からスタートしたがん高度実践看護師WGでは、がん医療の実践現場において質の高いがん看護実践を推進していく中心的存在となる看護職を育成することを目的に、中国・四国のがん看護実践に携わる看護職の方を対象としたインテンシブコースⅡを企画しています。

インテンシブコースⅡでは、5年間の全体テーマを「がん患者のライフステージの様々な新ニーズに応える高度な看護実践の展開」とし毎年テーマを変えて講演会を開催します。令和3年度は、「高齢がん患者のアドバンス・ケア・プランニング」をテーマにWeb配信による講演会を開催し、261人が受講しました。

●がん高度実践看護師（APN）コースⅠ

本学看護学研究科博士前期課程がん看護学およびその他の領域のCNSコースの学生を対象に、がん高度実践看護師の養成および、がん看護をサブスペシャリティーとする高度実践看護師の養成を目指し、APNコースⅠを開講し、5人が受講しました。

●がん高度実践看護師（APN）コースⅡ

専門看護師、修士課程修了生、がん看護、小児看護、老年看護に関連する認定看護師を対象に、小児から高齢者までのライフステージやがんの特性を考慮し、がんとともに生きる人とその家族の健康と生活に関わるニーズに応えられる、専門性の高い実践ができる看護師の養成を目指し、4科目合計60時間の講義・演習を開講し、31人が受講しました。

●がん高度実践看護師（APN）セミナー

本学がん看護学領域を修了し、高知県内で活躍するがん看護専門看護師から、高度な看護実践の実際と6つの役割機能について学び、自己のがん高度実践看護師（APN）像を形成していく機会を得ることを目的として令和3年度は7回セミナーをWeb開催しました。

●がん看護学領域特別講義

本学看護学研究科のがん看護学領域では、大学院生や修了生を対象とした特別講義を開催しています。特別講義では、修了生が後輩である大学院生や修了生に対して、修了後の役割開発のプロセスや日頃のOCNSとしての実践活動について語る機会を9月に1回オンライン開催し、12人参加しました。

●チーム医療合同演習

11大学院のがんプロ大学院生が集まり、がん医療に関するテーマについて多職種でディスカッションを行うことで、チーム医療や多職種コミュニケーションの重要性についての学びを深める第13回チーム医療合同演習に参加しました。「高齢者のがん治療」をテーマに昨年に引き続き、オンラインでの開催となりました。

●がん看護合同セミナーⅠ

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムのがん看護専門看護師養成WGである5大学（高知県立大学・岡山大学・徳島大学・広島大学・山口大学）のがん高度実践看護師コースの大学院生を対象として、徳島大学が企画・運営を担当しているがん看護学合同セミナーⅠ「がん患者におけるリンパ浮腫の病態生理と症状マネジメントの実際」に参画しました。

●アストラルの会

高知県立大学大学院看護学研究科がん看護学領域修了生の会「アストラル」は、がん看護の質向上のための自己研鑽、情報交換 、修了生のネットワークづくりの充実を図ることを目的として、①学習会の開催、②メンターシップ、③メーリングリスト等による情報共有、④学会参加、⑤研究、⑥ホームページ・アストラルのブログ作成の活動を行っています。令和3年度は事例検討を通して学習会をオンラインで2回開催しました。

（3） 奨学寄附金受入状況（過去5年間分）

平成29年度 （単位：円）

	寄附を受けた者			金　額	寄　附　者	研　究　題　目
1	社会福祉学部	講　師	福間　隆康	640,000	ひと・健康・未来研究財団	精神障害者の就労継続に関する研究　－自己効力感に着目して
2	健康栄養学部	教　授	小林　　淳	200,000	高銀地域経済振興財団	高知県特産品のブランド価値を維持・上昇させるための含有量等分析法の確立
合計		2件		840,000		

平成30年度 （単位：円）

	寄附を受けた者			金　額	寄　附　者	研　究　題　目
1	看護学部	教　授	神原　咲子	2,200,000	Yahoo!基金	誰も取り残さない減災ケアの地図化と社会化
2	看護学部	教　授	山田　　覚	2,000,000	Yahoo!基金	災害看護支援ネットワークの構築・維持と効率的な運用
3	看護学部	助　教	小原　弘子	700,000	公益信託 高知新聞・高知放送 「生命（いのち）の基金」	在宅療養に関わる医療・介護職への急変対応スキル向上に向けた取り組み
4	健康栄養学部	講　師	竹井　悠一郎	1,000,000	公益財団法人 日本栄養・食糧学会	動脈瘤発症の予防と治療を目指した食品に関する基礎研究
合計		4件		5,900,000		

令和元年度 （単位：円）

	寄附を受けた者			金　額	寄　附　者	研　究　題　目
1	文化学部	准教授	根岸　　忠	1,000,000	公益財団法人 ユニベール財団	公的扶助と私的扶助の関係をめぐる日台比較法研究
合計		1件		1,000,000		

令和2年度 （単位：円）

	寄附を受けた者			金　額	寄　附　者	研　究　題　目
1	看護学部	准教授	川上　理子	200,000	高銀地域経済振興財団	高齢者の在宅看取りに対する自己効力感と先行要因の明確化
合計		1件		200,000		

令和3年度 （単位：円）

	寄附を受けた者			金　額	寄　附　者	研　究　題　目
1	健康栄養学部	講師	島田　郁子	200,000	高銀地域経済振興財団	健康と減災を目指した持続可能な食とくらしの探求
2	健康栄養学部	准教授	鈴木　麻希子	100,000	コネル・ブラザーズ・ジャパン株式会社	縮合リン酸の分析等に関する専門的助言・指導
3	健康栄養学部	講師	竹井　悠一郎	900,000	公益信託 高知新聞・高知放送 「生命（いのち）の基金」	破骨細胞様細胞を標的とした潰瘍性大腸炎患者の重症化に関連する腸内細菌および代謝産物の網羅的解析
合計		3件		1,200,000		

（4）受託研究費受入状況（過去5年間分）

平成29年度

（単位：円）

	研究者			金　額	委託者	研　究　題　目	期間
1	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	5,564,000	株式会社協和 株式会社あさの	生姜と体温上昇に関する研究	平成29年3月1日－ 平成31年3月31日
2	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	6,053,723	高知県	食用カンナの多分野活用の研究	平成29年4月1日－ 平成30年3月31日
3	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	500,000	公益財団法人 高知県牧野記念財団	牧野富太郎博士ゆかり植物の高度利用による食品・健康・観光産業の創出	平成29年4月1日－ 平成30年3月31日
4	文化学部	教　授	大村　　誠	144,000	情報・システム研究機構 国立極地研究所	合成開口レーダ（SAR)データの偏波特性に着目した南極域の観測手法の高度化	平成29年4月1日－ 平成32年3月31日
5	社会福祉学部	講　師	鳩間亜希子	1,600,000	NPO法人介護人材 キャリア開発機構	在宅高齢者を支える介護人材のあり方等についての調査研究事業	平成29年7月1日－ 平成30年2月28日
6	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	3,000,000	株式会社協和	ブタ由来プラセンタ及びサイタイの生理活性評価	平成30年1月5日－ 平成30年3月30日
合計		6件		16,861,723			

平成30年度

（単位：円）

	研究者			金　額	委託者	研　究　題　目	期間
1	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	5,949,012	高知県	食用カンナの多分野活用の研究	平成30年4月1日－ 平成31年3月31日
2	地域教育研究センター 文化学部 文化学部	教　授 准教授 准教授	清原　泰治 宇都宮千穂 清水　直樹	1,231,956	安芸市	「安芸市少子化対策強化基本計画策定のための調査・研究委託業務」	平成30年5月1日－ 平成31年3月29日
3	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	605,715	株式会社アミノエース	イタドリ葉部含有ポリフェノールの機能性	平成31年1月22日－ 平成31年1月25日
合計		3件		7,786,683			

令和元年度

（単位：円）

	研究者			金　額	委託者	研　究　題　目	期間
1	看護学研究科 看護学部 看護学部	教　授 教　授 准教授	神原　咲子 山田　　覚 木下　真里	2,500,000	国立大学法人 大阪大学	災害対応に資するPLRの事前整備と利用モデルの検討	平成31年4月1日－ 令和2年3月31日
2	文化学部	准教授	根岸　　忠	1,000,000	公益財団法人 日本台湾交流協会	外国人労働者受入れをめぐる労働市場法政策の日台比較－外国人非熟練労働者に焦点をあてて	平成31年4月1日－ 令和2年3月31日
3	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	1,940,000	株式会社　協和	生姜摂取後の血流に関する研究	令和元年11月1日－ 令和2年3月31日
合計		3件		5,440,000			

令和2年度

（単位：円）

	研究者			金　額	委託者	研　究　題　目	期間
1	看護学研究科	教　授	神原　咲子	2,500,000	国立大学法人 大阪大学	災害対応に資するPLRの事前整備と利用モデルの検討	令和2年4月1日－ 平成3年3月31日
2	健康栄養学部	教　授	稲井　玲子	495,880	高知県	令和2年度食生活実態調査事業	令和2年11月11日－ 平成3年3月31日
合計		2件		2,995,880			

令和3年度

（単位：円）

	研究者			金　額	委託者	研　究　題　目	期間
1	看護学研究科	教　授	神原　咲子	1,560,000	国立研究開発法人 科学技術振興機構	SAWACHI型健康社会共創拠点	令和3年4月1日－ 令和5年3月31日
2	看護学研究科	教　授	神原　咲子	400,000	公益財団法人 地球環境戦略研究機関	Case Study Research on COVID19	令和3年5月1日－ 令和4年6月30日
3	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	600,000	高知大学	褐毛和種高知系の肉質・ブランド力強化事業	令和3年5月27日－ 令和6年3月31日
4	看護学部	准教授	佐東　美緒	858,000	一般社団法人 放送大学教育振興会	対面・遠隔ハイブリッド型看護学教育に向けた教育要件の検討－学生・教員双方の視点からの分析－	令和3年7月13日－ 令和4年3月31日
合計		4件		3,418,000			

（5）受託事業費受入状況（過去5年間分）

平成29年度

（単位：円）

	代表教員			金　額	委託者	業務名	期間
1	看護学部	教　授	森下　安子	8,967,000	高知県	退院支援事業	平成29年4月25日－ 平成30年3月31日
2	看護学部	教　授	森下　安子	3,425,000	高知県	平成29年度高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	平成29年5月19日－ 平成30年3月31日
3	社会福祉学部	講　師	河内　康文	2,934,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	平成29年6月6日－ 平成30年3月31日
合計		3件		15,326,000			

平成30年度

（単位：円）

	代表教員			金　額	委託者	業務名	期間
1	看護学部	教　授	森下　安子	13,950,000	高知県	退院支援事業	平成30年4月1日－ 平成31年3月31日
2	地域教育研究センター	教　授	清原　泰治	1,231,956	安芸市	安芸市少子化対策強化基本計画策定のための調査・研究委託業務	平成30年5月1日－ 平成31年3月29日
3	社会福祉学部	講　師	河内　康文	2,934,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	平成30年6月1日－ 平成31年3月31日
4	看護学部	教　授	森下　安子	2,719,000	高知県	平成30年度高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	平成30年6月4日－ 平成31年3月31日
合計		4件		20,834,956			

令和元年度

（単位：円）

	代表教員			金　額	委託者	業務名	期間
1	看護学部	教　授	森下　安子	16,233,000	高知県	退院支援事業	平成31年4月1日－ 令和2年3月31日
2	看護学部	教　授	内田　雅子	1,960,000	高知県	糖尿病保健指導連携体制構築事業	平成31年4月19日－ 令和2年3月31日
3	社会福祉学部	講　師	河内　康文	3,512,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	令和元年5月13日－ 令和2年3月31日
4	看護学部	教　授	森下　安子	2,719,000	高知県	令和元年度高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	令和元年6月25日－ 令和2年3月31日
合計		4件		24,424,000			

令和2年度

（単位:円）

	代表教員			金　額	委託者	業務名	期間
1	看護学部	教 授	森下 安子	13,749,000	高知県	退院支援事業	令和2年4月1日- 令和3年3月31日
2	看護学部	教 授	内田 雅子	4,492,020	高知県	糖尿病保健指導連携体制構築事業	令和2年4月6日- 令和3年3月31日
3	看護学部	教 授	森下 安子	2,100,000	高知県	令和2年度高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	令和2年8月11日- 令和3年3月31日
合計		3件		20,341,020			

令和3年度

（単位:円）

	代表教員			金　額	委託者	業務名	期間
1	看護学部	教 授	森下 安子	13,979,000	高知県	退院支援事業	令和3年4月1日- 令和4年3月31日
2	看護学部	教 授	内田 雅子	5,472,038	高知県	糖尿病保健指導連携体制構築事業	令和3年4月1日- 令和4年3月31日
3	看護学部	教 授	森下 安子	2,770,000	高知県	令和3年度高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	令和3年6月24日- 令和4年3月31日
合計		3件		22,221,038			

（6）その他受入状況（過去5年間分）

平成29年度 （単位：円）

	研究者	金　額	相手先	事業名	期間
1	森下　安子	20,000,000	高知県	平成29年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	平成29年4月1日－平成30年3月31日
合計	1件	20,000,000			

平成30年度 （単位：円）

	研究者	金　額	相手先	事業名	期間
1	森下　安子	20,000,000	高知県	平成30年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	平成30年4月1日－平成31年3月31日
合計	1件	20,000,000			

令和元年度 （単位：円）

	研究者	金　額	相手先	事業名	期間
1	森下　安子	20,000,000	高知県	平成31年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	平成31年4月1日－令和2年3月31日
2	渡邊　浩幸	13,200,000	高知県	“IoP（Internet of Plants）”が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化	平成31年4月1日－令和2年3月31日
3	渡邊　浩幸	400,000	高知県牧野記念財団	牧野富太郎博士ゆかり植物の高度利用による食品・健康・観光産業の創出	平成31年4月1日－令和2年3月31日
4	渡邊　浩幸	500,000	株式会社ファンケル	コーン由来のASG含有抽出物の内臓脂肪増加と血中LDL上昇の抑制効果の検証	令和元年11月1日－令和2年3月31日
合計	4件	34,100,000			

令和2年度 （単位：円）

	研究者	金　額	相手先	事業名	期間
1	渡邊　浩幸	13,200,000	高知県	“IoP（Internet of Plants）”が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化	令和2年4月1日－令和3年3月31日
2	清原　泰治	1,817,000	文部科学省	持続的な産学共同人材育成システム構築事業	令和2年4月1日－令和3年3月31日
3	藤田　佐和	3,858,000	文部科学省	多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材養成プラン」事業	令和2年4月1日－令和3年3月31日
4	森下　安子	20,000,000	高知県	令和2年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	令和2年4月1日－令和3年3月31日
5	河内　康文	3,512,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	令和2年4月1日－令和3年3月31日
合計	5件	42,387,000			

令和3年度　　（単位：円）

	研究者	金　額	相手先	事業名	期間
1	渡邊　浩幸	13,200,000	高知県	“IoP（Internet of Plants）”が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化	令和3年4月1日－令和4年3月31日
2	清原　泰治	1,817,000	文部科学省	持続的な産学共同人材育成システム構築事業	令和3年4月1日－令和4年3月31日
3	藤田　佐和	2,203,000	文部科学省	多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材養成プラン」事業	令和3年4月1日－令和4年3月31日
4	森下　安子	20,000,000	高知県	令和3年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	令和3年4月1日－令和4年3月31日
5	河内　康文	3,812,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	令和3年4月1日－令和4年3月31日
合計	5件	41,032,000			

６ 学長助成事業等の状況

【学長助成事業実績 】

（単位：千円）

事業名	助成費	備　考
新型コロナウイルス感染症に係る専門職の応援派遣業務	2,000	
学部学生教育費追加配分	806	
粘弾性測定装置レオメーター一式の調達	9,878	
ポータブルガスモニター一式の調達	3,884	
看護棟視聴覚室改修工事	3,344	
合　　計	19,912	

【戦略的研究推進プロジェクト事業実績 】

（単位：千円）

事業内容	助成費	備　考
高知県立大学の学術研究の充実及び高知県の課題解決を目指し、特に重点的に本学を特徴づけるテーマ1～5のいずれかにおいて、教育研究力を格段に高めようとする取り組みに対し、経費を補助することにより、教育・研究のイノベーションを促すことを目指す。	3,695	
合　　計	3,695	

XIII　キャンパス

１ 土　地

（単位：㎡）

	区　　分	所　在　地	面　積
1-1	校舎敷地（図書館、体育館、学生会館）	高知市永国寺町5番15号	11,313.84
1-2	校舎敷地（地域連携棟）	高知市永国寺町6番28号	3,115.98
1-3	校舎敷地（教育研究棟）	高知県高知市永国寺町91番	7,406.09
1-4	校舎敷地	高知市池2751-1	31,586.00
1-5	運動場敷地	高知市池2532-2	9,620.00
1-6	多目的広場・大学駐車場	高知市池2469-1	23,963.00
1-7	学生寮教職員宿舎敷地	高知市東石立町17番2号	2,653.72
1-8	池教員宿舎敷地	高知市池2160-1	3,226.00
1-9	朝倉教員宿舎敷地	高知市朝倉本町1丁目210-3	247.03
1-10	鴨部教員宿舎敷地	高知市鴨部字天神ノ前1258-1	568.51
1-11	幸町教員宿舎	高知県高知市幸町36番2、3	306.01
1-12	その他（法面等）	高知市池2155-1　ほか	10,947.70
	計		104,953.88

２ 建　物

（単位：㎡）

	区　　分	所　在　地	面　積
2-1	南校舎（地域連携棟）	高知市永国寺町6番28号	3,135.89
2-2	教育研究棟	高知市永国寺町2番22号	14,821.49
2-3	図書館	高知市永国寺町5番15号	2,057.36
2-4	学生会館	〃	952.46
2-5	食堂兼体育館	〃	2,690.78
2-6	自転車置場	〃	134.00
2-7	校　舎	高知市池2751-1	12,565.89
2-8	体育館	〃	3,337.16
2-9	自転車置場	〃	262.50
2-10	グランド内トイレ等	高知市池2751-1	67.20
2-11	学生寮	高知市東石立町17番2号	1,173.02
2-12	東石立宿舎	〃	684.48
2-13	東城山宿舎	〃	746.76
2-14	朝倉教員宿舎	高知市朝倉本町1丁目210-3	134.02
2-15	鴨部教員宿舎	高知市鴨部字天神ノ前1258-1	278.60
2-16	幸町教員宿舎	高知県高知市幸町36、37番2	306.01
2-17	池教員宿舎	高知市池2160-10	1,116.19
	計		44,463.81